

令和5年度 文部科学省委託事業

地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築事業

(COREハイスクール・ネットワーク構想)

新潟の未来を SaGaSu プロジェクト

調査研究報告書 (第3年次)



新潟県教育委員会

令和6年3月

はじめに

新潟県教育庁高等学校教育課
課長 市野 正廣

新潟県教育委員会では、令和3年度に文部科学省委託事業「地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワークの構築（CORE ハイスクール・ネットワーク構想）」に採択されたことを受け、「新潟の未来を SaGaSu プロジェクト」として、離島や中山間地域に立地する高等学校、中等教育学校の教育環境の改善や充実を図ることを目指した実証研究に取り組んできました。

ネットワークを構成する学校は、佐渡島内に立地する佐渡高校、佐渡高校相川分校、羽茂高校、佐渡総合高校、佐渡中等教育学校の5校に加え、県東部の阿賀町に立地する阿賀黎明高校、そして、配信拠点である新潟翠江高校通信制課程の計7校です。

本県では、急速な人口減少を背景に、県立高校等の小規模化が進んでおり、令和6年度募集学級計画では、県立高校等全日制課程78校のうち3学級以下の学校が約47%を占めるという状況となっています。小規模校では開設される科目や生徒同士の交流の機会が制限されるため、本プロジェクトにおいて、ICTを活用した双方向型の「遠隔授業」、探究活動を中心とした「学校間連携」、コンソーシアム構築をとおした「地域との連携・協働」を3つの柱として取り組むことで教育環境の充実について実証研究を行ってきました。

「遠隔授業」については、今年度は単位認定を伴う通年の授業を延べ16科目にわたり実施しました。これまでの実践の蓄積を活かしながら、合同授業や実技系科目の実施、外部指導者との連携による専門的指導の実施など、新たな取組にも挑戦してきました。

「学校間連携」については、300人を超える生徒によるオンライン合同探究発表会などをとおして、生徒たちが主体となって、自分たちで学んだことを共有し合うとともに、協力して学びを進める体制をつくることができました。

さらに、「地域との連携・協働」については、地元自治体や企業・団体等とで探究的な学びやキャリア教育の充実に向けた支援体制を構築することで、生徒が多様な関わり合いを持ちながら、地域への理解や郷土愛を深めながら、課題解決に向けて取り組むことができました。

この報告書は、第3年次の取組及び成果と課題、そして3年間の取組の総括と事業終了後の体制の構築などについて取りまとめたものです。指導委員会では、これまでの取組を評価していただく一方で、「本プロジェクトの成果は、離島や中山間地域に限らず、全県的な教育環境の充実に活かすべき」との指導・助言もいただいています。本プロジェクトは、今年度で3年間の事業期間を終えることとなりますが、これまでの取組の成果を踏まえ、引き続き、本県教育のさらなる充実に向けた取組を進めていきたいと思えます。

終わりに、本プロジェクトの様々な取組にご支援、ご協力をいただいた皆様にあらためてお礼を申し上げ、「調査研究報告書」巻頭の挨拶といたします。

【目次】

第1章 3か年の調査研究計画と第1・2年次の取組

I 調査研究の背景（現状と課題）	2
II 調査研究の目的	3
III ロードマップ	4
IV 第1年次（令和3年度）の取組	5
V 第2年次（令和4年度）の取組	8
VI 第3年次（令和5年度）に本事業を通じて明らかにしたい事項	11

第2章 第3年次の取組①（遠隔授業の実施やその運営体制に関する取組）

I 調査計画	14
II 実施体制	16
III 取組概要	17
IV 遠隔授業実施表	20
V 遠隔授業の取組	22
VI 学校間連携（生徒交流）の取組	40
VII 考察	47

第3章 第3年次の取組②（コンソーシアム構築による教育の高度化・多様化に関する取組）

I 調査計画	52
II 実施体制	54
III 取組概要	56
IV 取組実績	57
V 取組内容	58
VI 考察	68

第4章 第3年次の調査研究の総括

I 目標設定シートに対応した成果と課題	70
II 事業関係アンケート調査結果の分析	72
III 第3年次（令和5年度）に本事業を通じて明らかにしたい事項の考察	80

第5章 3か年の調査研究の総括

I 小規模校の教育の質を維持・向上させる遠隔授業モデルの構築	84
II 複数校間連携モデル及び小規模校間連携モデルの構築	88
III 地域を深く理解し、探究的に学ぶための地域協働体制構築	90

第6章 事業終了後に向けて

I 遠隔授業の拡充体制の構築に向けて	94
II 高校と地域との連携・協働体制の全県波及に向けて	97
III 県立高校等のあり方の検討に向けて	99

資料

- 文部科学省資料「CORE ハイスクール・ネットワーク構想事業概要」
及び「事業実施機関一覧（令和5年度）」・・・・・・・・・・・・・102
- 「新潟の未来を SaGaSu プロジェクト」事業概要図・・・・・・・・・・・・・103
- 「新潟の未来を SaGaSu プロジェクト」指導委員会 設置要綱・・・・・・・・・・・・・104
- 「新潟の未来を SaGaSu プロジェクト」指導委員会 委員名簿・・・・・・・・・・・・・105
- 「新潟の未来を SaGaSu プロジェクト」指導委員会の概要・・・・・・・・・・・・・106
- 遠隔授業の実施に係る運用規程・・・・・・・・・・・・・108
- 文部科学省「高等学校教育の在り方ワーキンググループ中間まとめ」を踏まえた
制度改正の概要・・・・・・・・・・・・・115
- 最終事業報告会（シンポジウム）・・・・・・・・・・・・・117
- 令和5年度教育広報誌「かけはし」第57号（令和5年3月8日発行）・・・・・・・・・・・・・155
- 令和4年度教育広報誌「かけはし」第52号（令和4年7月1日発行）・・・・・・・・・・・・・156
- 令和4年度新潟県教育月報3月号（874号）「遠隔授業研究協議会」・・・・・・・・・・・・・157
- 令和4年度新潟県教育月報1月号（872号）「新潟の未来を SaGaSu プロジェクト」・・・・・・・・・・・・・158
- 令和3年度新潟県教育月報1月号（861号）
「高等学校における遠隔教育の推進について」・・・・・・・・・・・・・162

第1章

3か年の調査研究計画と 第1・2年次の取組

I 調査研究の背景（現状と課題）

1 本県高等学校教育を取り巻く状況

(1) 人口減少と少子化の影響

本県の中学校卒業生数は、昭和 38 年春の 70,499 人をピークに減少傾向が進んでいる。平成 30 年には、19,807 人とはじめて 2 万人を割り込み、令和 5 年春は 18,430 人となった。令和 14 年春（現在の小学校 1 年生が中学校を卒業する年）には、15,429 人（令和 5 年春から 3,001 人減少）となり、75 学級分に相当する生徒数（1 学級 40 人で換算）が減少することになり、今後も減少傾向は加速することが見込まれる。

(2) 県立高等学校等の小規模化の進行

「県立高校の将来構想」（平成 28 年 3 月策定）においては、望ましい学校規模は 1 学年あたり 4～8 学級としている。しかしながら、令和 6 年春の全日制高等学校等の募集学級数において、3 学級以下の学校は 47%を占めている状況にある。

(3) 通学範囲の広さと通学手段の制限

本県は、日本海に面し、周囲を 1,500 から 2,000 メートル級の山々に囲まれ、離島や中山間地域を含めて様々な土地の条件をもつとともに、全国 5 位の広大な県土を誇っている。本事業対象の高校等が所在する離島の佐渡市は、東京都 23 区の約 1.4 倍の面積に県立高等学校等が 5 校点在しているが、島内の公共交通機関はバスのみで、通学には制限が生じている。また、本事業対象の阿賀黎明高校が所在する阿賀町は、福島県境に近く、広い面積を有する豪雪地帯であり、阿賀黎明高校以外の高校へは 30 km以上離れており、居住地域によっては、公共交通機関を利用した登校が困難な生徒もいる。

2 事業に取り組む背景

(1) 離島・中山間地域の小規模校における教育環境の整備

構成校のうち、1 学級募集の小規模校 4 校においては、教員数の少なさから、生徒の興味関心や進路希望に応じた科目の開設や習熟度別授業の実施が困難な状況にある。加えて、小規模校では、協働的な学びや学校行事等が制限され、多様な生徒と関わる機会が乏しくなり、人間関係が固定化するなどの課題がある。また、佐渡市、阿賀町ともに、自然環境や伝統文化など、魅力的な地域資源が豊富にあり、探究学習をする題材は充分にあるものの、その指導を行う人材の不足も課題となっている。

(2) 離島・中山間地域の維持・発展を担う人材の育成

佐渡市や阿賀町は、人口減少の進行から、地域産業を担う人材や医療系人材等の確保、産業の高付加価値化への対応など多くの課題がある。こうしたことから、佐渡市では、全ての小中学校で地域の伝統や歴史を学ぶ「佐渡学」を中心に郷土愛を軸としたキャリア教育を展開し、阿賀町では、「阿賀黎明高校魅力化プロジェクト」を立ち上げ、公営塾の設置など学校支援を進めており、両自治体ともに、地元高等学校への支援体制が整っている。

Ⅱ 調査研究の目的

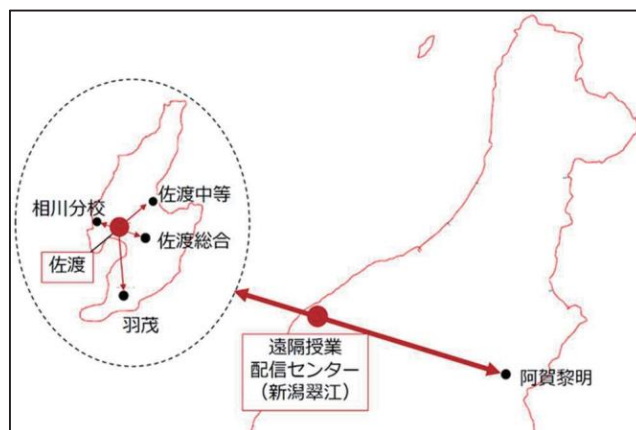
1 「教科・科目充実型」の遠隔授業の実施による離島・中山間地域の教育の充実

(1) 目的・目標

佐渡市と阿賀町に立地する高等学校等が小規模化の状況にあっても、生徒のニーズに応じた多様な教科・科目の開設ができるよう教育環境の整備を図る。

(2) 取組内容

- 新潟市内に立地する新潟翠江高校通信制課程を、遠隔授業の配信センターとして位置付け、阿賀黎明高校及び佐渡島内の5校に遠隔授業を配信する。
- ネットワーク校においては、教育課程の共通化にも取り組み、佐渡高校からの授業配信も実施する。



(3) 育成を目指す資質・能力

- 専門教員による遠隔授業により、教科・科目における専門的な知識の理解を深めるとともに、知識を活用する力を育成する。
- ICTを活用した「協働的な学び」と、習熟度の差に応じた「個別最適な学び」の実施により、深い思考力と豊かな表現力を育成する。

2 地域協働コンソーシアムの支援による、地域を支える人材の育成

(1) 目的・目標

佐渡市、阿賀町両自治体が推進するキャリア教育を基盤とし、地域と協働しながら有為な人材を育成する。

(2) 取組内容

- 高等学校等と地元自治体等が連携・協働して生徒の学びを支えるコンソーシアムを構築する。
- コンソーシアムを活用しながら、地域の特徴や課題（歴史、経済、産業、伝統文化、環境等）について深く理解する講演会や体験活動の機会を設定する。
- 地域の人々や構成校の生徒と協働し、探究的かつ実践的な課題研究を実施する。

(3) 育成を目指す資質・能力

- 課題設定に関する知識と課題解決に必要な思考力・判断力・表現力を育成する。
- 多様な人々と関わり、納得解を生み出す創造性・協働性・人間性を育成する。
- 郷土へ愛着や誇りを抱き、主体的に社会参画・地域貢献を行う態度を醸成する。
- 地域と地球規模の諸課題を関連付けて、自己のキャリア形成に活かそうとする態度を育成する。

「新潟の未来を SaGaSu プロジェクト」の名称に込められた思い

☆ Sado（佐渡）と Aga（阿賀）と Suikou（新潟翠江）の構成校7校をネットワークでつないだ取組で、新潟の新たな高校教育の未来を拓く。

Ⅲ ロードマップ

1 3か年の調査研究計画について

テーマ	新潟の未来を SaGaSu プロジェクト「持続可能な離島・中山間地域を目指して」 ～ICTの活用と連携・協働による地域人材の育成モデルの構築～		
	小規模校の教育の質を維持・向上させる遠隔授業モデルの構築	同一自治体内の複数校間連携モデル及び小規模校間連携モデルの構築	地域を深く理解し、探究的に学ぶための地域協働体制構築
R3	<ul style="list-style-type: none"> ○遠隔授業システムの構築 (R3) ○遠隔授業試行による展開及び評価に関する調査研究 (R3) ○タブレットとクラウドを活用した遠隔授業の実施 (R3～R5) 	<ul style="list-style-type: none"> □佐渡市内5校による学校間連携 (R3～R5) □阿賀黎明高校と佐渡中等教育学校による1学級募集の中高一貫教育校の連携 (R3～R5) □阿賀黎明高校と羽茂高校の「地域探究コース」の連携 (R3～R5) 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域協働コンソーシアムの構築 (R3) ●地域協働コンソーシアムの活動を踏まえた「スクール・ミッション」の再定義及び「スクール・ポリシー」の策定 (R3)
R4	<ul style="list-style-type: none"> ○理科など実習を伴う教科・科目における遠隔授業に関する調査研究 (R4・R5) ○佐渡・阿賀の地質・鉱物等の学習に係る教育課程の共通化に関する調査研究 (R4・R5) 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">校時表の午後時程統一化と学校間連携を活かした遠隔授業の実施 (R4・R5)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">学校間連携と地域連携・協働による課題研究の実施に関する調査研究 (R4・R5)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">●地域と連携・協働した活動による生徒や地域の変容の評価に関する調査研究 (R4・R5)</div>	
R5		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">学校間連携と地域コンソーシアムの構築と生徒のキャリア形成に関する調査研究 (R5)</div>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">最終事業報告会（シンポジウム）の開催と事業評価 (R5) 「遠隔授業、学校間連携、地域協働の新潟モデルの創出と、これからの持続可能な離島・中山間地域における人材育成について」</div>		

2 令和6年度以降の計画について

本事業で蓄積した遠隔授業のノウハウを、他のエリアにも拡大し、地理的環境や学校規模に左右されない教育環境の充実を図ることを目的とし、令和5年度より、県独自の事業として「遠隔教育推進事業」を実施する。魚沼エリアや新発田・村上エリア、上越エリアなどの学校に、遠隔授業システム機器の設置を進め、順次、遠隔授業を実施していく。また、遠隔授業の拡大実施に向け、新潟翠江高校通信制課程に加え、令和8年度の開設を目指し、新たな配信センターの設置について検討する。

IV 第1年次（令和3年度）の取組

1 遠隔授業

(1) 取組

ア 遠隔授業システムの構築

信州大学教育学部 東原 義訓 特任教授からの助言により、生徒1人1台端末の環境を前提とした汎用性の高い遠隔授業システムを構築した。

イ 試行授業の実施

令和3年11月から、3科目で10回の試行授業を実施。生徒1人1台端末の環境をもとに、JamboardなどGoogleのツールを活用した遠隔授業の方法を研究した。デジタルスイッチャーを活用し、書画カメラやビデオカメラなど、様々な提示装置を利用した授業を研究した。

ウ オンライン講習の実施

令和3年11月～令和4年2月の間で、大学進学希望者を対象に、6教科10科目のオンライン講習を実施した。オンデマンド型と双方向ライブ型の講習を実施し、延べ54人が受講した。

エ 遠隔授業研究協議会の開催

令和4年2月に新潟県遠隔授業研究協議会を開催し、本事業の取組や遠隔授業の方法等を全县に周知した。各県立高校等から1名ずつ、計88人が参加した。

(2) 成果と課題

- 生徒のタブレット端末を活用した双方向型の授業展開や、デジタルスイッチャーを活用した教材の提示など、効果的な遠隔授業の方法についてノウハウを蓄積した。
- 遠隔授業では、生徒が教員に質問しづらいなどの課題も明らかになった。
- オンライン講習では、希望制としたこともあり、想定した参加者数を下回り、生徒の積極的な参加につなげることに課題が見られた。
- 遠隔授業研究協議会では、88名（県立高校等から各校1名）の参加により、遠隔授業の意義やその取組を県内の全县立高校等に周知した。



配信側のシステム機器

2 学校間連携

(1) 取組

ア 生徒会交流

令和3年6月に、ネットワーク構成校の生徒会役員がオンラインで顔合わせをするキックオフイベントを実施した。

イ SaGaSu プロジェクトのロゴマークの作成

ネットワーク構成校でロゴマークの案を募集し、24件の応募があり、Google Forms を活用した投票により、最多得票作品を選び、これをベースにロゴマークを作成した。

ウ 2校合同の探究学習交流授業

令和3年10月、羽茂高校の2年生18人が阿賀黎明高校を訪問し、阿賀黎明高校2年生22人と合同で、6班に分かれて探究学習の取組を相互に発表した。

エ 3校合同の地域探究学習発表会

羽茂高校2年生22人、阿賀黎明高校2年生18人、佐渡総合高校2年生22人がオンラインで参加し、3校のそれぞれの代表3グループが地域資源を活かした探究学習の成果を発表した。

(2) 成果と課題

- 6月のオンラインキックオフイベントにより、ネットワーク構成校で協力して取り組んでいこうとする生徒間の雰囲気醸成できた。
- 生徒がオンラインを活用し、学校間で意見交換を行いながら、SaGaSu プロジェクトのロゴマークを作成した。本プロジェクトにおいて、生徒が参画する場をつくることができた。
- 今後は、より一層、学校間連携について、生徒・学校が主体的に考え、企画し、行動することが課題である。
- 探究学習の交流では、生徒から、「他校の生徒との交流は刺激になった」「異なる地域でも共通した課題があることが分かった」など、有意義な機会であったとの感想が多かった。



キックオフイベント（学校紹介）の様子



最多得票作品を元にしたロゴマーク



2校合同交流授業の様子



3校合同発表会の様子（佐渡総合高校）

3 地域との連携・協働

(1) 取組

佐渡教育コンソーシアム

ア 「総合的な探究の時間」における「SDGs 講演会」の実施

コンソーシアムの支援により、地球環境戦略研究機関や長岡技術大学から講師を招き、羽茂高校、佐渡総合高校、佐渡中等教育学校で「SDGs 講演会」を実施した。

イ 羽茂高校の学校設定科目「ソーシャルデザイン」（2年）への支援

羽茂高校の教科横断的な学校設定科目「ソーシャルデザイン」において、佐渡市の職員が協力し、地元農業や、福祉、伝統食、ビジネスなどの学習を支援した。

ウ 進路ガイダンスへの支援

佐渡高校相川分校において、佐渡市内の企業、団体が協力し、分野別進路ガイダンス（製造、建設、販売、介護、接客の5分野）を実施した。

エ 佐渡市高校生議会の開催

佐渡市主催の高校生議会に、羽茂高校と佐渡総合高校が参加し、佐渡市の課題解決に向けた質問や、SDGs の 17 の目標に関連付けた政策を提案した。

阿賀学コンソーシアム

ア 生徒募集に向けた活動

中学生及びその保護者を対象に「学校見学&まなび体験会」を開催し、阿賀黎明高校や学生寮、阿賀町内を見学して魅力を体感してもらい、教育留学生と交流する機会を設定した。「地域みらい留学」オンライン合同説明会を4回実施した。

イ 阿賀黎明高校の「総合的な探究の時間」への支援

1年「あがまちゼミ」において、地元有志「阿賀黎明探究パートナーズ」のメンバー12名が、①まちづくり・福祉、②観光・商業、③自然・農林業の3テーマについて講話を行った。

ウ 職業体験への支援

2年生の生徒が設定した8テーマ（アウトドア・林業・食・カフェ・川・建設・福祉・保育）に沿って、協力団体が生徒とともに各分野の体験活動を実践した。

エ 学校設定科目「地域学」への支援

2年生6チーム（商業・観光・福祉・まちづくり・土木・農業）が阿賀黎明探究パートナーズと一緒に地域プロジェクトを企画・立案し、課題解決に向けて取り組んだ。

(2) 成果と課題

- 高校がコンソーシアム関係者と定期的な会合を重ね、高校の魅力化が町の活性化につながるといふ共通認識をもつこととなり、ビジョンを共有しながら様々な意見交換を行った。
- 令和3年度における教育留学制度に関連した阿賀黎明高校への入学志願者は10人弱で、これまでの積極的な広報活動が成果となって表れている。その一方、阿賀町内の2つの中学校からの入学志願者数が伸びておらず、町内の生徒や保護者に対する一層の本事業の取組の周知や高校の魅力発信が必要である。

V 第2年次（令和4年度）の取組

1 遠隔授業

(1) 取組

ア 遠隔授業の実施

第1年次の施行授業を踏まえ、第2年次は計9科目にわたり遠隔授業を実施し、うち8科目で単位認定を伴う通年配信とした。また、文部科学省事業の特例措置により、一部科目で受信側補助職員を実習助手や非常勤事務職員とした。

イ 放課後オンライン講習

ネットワーク構成校全生徒への希望調査をもとに講習内容を決定し、新潟翠江高校と佐渡高校の教員により実施した。双方向ライブ配信形式とし、タブレット端末を使用して、各講座別の Google Classroom を活用した。大学進学対策に英検対策も加え、延べ28人が受講した。

ウ 遠隔授業の公開（11月）

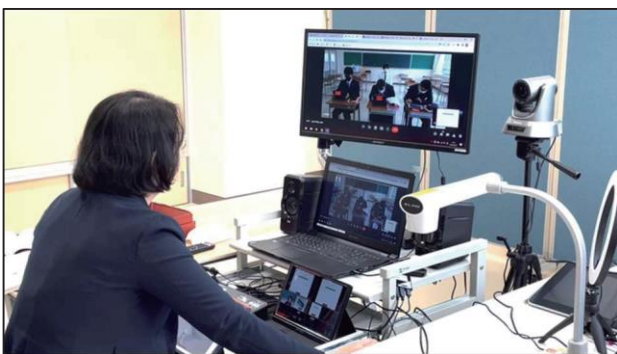
遠隔授業開始後、約半年間の成果や課題等の共有を図るため、対面とオンラインでの授業参観を7科目にわたり実施し、県内の全県立高校等の教員延べ160名が参観した。

エ 遠隔授業研究協議会（2月）

本県遠隔授業に係る調査研究上の成果や課題等の共有を図るため、対面とオンラインでの公開授業、研究協議等を行い、県内外の教職員延べ119名が参加した。

(2) 成果と課題

- 配信教員は、生徒1人1台端末を活用した同時双方向型の遠隔授業に工夫しながら取り組んできた。生徒対象アンケート結果では、授業の理解度や参加意欲の肯定的回答が8割以上を占めた。
- 受信側補助職員の体制については、授業中の生徒への指導や、実験・実習を伴う授業での安全確保等の観点から、引き続き慎重に調査研究を進める必要がある。
- オンライン講習では、対象校生徒のニーズに合わせた科目等を開設し、検定対策等も併せて実施することができた。
- 研究協議会においては、配信教員、受信側補助職員からの振り返りに加え、遠隔授業受講生徒からのインタビューや指導委員からの指導・講評等により、本事業の意義や取組を県内外に広く周知することができた。



配信室の様子



受信教室の様子

2 学校間連携

(1) 取組

ア SaGaSu 委員会

ネットワーク構成校の生徒会執行部等で構成された約 40 人が、月 1 回のオンラインミーティングを行った。探究活動等を行うゼミ班、県外交流等を計画する交流班、地域の魅力等を SNS で発信する発信班に分かれて、活動を進めた。

イ 県外交流（広島県）

SaGaSu 委員の生徒が、広島県の生徒実行委員会の生徒とお互いの学校紹介や探究活動の取組紹介を行った。加えて、互いの成果報告会に参加し、交流を深めた。

ウ ネットワーク校合同探究発表会（10 月、1 月）

対象校の 2 年生（佐渡中等は 5 年生）全員、合計 324 人の生徒が、8 人程度のグループに分かれ、グループ内の他校の生徒に自分の探究活動等の取組を発表し、質疑応答を行った。

エ 3 校合同の地域探究学習発表会

阿賀黎明高校、羽茂高校、佐渡総合高校の 2 年生 23 人がオンラインで参加し、3 校それぞれの代表グループが、地域資源を活かした探究学習の成果を発表した。

(2) 成果と課題

- SaGaSu 委員会の活動をとおして、ネットワーク校が学校間で連携しながら、協力して取り組んでいこうとする生徒間の雰囲気醸成できた。
- 合同発表会では、参加生徒全員が発表及び質疑応答を行う点にこだわり、オンラインを活用することで実現することができ、発表会のモデルとなる取組となった。
- 広島県との交流をとおして、本県と異なる文化や習慣に触れるとともに、異なる地域でも共通した課題があることを認識するなど、お互いに有意義な交流会にすることができた。
- 管理機関が各校のスケジュール調整し、活動を主導したため、生徒・学校がより一層主体的に考え、行動するような取組にしていく必要がある。

【ネットワーク校合同探究発表会の様子】



参加生徒の様子

（それぞれが、他校の生徒とグループを編成）



あるグループの画面の様子

（生徒がファシリテーターとなり質疑応答）

3 地域との連携・協働

(1) 取組

佐渡教育コンソーシアム

ア 「総合的な探究の時間」への支援

大学出前講義や進路ガイダンス、SDGsに関する講演会のコーディネート等、佐渡島内5校のニーズに合わせた支援を行った。

イ 羽茂高校「地域探究コース」への支援

教科横断的な学校設定科目「ソーシャル・デザイン」や探究学習に向けたフィールドワークやジオパーク推進室との連携授業等への支援を行った。

ウ 佐渡市高校生議会の開催

佐渡市主催の高校生議会に、島内計4校の高校等が参加し、佐渡市の課題解決に向けた質問や、SDGsの17の目標に関連づけた政策提案を行った。

阿賀学コンソーシアム

ア 「総合的な探究の時間」への支援

阿賀黎明高校生徒が、地元関係者と連携しながら、「まちづくり・福祉」「観光・商業」「自然・農林業」のプロジェクト活動を行った。

イ 学校設定科目「地域学」への支援

阿賀黎明探究パートナーズ及び地域サポーターが、阿賀黎明高校生徒の「職と見守りプロジェクト（福祉×農業）」「高校生のプチ起業プロジェクト（まちづくり×農業）」のプロジェクト活動への支援を行った。

ウ 生徒募集に向けた活動

町外、県外を含め、中学生及びその保護者を対象に、阿賀黎明高校や学生寮、阿賀町内を見学して教育留学生と交流する機会を設定し、延べ19人の生徒とその保護者が参加した。

(2) 成果と課題

- 佐渡教育コンソーシアムでは、島内の高校等5校の魅力化に向けた支援のあり方を検討し、具体的な支援につなげていくことができた。一方で、5つの高校等を支援するため、学校によって取組に差が生じてしまうことや、コーディネーターの負担等が課題となった
- 阿賀学コンソーシアムでは、年3回の阿賀黎明高校の学校運営協議会において、高校の魅力化に向けた支援のあり方を検討し、具体的な活動を進めていくことができた。令和5年度は、「スクール・ポリシー」の策定に向けた検証を、学校と地域とが一体となって進めていく必要がある。



【佐渡教育コンソーシアムの取組】



【阿賀学コンソーシアムの取組】



Ⅵ 第3年次（令和5年度）に本事業を通じて明らかにしたい事項

1 「教科・科目充実型」遠隔授業の実施に係る調査研究

(1) タブレット端末とクラウドを活用した効果的な遠隔授業の実施

本県の遠隔授業では、生徒1人1台端末を前提として取り組んでおり、教職員の端末操作とクラウドの活用の習熟度を高めるとともに、遠隔授業の通年配信の中で、反転学習の要素を踏まえた効果的な授業方法の実証研究も行っている。配信教員は、機器の操作に慣れてきており、今後はより一層授業の質を向上させていくことが目標となる。ICTを活用しながら、生徒同士の意見の発表や共有を行うなど、生徒の主体的・協働的な学びに向けた効果的な遠隔授業の方法をさらに研究する。

(2) 複数校同時配信の遠隔授業に関する調査研究

小規模校の生徒の「協働的な学び」の充実に向け、複数校への同時配信について取り組む。阿賀黎明高校と羽茂高校の校時を揃え、「化学基礎」の遠隔授業を同時配信し、多様な意見に触れ、協働的な学習を可能とする遠隔授業のあり方について研究する。

(3) ネットワーク構成校での教育課程の共通化に関する研究

令和5年度の配信科目において、ネットワーク構成校の教育課程の中で、「地学基礎」の共通化を図り、地学の専門教員配置校から「地学基礎」の配信を4校に行った。阿賀町と佐渡市がもつ地理的環境や地質的特徴をお互いに学び合う機会を創出するなど、共通化した配信科目における遠隔授業のあり方について、複数校同時配信を見据えながら研究する。

(4) 遠隔授業における実験・実習のあり方に関する研究

これまで、理科や芸術等における実験・実技の効果的な指導方法や、VRの活用、地元介護系人材のサポートによる福祉の配信のあり方について検討を進めてきた。その検討を踏まえ、令和5年度は「書道Ⅰ」と「社会福祉基礎」を実施した。どちらも実習を伴う科目であることから、遠隔授業における実験・実習の効果的な指導方法や、先端技術を活用した指導方法を研究する。

(5) 受信体制のあり方に関する研究

国委託事業では、受信教室に教諭以外の学校職員を配置することが、特例的に認められている。本県では、受信側職員として、実習助手や非常勤事務職員を配置し、授業中の生徒への指導や、実験・実習を伴う指導等、受信側のサポート体制の検証を進めてきた。令和5年度も、受信側の阿賀黎明高校と羽茂高校において、引き続き教諭以外の学校職員を配置し、受信側職員に係るマニュアルの作成や、指導内容の確認等を行いながら、受信体制のあり方について引き続き研究する。

2 学校間連携を行うための運営体制に関する調査研究

(1) ネットワーク構成校6校による学校間連携

これまでの取組では、管理機関が中心となって生徒間交流や関係教職員の情報共有の機会を

設定してきた。令和5年度は、ネットワーク構成校の生徒及び教職員が主体的にプロジェクトの参画者となれるよう、引き続き、管理機関として生徒間交流（SaGaSu委員会）や探究活動発表の機会を設定し支援するとともに、令和6年度以降の自走体制構築に向けて取り組む。

(2) 中高一貫教育校による学校間連携

ネットワーク構成校の阿賀黎明高校（H14から併設型、H31から連携型）と佐渡中等教育学校は、小規模な中高一貫教育校であり、人間関係力の育成のための連携・交流ネットワークの形成に向けて取り組む。また、阿賀町立阿賀津川中学校と佐渡中等教育学校前期課程生とで、学校紹介をはじめとした生徒交流を開始し、特色ある学校行事や探究活動の取組についての合同発表実施に向けて取り組む。

(3) 阿賀黎明高校と羽茂高校による「地域探究コース」の学校間連携

本県では、地域と連携した体験活動や探究的な学習に重点的に取り組む「地域探究コース」をネットワーク構成校に設置した（令和2年度：羽茂高校、令和4年度：阿賀黎明高校）。離島と中山間地域という異なる環境に立地する「地域探究コース」同士による学校間連携について、定期的な成果発表会の機会の確保等、連携のあり方について検証する。

3 学校と地域とが連携・協働した運営体制や取組の充実に係る調査研究

(1) 「スクール・ポリシー」の策定を見据えた取組

新潟県教育委員会では、各校との協議及び地元自治体等への意見聴取を踏まえ、令和5年3月にスクール・ミッションを再定義し、公表した。県立高校等は、このスクール・ミッションに基づき、令和5年度にスクール・ポリシーの策定作業を行い、令和6年3月に策定・公表する予定である。このことを踏まえ、阿賀黎明高校と佐渡島内5校では、阿賀町と佐渡市の各コンソーシアムにおいて、各校のスクール・ポリシー策定に向けた協議を行う。

※ スクール・ポリシー（3つの方針）の内容

- ・ 育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）
- ・ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）
- ・ 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

(2) 探究活動を中心としたコンソーシアムの支援のあり方の研究

これまでのアンケート調査の分析において、ネットワーク構成校の「地域の将来に対する明るい希望」や「将来の地域貢献意識」の割合が高くなかったことを踏まえ、各コンソーシアムと情報共有し、特に生徒が直接参画できる機会や環境の充実にを図る。また、SDGsの理解促進の機会や、生徒の進路希望に応じた職場体験や各種機会を提供することで、生徒の探究学習の充実や進路実現、そして各校の魅力向上につなげていく。

第2章

第3年次の取組①

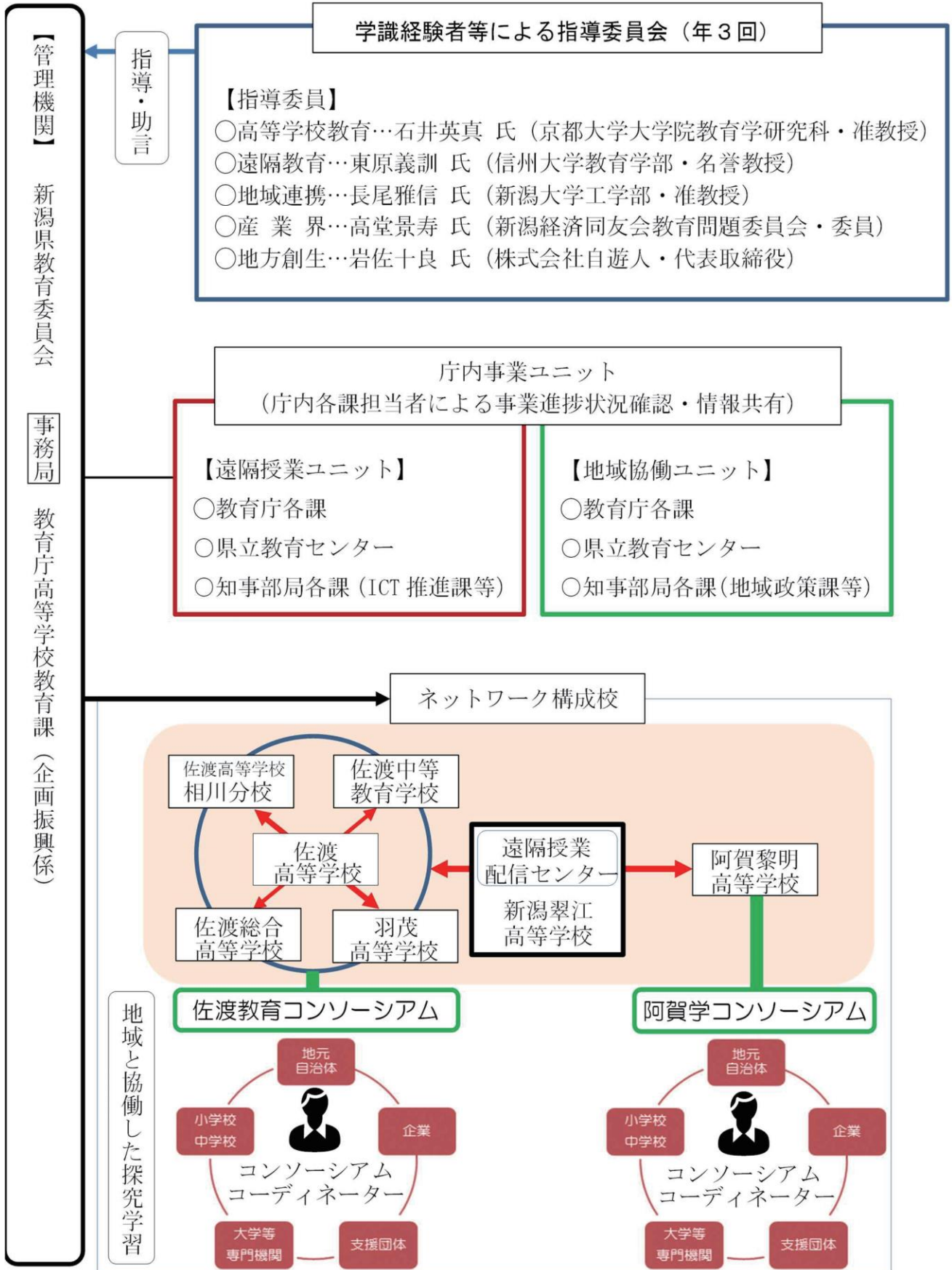
(遠隔授業の実施やその
運営体制に関する取組)

I 調査計画 ※表の左側

年月	計画内容	
	<p>高等学校等の連携による遠隔授業など ICT を活用した取組 (○ : 遠隔授業 □ : 学校間連携)</p>	<p>地元自治体等の関係機関と連携・協働した取組</p>
5年4月	<p>○配信教員による受信校訪問 (遠隔授業オリエンテーション) ○遠隔授業の通年配信開始(16科目) □第1回 SaGaSu 委員会 ・探究活動の取組継続・県外校との交流・SNSによる魅力発信</p>	<p>●管理機関のコンソーシアム担当者との打合せ ●佐渡教育コンソーシアム総会 ●佐渡教育コンソーシアム幹事会① (SaGaSu 委員会の代表生徒も参加)</p>
5月	<p>□第2回 SaGaSu 委員会 ・県外交流に向けての準備 □SaGaSu ゼミ (キックオフ) 1年 (探究スキル講演) 2年 (SDGs によるグループ分け) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">庁内ユニット会議①の開催</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">CORE ハイスクール・ネットワーク構想担当者会議への参加</div></p>	<p>●阿賀黎明高校学校運営協議会① ●阿賀黎明高校探究パートナーズによる「阿賀学」「地域学」支援開始 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">●各コンソーシアム・コーディネーターが学校の教育活動と地域協力機関のマッチング開始</div></p>
6月	<p>○遠隔授業のあり方 WG 設立 ・先端技術等を活用した効果的な遠隔授業配信 □第3回 SaGaSu 委員会 ・オンラインによる県外交流会実施</p>	<p>●コンソーシアムを活用した各校体育祭の見学・参加呼びかけ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">第1回指導委員会の開催</div></p>
7月	<p>○遠隔授業実施校による県外視察 □第4回 SaGaSu 委員会 ・探究活動、SNS 発信等の中間報告 □SaGaSu ゼミ ・大学進学対策講習 ・各種検定対策開始</p>	<p>●佐渡教育コンソーシアムによる SDGs に関する授業実施 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">●校外での探究活動支援 ・大学・専門機関や現地研修 ・地元企業でインターンシップ ●コンソーシアム主催の地元企業説明会及び企業訪問の実施 (3年)</div></p>
8月	<p>□中高一貫連携校・地域探究コース連携校による相互訪問 □SaGaSu ゼミ ・1年探究ゼミ (地域魅力理解) ・2年探究ゼミ (各グループの経過報告)</p>	<p>●佐渡教育コンソーシアムによる高校生議会の実施 ●地域住民と連携した各校文化祭の実施に係る企画協議</p>

9月	<input type="checkbox"/> 管理機関による県外視察 <input type="checkbox"/> 第5回 SaGaSu 委員会 ・県外交流に向けた準備	<input checked="" type="checkbox"/> 阿賀黎明高校学校運営協議会②
10月	<input type="checkbox"/> 遠隔授業公開週間 (全県配信、企画評価委員の視察) <input type="checkbox"/> SaGaSu ゼミ ・1年探究ゼミ(地域課題理解) ・2年探究ゼミ(ネットワーク校合同探究発表会)	<input checked="" type="checkbox"/> 佐渡教育コンソーシアム幹事会② <input checked="" type="checkbox"/> コンソーシアムの支援による地域理解を深める講演会等の実施 ・大学、研究所等の学術講演会 ・地域の各専門家を招いた地域文化ワークショップ
11月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 最終事業報告会(シンポジウム)開催 <input type="checkbox"/>遠隔授業(全国配信) <input type="checkbox"/>学校間連携の取組発表 <input checked="" type="checkbox"/>地域の課題解決・魅力発信サミット </div> <input type="checkbox"/> 第6回 SaGaSu 委員会 ・オンラインによる県外交流実施 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 第2回指導委員会の開催 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> CORE ハイスクール・ネットワーク全国シンポジウム参加 </div>	<input checked="" type="checkbox"/> コンソーシアムの支援を受けた地域住民参加型の文化祭の実施
12月	<input type="checkbox"/> 遠隔授業のあり方WG③ <input type="checkbox"/> SaGaSu ゼミ ・大学進学対策講習(冬季休業中)	
6年1月	<input type="checkbox"/> SaGaSu ゼミ ・大学進学対策講習 ・2年ネットワーク校探究活動等成果発表会	<input checked="" type="checkbox"/> 阿賀黎明高校学校運営協議会③ <input checked="" type="checkbox"/> 生徒、保護者、地域住民へのアンケート調査の実施
2月	<input type="checkbox"/> 阿賀黎明、羽茂、佐渡総合の3校合同探究発表会 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 第3回指導委員会の開催 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 庁内事業ユニット会議②の開催 </div>	<input checked="" type="checkbox"/> 佐渡教育コンソーシアム幹事会③ <input checked="" type="checkbox"/> 次年度課題研究の共同研究グループのマッチングを検討
3月	<input type="checkbox"/> 配信教員による受信校訪問 <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業の成績評価と単位認定 管理機関による1年間の取組の総括と次年度に向けた準備 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> CORE ハイスクール・ネットワーク構想事業報告会への参加 </div>	<input checked="" type="checkbox"/> 管理機関による1年間の取組の総括と次年度に向けた準備

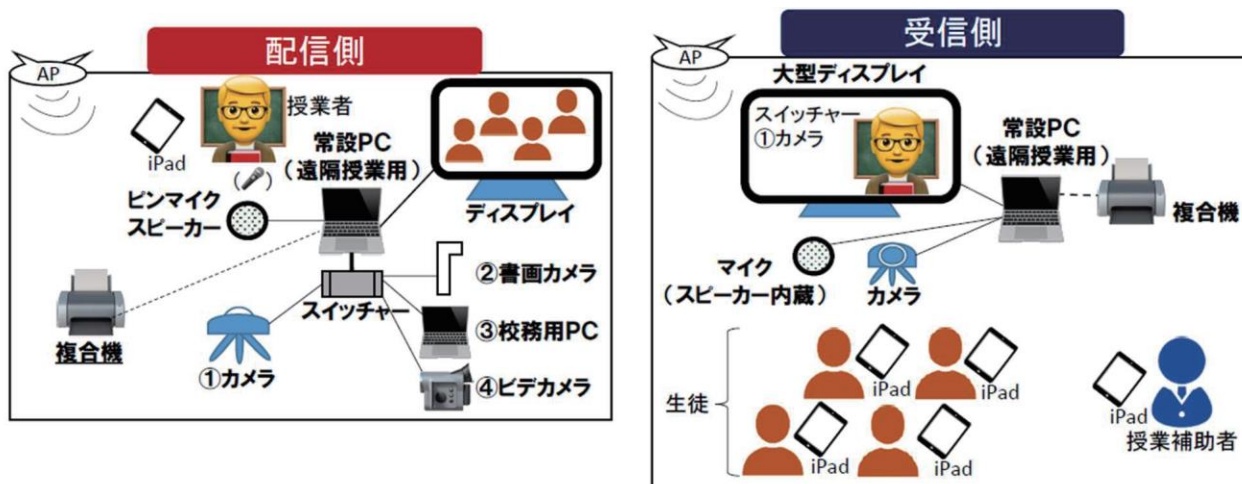
II 実施体制



Ⅲ 取組概要

1 遠隔授業システムの構築

生徒1人1台端末の環境を前提とし、汎用性の高い遠隔システムを構築した。以下のように配信側、受信側に機器を設置した。(下記概要図参照)



○ 配信側の機器（製品）一覧

機器種別	製品
Web 会議用ノートパソコン	dynabook A6BDHSE8PC71 (TOSHIBA)
Web 会議用カメラ	TEVO-NV10U (Tenveo)
27 インチディスプレイ	JN-IPS2705UHDR (JAPANNEXT)
ピンマイク	MM-MCF03BK (SANWA)
スピーカー	MM-SPL6BK (SANWA)
FAX 機能付き複合機	PX-M6711FT (EPSON)
書画カメラ・ペンタブレット	L12F・CRA-2 (ELMO)
デジタルスイッチャー	Blackmagic Design Mini Pro (ATEM)
10.1 型モバイルディスプレイ	JN-MD-IPS1010HDR (JAPANNEXT)

○ 受信側の機器（製品）一覧

機器種別	製品
Web 会議用ノートパソコン	dynabook A6BDHSE8PC71 (TOSHIBA)
Web 会議用カメラ	TEVO-NV10U (TENVEO)
65 インチディスプレイ	FW-65BZ30J/BZ (SONY)
マイク・スピーカーシステム ・拡張マイク(2台)	YVC-1000 (YAMAHA) ・ YVC-MIC1000EX (YAMAHA)
FAX 機能付き複合機	PX-M6711FT (EPSON)

2 遠隔授業運営規程の策定

高等学校教育課が令和4年2月に「遠隔授業の実施に係る運用規程」を策定し、配信校や受信校における留意点とともに、学習評価・単位認定等について実施校に周知した。

「遠隔授業の実施に係る運用規程」の主なポイント（抜粋）

I 遠隔授業全般

- 遠隔授業の実施にあたって、対面授業は年間2単位時間以上を確保
- 配信側は、当該教科の免許状を保有する教員
- 受信側には、授業補助としての教員（当該教科の免許状の有無は問わない）又はその他の教職員（*）を配置
 - *その他の教職員・・・校長の指揮監督下にある学校教職員で、実習助手や会計年度任用職員など。文部科学省事業で特例的に認められた措置。

II 配信校

- 配信校（配信教員）の業務
 - ・受信校との協議を踏まえ、年間指導計画及びシラバス、授業配信計画の作成
 - ・遠隔授業及び対面授業の実施
 - ・受信校の教員等の協力を得ながら、配信する教科・科目の学習を評価
- 配信教員には受信校の教諭の兼務を発令

III 受信校

- 受信校の業務
 - ・配信教員の業務の補助
 - ・遠隔授業の使用教科書及び副教材の選定
 - 授業補助としての教員等の業務
 - ・遠隔授業実施前の教材や機器設定等の準備及び配信教員との事前打合せ
 - ・遠隔授業時における遠隔授業システム機器と生徒用端末の操作補助、タブレット端末等を使用した机間指導
 - ・遠隔授業実施後の機器の後片付け及び配信教員との事後打合せ
- ※ 上記内容を、受信サポート日誌に記録することとする。

IV 学習評価・単位認定

- 出席時数等の扱いや履修・単位修得の認定に関しては、受信校の規程による
- 定期考査について ・配信側と受信側の役割分担は次の表のとおり

	定期考査業務に係る分担				考査後の授業	
配信側	作問			採点(※1)		解説
受信側		印刷	監督		返却(※2)	授業支援

※1…受信校の当該教科主任等が解答用紙をPDFファイル化し、統合型校務支援システムのグループウェアにて配信教員に送信する。配信教員は、そのPDFファイルをもとに採点。

※2…配信教員が統合型校務支援システムのグループウェアにて遠隔授業支援教員等に採点済みPDFファイルを送付し、遠隔授業支援教員等はカラー印刷したもの及び保管した原本を返却。

3 配信時間割及び予定表の作成

遠隔授業運用規程に基づき、配信校の教頭は、受信校の年間行事計画及び月間行事計画を踏まえ、月ごとに遠隔授業の時間割及び配信予定表を組むとともに、受信校の学校行事や時程に応じて、別途、授業変更の調整も行った。令和5年度はGoogle Classroomを用いて調整を行った。

【参考】配信校と配信教員、受信職員との連絡調整用クラスルーム「R5 遠隔授業連絡用」

The screenshot shows a Google Classroom page titled "R5 遠隔授業連絡用". It features a "Meet" button, a search bar for "クラスへの連絡事項を入力", and a main content area with a text announcement and a PDF link titled "遠隔授業予定の入力・確認... PDF".

Callout 1: 配信校からの連絡依頼のクラスルーム投稿

Callout 2: 受信から学校行事等の予定を知らせるクラスルーム投稿

Text in main content:

遠隔授業の配信予定を関係者で共有したいと思います。つきましては、「R5遠隔授業予定」の入力及び確認をお願いします。入力および確認方法は、添付してあるPDFで確認してください。

また、変更がある場合は、速やかに配信教員の本務校に連絡願います。また、新潟整江高校から配信される科目については、新潟整江高校にも連絡願います。

PDF Link: 遠隔授業予定の入力・確認... PDF

Table: 遠隔授業 6月授業予定

7日(水) 体育祭のため授業休止	2日(金) 「前フリー」のため授業休止
14日(水) 通常授業	9日(金) 通常授業
21日(水) 通常授業	16日(金) 通常授業
28日(水) 通常授業	23日(金) 通常授業
	30日(金) 通常授業

以上

4 遠隔授業の実施

令和5年度は計17科目にわたり遠隔授業を実施し、うち16科目は単位認定を伴う通年配信とした。また、文部科学省事業の特例措置により、一部科目で非常勤事務職員や実習助手による受信側補助も継続して実施した。

IV 遠隔授業実施表

★：同時配信 ☆：スポット配信

配信拠点	受信校	教科名	科目	開設学年	配信校生徒の有無	遠隔授業実施理由	受信側の配置体制
新潟翠江高校	阿賀黎明高校	芸術	書道 I	1 年	無	多様な教科科目開設	非常勤事務職員
新潟翠江高校	阿賀黎明高校	理科	化学基礎★	2 年	無	専門性	非常勤事務職員
佐渡高校	阿賀黎明高校	理科	地学基礎	2 年	無	多様な教科科目開設	非常勤事務職員
新潟翠江高校	阿賀黎明高校	地理歴史	地理 B	3 年	無	専門性	教諭(地歴)
新潟翠江高校	佐渡高校 相川分校	芸術	書道 I	2 年	無	免許外教科担任制解消	講師(国語)
新潟翠江高校	羽茂高校	理科	化学基礎★	2 年	無	専門性	教諭(理科)
佐渡高校	羽茂高校	理科	地学基礎	2 年	無	多様な教科科目開設	教諭(理科)
佐渡総合高校	羽茂高校	地域探究	ソーシャル・デザイン☆	2 年	無	免許外教科担任制解消	教諭(家庭)
新潟翠江高校	羽茂高校	国語	古典 B	3 年	無	習熟度	講師(国語)
新潟翠江高校	羽茂高校	地理歴史	セミナー日本史	3 年	無	専門性	実習助手(理科)
新潟翠江高校	佐渡総合高校	公民	政治・経済	2 年	無	免許外教科担任制解消	教諭(数学)
佐渡高校	佐渡総合高校	理科	地学基礎	2 年	無	多様な教科科目開設	教諭(理科)
新潟翠江高校	佐渡総合高校	福祉	社会福祉基礎	2 年	無	免許外教科担任制解消	教諭(家庭)
新潟翠江高校	佐渡中等教育学校	情報	情報 I	4 年	無	免許外教科担任制解消	教諭(国語)

新潟翠江高校	佐渡中等 教育学校	数学	数学B	5年	無	習熟度	講師(数学)
佐渡高校	佐渡中等 教育学校	理科	地学基礎	5年	無	多様な教科 科目開設	教諭(理科)
新潟翠江高校	佐渡中等 教育学校	外国語	論理・表現 II	5年	無	習熟度	教諭 (外国語)

【参考】令和5年度 遠隔授業(受信側5校の1週間)の時間割



V 遠隔授業の取組 ※配信日誌、受信サポート日誌より

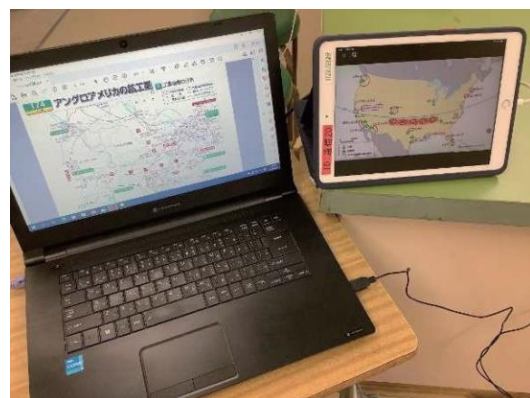
教科・科目	地理歴史・地理B	単位数	3
-------	----------	-----	---

受信校	新潟県立阿賀黎明高等学校		学年	3 学年
			受信生徒数	4 名
	受信教室配置職員	教員	○	教諭 (地理歴史)
教員以外				
配信校	新潟県立新潟翠江高等学校		配信教室の生徒の有無	無
遠隔授業で実施する主な理由	多様な教科・科目の開設			
	習熟度別指導の実施			
	免許外教科担任制度の解消			
	専門性の高い指導の実施		○	
主な使用アプリケーション等	Google	Classroom、Meet、Google Earth、スライド、Forms、Jamboard		
	その他	Book、映像資料、YouTube、NHK 高校講座		
配信側の状況	<p>○ 授業において、1人1台端末を活用した協働作業等を増やしたことで、生徒が考え、表現する機会が増え、双方向型の授業に変えていくことができた。</p> <p>○ Google Earth で生徒が興味・関心ある地域を自分で選んで調べるなど、各種アプリケーションを活用した調べ学習や発表の機会を設定することで、意欲的に授業に参加する態度を育成させることができた。</p> <p>○ ジャムボードを用いた協働作業を行い、活発に意見が出されていた。</p>			
受信側の状況	<p>○ 年度当初は、音声時々途切れたり、前の授業との連携がうまくとれず、開始時間が遅れることがあった。</p> <p>○ (毎時間) 機材準備、資料配付等や、(考査時) 答案用紙印刷・配付、答案返却 (採点済答案を受信し、スキャン)、解答例の印刷と配付等を行った。</p>			

【遠隔授業の様子】



配信側の様子



生徒のタブレットに投影する画面

教科・科目	理科・化学基礎	単位数	2
-------	---------	-----	---

受信校	新潟県立阿賀黎明高等学校		学年		2 学年
	新潟県立羽茂高等学校		受信生徒数		阿賀黎明 6 名 羽 茂 10 名
	※合同授業				
	受信教室配置職員	教員	○	羽 茂 実習助手	
教員以外		○	阿賀黎明 事務職員		
配信校	新潟県立新潟翠江高等学校		配信教室の生徒の有無		無
遠隔授業で実施する主な理由	多様な教科・科目の開設				
	習熟度別指導の実施				
	免許外教科担任制度の解消				
	専門性の高い指導の実施		○		
主な使用アプリケーション等	Google	Classroom、Meet			
	その他	ロイロノート			
配信側の状況	<p>○ 合同授業における 2 校の生徒同士の声は問題なくやりとりすることができた。阿賀黎明の生徒は、先生の声が聞こえづらい場面が何回かあった。</p> <p>○ 受信校のモニターには、配信側がはっきり映っているが、配信側のネットワークの接続が不安定で、配信側のモニターには 2 校の教室が順番に映らなくなる状況があった。</p> <p>【実験の振り返り】</p> <p>○ 羽茂高校の実験室から阿賀黎明の教室に配信した。タブレット 1 台と集音マイクだけで配信を行ったが、不便なく行うことができた。何度か阿賀黎明の生徒から、先生の声が聞こえづらいと指摘され、説明し直す場面があった。実験室の雑音も拾ってしまうので、聞き取りづらかったことが考えられる。回線が途中で切れたりするトラブルはなかった。場所を問わず配信できることが分かったことは大きな成果だった。</p> <p>○ 事前に Meetroom を作成し、生徒にグループごとに使用させた。イヤフォンを使用して、生徒同士の声は問題なく聞こえている生徒が多数であった。マイク付きヘッドフォンがあれば、よりクリアにやりとりでき、イヤフォンを準備できない生徒にも配慮できるので、望ましいと感じた。</p> <p>○ 教師間のやりとりは、Meet のチャットで行った。生徒に聞こえない状態でやりとりするには、今後もこれがいいという結論に達した。</p>				
受信側の状況	<p>○ Classroom、ロイロノートの登録、操作に手間取っている生徒への支援</p> <p>○ 音声確認や、質問に対する生徒の解答が通らないときの補助</p> <p>○ 両校の教室の集音マイクを ON のまま行ったが、雑音が多く、聞き取りにくい場面があった。配信教員が長めに話しをするときは、教室の集音マイクを OFF にした方が、聞き取りやすい。(羽茂)</p>				

○ 配信教員の声が、たまに途切れて聞こえ、遅れて届く場面があった。(阿賀黎明)

【実験の振り返り】

○ 授業内の簡単な実験であったが、何が起こるかわからないので、予備等は準備しておいた方がよい。また、実験をしても十分な時間が確保できていたので、余裕をもってハプニングにも対応できた。

【遠隔授業の様子】



配信側の様子



対面授業の様子



タブレット端末に書き込む生徒の様子



グループでタブレット端末を確認する生徒の様子



遠隔授業で実験に取り組む生徒の様子



対面授業で実験に取り組む生徒の様子

【参考】合同授業による実験について

- 1 日時 令和5年7月14日（金）3限
- 2 場所 羽茂高校 化学実験室（対面授業）
- 3 内容 ナトリウムの性質
- 4 方法

- (1) 羽茂高校は3グループで実験を行い、阿賀黎明高校の生徒が2人ずつ羽茂高校のグループに入る。
- (2) グループごとに Meet に入り、イヤフォンをつけて、羽茂の生徒が実験の様子を説明しながら配信し、実験結果の写真などもロイロノートで送る。
- (3) 実験の様子は、タブレットに集音マイクをつなぐことで、阿賀黎明高校に配信する。
- (4) 実験結果を共有し、レポートを作成して全員が提出する。

5 事後アンケートより

- (1) 学習内容の理解度について

9割以上理解できた。	9名
5～8割理解できた。	4名
半分以上理解できなかった。	0名
ほとんど理解できなかった。	0名



羽茂高校の実験の様子

- (2) 実験の進め方について

ほぼ問題なく行うことができた。	8名
少し不具合があったが、8割以上は問題なくできた。	3名
半分くらい不具合があった。	0名
不具合により、ほとんど使用できなかった。	0名

- (3) Google Meet を使用した2校合同グループでの活動の感想

- 他校の生徒と手を振ったり、アイコンタクトを取ったりできて良かったです。
- 実験を2つの学校と協力することができて楽しかったです。
- 2回目のリモートでの実験で、うまくコミュニケーションをとり、阿賀黎明高校の生徒と情報提供などしてとても楽しくできました。また次の実験でもしたいなと思いました。
- 私は、今回、少し慌ててしまいました。前回よりもきちんとできてよかったです。次回は、焦らず冷静になって頑張りたいです。お互い協力しながら最後まで終わることができてよかったです。
- グループの人とのコミュニケーションが楽しかったです。またやりたいです。
- 同じ班の人が、実験するときに説明してくれ、分からないところを質問すると教えてくれたので分かりやすかったです。
- 実験は自分でやったほうが面白いので、次回を楽しみにしています。

- (4) 2校合同グループ活動について

機会があれば、また合同グループでやってみたい。	10名
できれば、グループ活動は学校ごとに行ってほしい。	1名

教科・科目	理科・地学基礎	単位数	2
-------	---------	-----	---

受信校	新潟県立阿賀黎明高等学校 新潟県立羽茂高等学校 新潟県立佐渡総合高等学校 新潟県立佐渡中等教育学校		受信学年	2年 (佐渡中等は5年)
			受信生徒数	阿賀黎明 9名 羽 茂 16名 佐渡総合 5名 佐渡中等 2名
	受信教室配置職員	教員	○	羽 茂 教諭 (理科) 佐渡総合 教諭 (理科) 佐渡中等 教諭 (理科)
		教員以外	○	阿賀黎明 事務職員
配信校	新潟県立佐渡高等学校		配信教室の生徒の有無	無
遠隔授業で実施する主な理由	多様な教科・科目の開設		○	
	習熟度別指導の実施			
	免許外教科担任制度の解消			
	専門性の高い指導の実施			
主な使用アプリケーション等	Google	Classroom、Meet		
	その他	問題集等のQRコード、YouTube、PowerPoint		
配信側の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の自由な発言への対応に難しさを感じている。 ○ 音声が聞き取りにくいときがあるため、音声を安定させて行いたい。 ○ 対面授業について意見交換を行った。 ○ Classroom を用いて考査について生徒に直接連絡することができた。 ○ 考査の良かったところを生徒に伝えることができ、生徒と多くのコミュニケーションをとることができた。 ○ スイッチの切り替えを誤るときが複数回あったが、その都度生徒が指摘してくれた。 ○ 生徒の体調について (暑さ・寒さ・インフルエンザ)、受信側と情報共有 ○ 授業中に通信が一時乱れたが、受信側でしっかり対応してくれた。 			
受信側の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 少し画面に映っていない部分があったため、声をかけ、修正した。 ○ 授業に集中していない生徒に、体勢を起こすよう、声をかけた。 ○ 座席が後ろの生徒から、画面が見えにくいと言われたため、座席変更を行った。 ○ テスト日程とテストデータのやりとりについて、確認の打ち合わせを行った。 ○ 授業中に指名された生徒の補助を行った。生徒の特性など、配信側にもある程度伝えておく必要があると感じた。 			

- 配信用カメラが故障したため、別のカメラを調整した。
- 端末を忘れた生徒へ、貸出の対応を行った。
- 配信画面の文字が見えにくかったため、タブレットを用いて画面を拡大して映した。

【遠隔授業の様子】



佐渡高校からの配信側の様子



羽茂高校での対面授業の様子



阿賀黎明高校での対面授業の様子



佐渡中等教育学校での対面授業の様子

教科・科目	芸術・書道 I	単位数	2
-------	---------	-----	---

受信校	新潟県立阿賀黎明高等学校		受信学年	1年
			受信生徒数	4名
	受信教室配置職員	教員		
教員以外		○	事務職員	
配信校	新潟県立新潟翠江高等学校 ※配信教員は新潟向陽高等学校教諭		配信教室の生徒の有無	無
遠隔授業で実施する主な理由	多様な教科・科目の開設		○	
	習熟度別指導の実施			
	免許外教科担任制度の解消			
	専門性の高い指導の実施			
主な使用アプリケーション等	Google	Classroom、Meet		
	その他	ロイロノート、フォトプレーヤー		
配信側の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 配信側と受信側の映像で、映る大きさが異なり、生徒にとっては見えにくい部分があることが分かった。 ○ ピンマイクを使用して、音量の調節を図ることができた。 ○ 個々に異なる作業を行うと、対応の難しさを一層感じるようになった。 ○ 篆刻の授業で、写真を撮影し、拡大して削るところを記入できるロイロノートを活用した。 ○ デザイン書道コンクールの作品をフォトプレーヤーのアプリケーションを使った。生徒は手慣れており、写真と文字をうまく融合させていた。 ○ 動画を配信し、授業に変化をつけた。生徒は視覚からの情報を得ることができ、動画が役に立ったようであった。 			
受信側の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 機器の準備や、モニター画面と音声の確認を行った。 ○ 授業終了後、生徒が筆を洗い終わった後の洗面所の汚れを確認した。 ○ タブレットで生徒の手元を映した。 ○ 途中で保健室に行く生徒の対応をした。後片付けも行った。 ○ タブレットを忘れた生徒への対応を行い、授業がスムーズに進められた。 ○ 生徒についての情報共有を図った。 ○ 生徒が草書の書き方を教えてくれた。 ○ 完成した作品を、コピーして応募用紙と一緒に送った。 			

【遠隔授業の様子】



配信側の様子



受信側の様子

受信側補助が、生徒の手元を映し、配信教員へ伝えている様子



対面授業の様子①（毛筆）



対面授業の様子②（篆刻）

教科・科目	芸術・書道 I	単位数	2
-------	---------	-----	---

受信校	新潟県立佐渡高等学校相川分校		受信学年	2年
			受信生徒数	18名
	受信教室配置職員	教員	○	講師（国語）
		教員以外		
配信校	新潟県立新潟翠江高等学校 ※配信教員は新潟東高等学校教諭		配信教室の生徒の有無	無
遠隔授業で実施する主な理由	多様な教科・科目の開設			
	習熟度別指導の実施			
	免許外教科担任制度の解消		○	
	専門性の高い指導の実施			
主な使用アプリケーション等	Google	Classroom、Meet		
	その他	書画カメラ、YouTube、keynote		
配信側の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 繊細な筆遣いの「仮名の書」では、書画カメラで拡大して伝えることが有効である。 ○ 生徒の揮毫の様子等を画像で伝えてもらっているが、仮名の繊細な筆遣いのニュアンスを伝え難く、もどかしさを感じた。 ○ 「筆の洗い方」の動画を作成して示した。口頭での説明よりも具体的に分かりやすいと感じた。 ○ 音声にタイムラグがあり、質問に答えさせる際に、大きな声で話さないと聞き取りづらいことがある。 			
受信側の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ iPadで生徒の筆遣いを撮影した。 ○ 真面目に取り組む生徒への賞賛の言葉かけや、授業に集中できていない生徒への注意、励ましなど。 			

【遠隔授業の様子】




生徒が作品を配信教員に見せる様子



対面授業の様子

教科・科目	国語・古典B	単位数	2
-------	--------	-----	---

受信校	新潟県立羽茂高等学校		受信学年	2年
			受信生徒数	12名
	受信教室配置職員	教員	○	講師（国語）
		教員以外		
配信校	新潟県立新潟翠江高等学校		配信教室の生徒の有無	無
遠隔授業で実施する主な理由	多様な教科・科目の開設			
	習熟度別指導の実施		○	
	免許外教科担任制度の解消			
	専門性の高い指導の実施			
主な使用アプリケーション等	Google	Classroom		
	その他	Goodnote、カフト		
配信側の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒がアプリケーションの使用に慣れてきて、計画どおりスムーズに授業を実施することができた。 ○ 生徒がタブレットから回答を送信できているかの確認を受信側補助に依頼した。 ○ 確認テストの印刷を依頼し、やり方を共有した。 			
受信側の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音声状況の確認や、アプリケーションの受信状況の確認と補助を行った。 ○ ペア活動の補助を行った。 <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;">  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>生徒がタブレットと教科書、ノートを併用して授業を受けている様子</p> </div> </div>			

【遠隔授業の様子】



配信側の様子



受信側の様子

教科・科目	地理歴史・セミナー日本史	単位数	3
-------	--------------	-----	---

受信校	新潟県立羽茂高等学校		受信学年	3年
			受信生徒数	2名
	受信教室配置職員	教員	○	実習助手（理科）
教員以外				
配信校	新潟県立新潟翠江高等学校		配信教室の生徒の有無	無
遠隔授業で実施する主な理由	多様な教科・科目の開設			
	習熟度別指導の実施			
	免許外教科担任制度の解消			
	専門性の高い指導の実施		○	
主な使用アプリケーション等	Google	Classroom、Meet、Jamboard		
	その他	SideBooks、GoodNotes		
配信側の状況	<p>○ 教師の問いを中心に置くジャムボードの様式がおおよそ仕上がりに、生徒は問いを出すことに抵抗がなくなってきたと実感した。</p> <p>○ ジグソー学習を実施。2名だと、協働学習にも限界があると実感した。</p> <p>○ 探究活動の成果発表会を実施した。生徒の成果発表資料と発表内容が一段とよくなっており、成長を感じられた。</p> <p>○ 昼休みに「質問タイム」をオンラインで行った。授業内で理解できなかったことを個別に質問できたことで、生徒から「分かった！」と声が出たことが何よりの成果だった。</p>			
受信側の状況	<p>○ 生徒の作業速度を確認するため、手元をタブレットで撮影した。</p> <p>○ 探究活動評価シートを受け取り、生徒の発表の様子を撮影した。</p> <p>○ 個々の質問に対応するため、ヘッドフォンを準備した。</p>			

【遠隔授業の様子】



配信側の様子



受信側の様子

※スポット配信

教科・科目	地域探究・ソーシャルデザイン	単位数	2
-------	----------------	-----	---

受信校	新潟県立羽茂高等学校		受信学年	2年
			受信生徒数	21名
	受信教室配置職員	教員	○	教諭（家庭）
		教員以外		
配信校	新潟県立佐渡総合高等学校		配信教室の生徒の有無	有
遠隔授業で実施する主な理由	多様な教科・科目の開設			
	習熟度別指導の実施			
	免許外教科担任制度の解消		○	
	専門性の高い指導の実施			
主な使用アプリケーション等	Google	Classroom、Meet		
	その他	PowerPoint		
配信日時	① 令和5年10月5日（木） ② 令和5年12月14日（木） ③ 令和6年2月22日（木）			
授業内容	① 効果的なプレゼンテーションの方法 ② プレゼンテーションの評価について ③ 3校合同での探究発表会（阿賀黎明、羽茂、佐渡総合）			
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ パワーポイントとプリントを使いながら、ポイントを押さえて授業することができた。 ○ 生徒の理解度を確認しながら、ゆっくりと話すことを意識して授業を進めることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一方的な授業展開となったため、生徒とのやり取りや生徒同士の意見交換、グループワークでの作業などの工夫をしていきたい。 ○ ワークシートを使用ながら授業を行ったが、受信校の生徒の手元の様子や進捗状況が把握できなかった。受信校の補助教諭との連携が必要であると感じた。 			

教科・科目	公民・政治経済	単位数	2
-------	---------	-----	---

受信校	新潟県立佐渡総合高等学校		受信学年	2年
			受信生徒数	6名
	受信教室配置職員	教員	○	教諭（数学）
		教員以外		
配信校	新潟県立新潟翠江高等学校		配信教室の生徒の有無	無
遠隔授業で実施する主な理由	多様な教科・科目の開設			
	習熟度別指導の実施			
	免許外教科担任制度の解消		○	
	専門性の高い指導の実施			
主な使用アプリケーション等	Google	Classroom、Meet、Jamboard、Forms		
	その他			
配信側の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日常的に生徒と接して質問を受けたりできないため、Google Classroomをもう少し活用していきたい。 ○ 授業だけでなく、行事や部活動などで生徒の様子を見たいと感じる。 ○ インフルエンザで学年閉鎖のため、受講できる生徒のみ自宅からのオンラインで行った。授業に参加できなかった生徒へも、資料や課題等をClassroomで確認することができるため、タブレット端末整備の恩恵を感じた。 			
受信側の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 配信教員が生徒一人一人と会話をしながら、信頼関係を築こうとしていることが伝わる授業を行っている。 ○ 生徒同士が、助け合いながら協力して取り組む姿勢が感じられる。 ○ 遠隔授業の取組をとおして、タブレットの操作に慣れ、自分の授業改善にも活かしていきたい。 			

【遠隔授業の様子】



受信側の様子



生徒が画面を共有している様子

教科・科目	福祉・社会福祉基礎	単位数	2
-------	-----------	-----	---

受信校	新潟県立佐渡総合高等学校		受信学年	2年
			受信生徒数	7名
	受信教室配置職員	教員	○	教諭（家庭）
		教員以外		
配信校	新潟県立新潟翠江高等学校 ※配信教員は新潟向陽高等学校教諭		配信教室の生徒の有無	無
遠隔授業で実施する主な理由	多様な教科・科目の開設			
	習熟度別指導の実施			
	免許外教科担任制度の解消		○	
	専門性の高い指導の実施			
主な使用アプリケーション等	Google	Classroom、Meet		
	その他	PowerPoint、ロイロノート		
配信側の状況	<p>○ ロイロノートの活用により、個人の考えをグループやクラスで共有することができ、その場で様々な意見やアドバイスをすることができた。</p> <p>○ ロイロノートのアンケート機能により、時間のかかるアンケートの集約が容易にできるようになった。</p> <p>○ 盲導犬ユーザーの導線確認のため、教室外に出てグループワークを行い、生徒の様子をタブレット（Meet）で映してもらった。その際、新たに配信教室に設置されたモニターも利用したところ、2画面且つ大画面で確認することができ、指示を出し易かった。</p>			
受信側の状況	<p>○ 画面に映像が写らない、音声が入らない等のトラブルがあり、授業開始時刻が数分遅れてしまった。電源を別の場所に変える、Meetの接続をやり直す等の対処により回復することができた。</p> <p>○ 生徒同士の活動（自己紹介）のサポートを行った。音声が届かなくなったため、タブレットで動画検索し、生徒に見せた。</p> <p>○ 生徒のグループ活動（話し合い）のサポートを行った。ロイロノートでの作業の支援、配信教員への伝達を行い、円滑に授業が進行した。</p>			
外部との連携等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6月26日（月）地域福祉講習会 ・ 7月3日（月）外部講師による講話（新潟医療福祉カレッジより） ・ 10月2日（月）車椅子ユーザー講習会 ・ 10月30日（月）「認知症に関する講座」「認知症VR体験」（株式会社ツクイ） 【振り返り】VR機器によって認知症をリアルに体験することで、認知症に対する理解が深まった。講習会実施後のアンケートでは、認知症サポーターとして活躍したいという意欲的な回答が大半を占めた。生徒にとっては非常に意義深い体験となったと感じている。 ・ 11月27日（月）「手話講習会」（手話サークルたつのこ他） 			

【遠隔授業の様子】



画面越しに生徒と対話する様子



ロイロノートで課題を配付している様子



車椅子ユーザーの誘導計画を立てる生徒の様子



VR 体験授業の様子



車椅子ユーザー講習会の対面授業の様子



教科・科目	数学・数学B	単位数	2
-------	--------	-----	---

受信校	新潟県立佐渡中等教育学校		受信学年	5年
			受信生徒数	6名
	受信教室配置職員	教員	○	教諭（数学）
		教員以外		
配信校	新潟県立新潟翠江高等学校		配信教室の生徒の有無	無
遠隔授業で実施する主な理由	多様な教科・科目の開設			
	習熟度別指導の実施		○	
	免許外教科担任制度の解消			
	専門性の高い指導の実施			
主な使用アプリケーション等	Google	Classroom、Meet、Jamboard		
	その他	Book、TFabTile		
配信側の状況	<p>○ 今年度の生徒は、昨年度からタブレットを利用しているため、利用についての説明に時間をかけずに、スムーズに進めることができている。</p> <p>○ TFabTile から特定の生徒が退出している状況があり、受信側と協力して対応している。</p> <p>○ 出席停止の生徒が、リモートで授業に参加した。</p>			
受信側の状況	<p>○ タブレットの充電がなくなっている生徒がいて、延長コードで対応した。</p> <p>○ スピーカーの前にいる生徒にとっては音量が大きすぎ、他の生徒からは聞こえづらい状況があり、調整に苦労している。</p>			

【遠隔授業の様子】



配信側の様子



対面授業の様子

教科・科目	外国語・論理表現Ⅱ	単位数	2
-------	-----------	-----	---

受信校	新潟県立佐渡中等教育学校		受信学年	5年
			受信生徒数	12名
	受信教室配置職員	教員	○	教諭（外国語）
教員以外				
配信校	新潟県立新潟翠江高等学校		配信教室の生徒の有無	無
遠隔授業で実施する主な理由	多様な教科・科目の開設			
	習熟度別指導の実施		○	
	免許外教科担任制度の解消			
	専門性の高い指導の実施			
主な使用アプリケーション等	Google	Classroom、Meet		
	その他	ロイロノート		
配信側の状況	<p>○ 生徒はタブレットの使用に慣れていていると感じる。</p> <p>○ 生徒の声が聞き取りづらい課題があり、通常の教室同士をつなぐClassroomのPCクラスとは別に、生徒にはタブレットクラスに入ってもらい、発言の際はイヤフォンマイクを使ってタブレットクラスの音声がかかるようにしてみた。だが、画面の切り換えに手間がかかり、スムーズに進まない課題が残った。</p>			
受信側の状況	<p>○ イヤフォンマイクによる個別指導の支援</p> <p>○ グループ活動の支援</p> <p>○ テストの振り返りの記入後、撮影したデータを送信</p> <p>○ 発表動画の撮影</p>			

【遠隔授業の様子】



配信側の様子



受信側の様子

教科・科目	情報・情報 I	単位数	2
-------	---------	-----	---

受信校	新潟県立佐渡中等教育学校		受信学年	4年
			受信生徒数	22名
	受信教室配置職員	教員	○	教諭（国語）
教員以外				
配信校	新潟県立新潟翠江高等学校 ※配信は新潟南高等学校教諭		配信教室の生徒の有無	無
遠隔授業で実施する主な理由	多様な教科・科目の開設			
	習熟度別指導の実施			
	免許外教科担任制度の解消		○	
	専門性の高い指導の実施			
主な使用アプリケーション等	Google	Classroom、Meet、Jamboard		
	その他			
配信側の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ スライド、iPad（教師、生徒とも）を用いて、授業を進めた。 ○ 配信側から、手元の iPad で受信側生徒のタブレットに写真やデータを送信しながら授業を展開した。 ○ 隣同士のペアワークでは、異なる情報をお互いに共有し合う工夫をした。 ○ 受講人数が多く、席が近いこともあり、隣同士等で相談し合う和やかな雰囲気がある。 			
受信側の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観点別評価のため、机間指導を行っている。 ○ 生徒の発言が聞こえづらいため、マイクを渡して話してもらった。 ○ 受信側のパソコンで作成したホームページのデータを配信側へ送付した。 ○ どこに何を入力するか分からない生徒へ、入力先を伝え、支援した。 			

【遠隔授業の様子】



配信側の様子



受信側の様子

VI 学校間連携（生徒交流）の取組

1 SaGaSu ゼミ

(1) 学校蔵の特別授業 2023『佐渡から考える島国ニッポンの未来』への参加

- ア 日時 令和5年6月24日（土）13:40～16:40
イ 主催 尾畑酒造株式会社
ウ 会場 学校蔵（佐渡市西三川 1871）
エ 参加 佐渡高校、羽茂高校の SaGaSu 委員生徒
オ 内容 SaGaSu 委員会で取り組んできた探究活動「伝統芸能と現代を繋げる」を発表



学校蔵特別授業に参加する SaGaSu 委員生徒の様子

(2) ネットワーク校合同探究発表会（第1回）

- ア 日時 令和5年10月31日（火） 13:40～15:40
イ 方法 オンライン（Zoom）
ウ 参加校 阿賀黎明高校、佐渡高校、佐渡高校相川分校、羽茂高校、佐渡総合高校の2年生全員、佐渡中等教育学校の5年生全員、合計374人
エ 内容 ネットワーク構成校6校374人の生徒が、8人程度のグループに分かれ、他校の生徒に自分の探究活動等の取組を発表、質疑応答
グループは、発表テーマ、SDGsの17の目標に関連づけて30のグループに編成

オ 参加生徒の感想

- 他校の生徒と関わる機会が少なかったので、合同発表会という形で交流できたことが新鮮だった。
- 他校の生徒の発表を聞いて、調査方法など参考になることが多くあった。
- 初対面ということもあり、緊張してうまくいかなかったが、自分の考えたことのない分野の探究を知ることができた。

(3) 「遠隔サミット in 広島」への参加

ア 日 時 令和6年1月23日(火) 13:20~16:30

イ 方 法 オンライン (Zoom)

ウ 参加校 【広島県】油木高校、東城高校、日影館高校、広島県生徒実行委員会
【新潟県】SaGaSu 委員 (羽茂高校2年生4名)

オ 内 容 SaGaSu 委員会で取り組んできた探究活動「伝統芸能と現代を繋げる」を発表
探究活動の発表における両県参加校からの質疑応答

カ 参加生徒の感想

- 広島県との合同発表会は初めてでしたが、とても有意義な時間だった。自分たちが住む地域や通っている学校の課題を見つけ、課題解決に向けて、「そういう考え方や見方があるんだ」と学ぶことが多かった。羽茂高校の発表に対しては、分かりづらかった意見も少々あり、伝えたつもりで伝わっていなかった。この経験を糧に、今後の発表やプレゼンの時は、自分の言葉で相手に伝わることを意識したい。
- 県外の生徒に発表するのはとても緊張したが、リハーサル時と違い、みんなが堂々と発表できて、とても良い経験になったと同時に、伝える難しさを学んだ。

キ SaGaSu 委員会の発表に対する広島県生徒からのコメント

- 新潟県の伝統芸能については全く知らなかったもので、様々な伝統・文化があることを知ることができて嬉しかった。
- 6校が連携し、3つの班で分担して効率よく取り組んでいることがよく分かった。次の代にも受け継いで進めていってほしい。

(4) ネットワーク校合同探究発表会 (第2回)

ア 日 時 令和6年1月26日(金) 13:40~15:40

イ 方 法 オンライン (Zoom)

ウ 参加校 阿賀黎明高校、佐渡高校、佐渡高校相川分校、羽茂高校、佐渡総合高校の2年生全員、佐渡中等教育学校の5年生全員、合計374人

エ 内 容 ネットワーク構成校6校374人の生徒が、8人程度のグループに分かれ、他校の生徒に自分の探究活動等の取組を発表、質疑応答
グループは、第1回の発表会に基づき、30のグループに編成

オ 司 会 羽茂高校2年 SaGaSu 委員2名

カ 司会生徒の感想

- 前回は、生徒同士のコミュニケーションが少なかったり、他の学校の様子が分からなかったりと、不安な状態で発表会を行った印象でした。今回、司会を務めて感じたのは、顔が見えていると緊張がほぐれやすいと思いました。生徒が進行することで堅苦しさが緩和されて良かったです。
- このような大勢の前で司会を務めることは初めてでした。嬉しさの反面、戸惑いもありました。人に伝えることの難しさを実感しながら、何度も会議を行い、入念に準備をしました。本番は会場の雰囲気にも圧倒されながらも、心を込めて精一杯務めました。

キ 参加生徒の感想

- 色々な生徒の発表を聞くことで、自分の視野を広げることができた。

- グループは同じメンバーだったので、前回の疑問点をより深く探ることができた。
- 自分とは違う意見を聞くことができ、新しい考え方が生まれた。普段聞くことができないような意見や感想を聞くことができた。
- 他校の生徒がどんな活動を行っているかを知る機会があまり無かったので楽しかった。実際に体験に行ったり、実験を行ったりしている生徒が多く、私もやってみたいと思った。

(5) 地域探究等における3校合同発表会

ア 日時 令和6年2月22日（木） 9:50～11:30

イ 会場 各校（オンライン）

ウ 参加校 阿賀黎明高校、羽茂高校、佐渡総合高校の2年生

エ 内容 3校それぞれの代表グループが、地域資源を活かした探究学習の成果を発表

順番	発表者	発表内容
1	羽茂高校 2名	地元の植物を広めよう～佐渡の植物を使った香水作り～
2	羽茂高校 2名	学校給食の栄養バランスを考慮した佐渡牛乳マフィンの提案
3	羽茂高校 2名	Let's cook 佐渡米
4	阿賀黎明高校 4名	廃校キャンプ提案 Pro.
5	阿賀黎明高校 2名	鬼うま Pro.
6	阿賀黎明高校 3名	まっくろくろすけ作り Pro.
7	佐渡総合高校 1名	探究活動のまとめ 野草班
8	佐渡総合高校 1名	プログラミングで佐渡活性化
9	佐渡総合高校 1名	子育ての現状と課題解決に向けて
10	佐渡総合高校 1名	農業の未来

オ 講評 佐渡市総合施策課政策推進係 霍間洋実 様

- 探究は発表して終わりではなく、卒業して社会に出てから役に立つものである。
- 違う視点を持つことができるのは、自分ごととして捉えている証拠である。
- 3校が合同でつながって発表できる機会是他校にはない取組で、たいへん有意義に感じた。



発表会に参加する生徒の様子（会場：羽茂高校）



羽茂高校 発表1の生徒の様子とスライド

実践1



かやの実から香りを抽出

<目的>

七名地区は7つの集落から形成されています。高齢化率は**60%**を超えており、子供がいないという現状を知りました。そこで、七名地区が山の中にあり自然豊かなところが**となりのトトロの景色**に似ていると感じ、子供たちにしか見えないことからまっくろくろすけを作ろうと思いました。

阿賀黎明高校 発表5のスライド

⑨10月30日 実施内容

- 上川診療所2階の調理室で上川のお母さん達とおにまんじゅうをつくった
- 弁当箱におかず(炊き込みご飯、おにまんじゅう、肉巻き、卵焼き、春菊の胡麻和え、キウイ)を詰めた
- 記念写真を撮った
- つくったお弁当を上川地区の方に配った

阿賀黎明高校 発表6のスライド

観光地

- ・レビュー
- ・営業日
- ・混雑状況
- ・近道ルート
- ・SNSに飛べるURL
- ・イベント情報

→リアルタイム更新

佐渡総合高校 発表8のスライド

宣伝の仕方

- SNS (Instagram、Facebook)
- 子育てイベント専用サイト
- ポスターやチラシ (コンビニやスーパーなど)
- 保育園で配布
- 保育園の公式LINEを作る
- 開催したイベントを動画で流し次回の参加者を増やす

佐渡総合高校 発表9のスライド

2 SaGaSu 委員会

(1) 第1回 SaGaSu 委員会

- ア 日時 令和5年5月30日(火) 16:00~16:50
イ 方法 オンライン (Google Meet)
ウ 内容 各校からの学校紹介、これまでの取組の振り返り、今後の活動に係る情報共有
ゼミ班、発信班、交流班に分かれての活動を継続していくことを確認



各校で意見を出し合う SaGaSu 委員生徒の様子

(2) 第2回 SaGaSu 委員会

- ア 日時 令和5年7月7日(金) 16:00~16:50
イ 方法 オンライン (Google Meet)
ウ 内容 ゼミ班、発信班、交流班に分かれ、シンポジウムに向けてのミーティング



オンライン上で意見交換する SaGaSu 委員生徒の様子

(3) 第3回 SaGaSu 委員会 (広島県との交流)

- ア 日時 令和5年10月31日(火) 16:00~16:50 (ネットワーク校合同探究発表会終了後)
イ 方法 オンライン (Zoom)
ウ 参加校 【広島県】 油木高校、日彰館高校、東城高校
【新潟県】 阿賀黎明高校、佐渡高校、佐渡高校相川分校、羽茂高校、
佐渡総合高校、佐渡中等教育学校
エ 内容 各県の探究活動等の取組を共有
【広島県】「命をいただく」(日彰館高校)
鳥獣被害対策としてのジビエ料理を利用した解決策
【新潟県】「伝統芸能と現代を繋げる」(佐渡高校が代表発表)
地域の伝統芸能についての探究

(4) 第4回 SaGaSu 委員会

- ア 日時 令和5年12月18日(月) 16:00~16:50
イ 方法 オンライン (Google Meet)
ウ 内容 ゼミ班(探究活動の発表)、発信班(noteでの活動発信)、交流班(広島県との生徒交流)についての、1月の合同探究発表会に向けたミーティング

(5) 第5回 SaGaSu 委員会

- ア 日時 令和6年1月11日(木) 15:40~16:10
イ 方法 オンライン (Google Meet)
ウ 参加校 羽茂高校 SaGaSu 委員2年生5名
エ 内容 「遠隔サミット in 広島」での活動発表の役割分担、ネットワーク校合同探究発表会での司会に係る打ち合わせ



意見交換を行う羽茂高校 SaGaSu 委員生徒

【SaGaSu 委員生徒からの提案】

- (第2回ネットワーク校合同発表会に向けて)
- ・生徒が中心となって発表会を進めたい。
 - ・(各校 SaGaSu 委員生徒へ) ファシリテーターがスムーズに進行できる、生徒が積極的に意見を出せるような雰囲気させるように話してほしい。

(6) 第6回 SaGaSu 委員会

- ア 日時 令和6年1月16日(火) 16:00~16:50
イ 方法 オンライン (Google Meet)
ウ 内容 「遠隔サミット in 広島」での発表、質疑応答のリハーサル、ネットワーク校合同探究発表会(第2回)の進行確認、今後の活動について

(7) 第7回 SaGaSu 委員会(長崎県との交流)

- ア 日時 令和6年3月11日(月) 15:05~16:05
イ 方法 オンライン
ウ 参加校 【長崎県】宇久高校1年生2名 2年生3名
【新潟県】羽茂高校1年生3名 2年生4名
エ 内容・自己紹介
・互いの学校生活の様子についての質問

オ 参加生徒の感想

- 「次も交流したい」とお互い思えることを目標にした結果、終始和やかな会にすることができた。
- 前半はお互いに緊張と恥ずかしさがあったが、次第に質問やその回答から自然と会話が生まれ、自由に発言できるようになった。

- 島内の交通事情や海岸清掃、ごみ問題など、共通することが多かったこと、ゲームやスポーツに関する話題など、意気投合する場面も多かった。
- 自分と趣味の合う友達ができ嬉しかった。終始笑顔で過ごすことができ、これまでの交流の中で一番有意義な交流会になった。

カ その他

- 2月27日（火）には、職員の交流会もオンラインで実施した。
- 来年度4月末を目途に、第2回の交流会を計画し、新入生を迎えた学校の様子や探究学習などの交流を進めていく予定である。

3 成果と課題

- ネットワーク校合同探究発表会は、令和5年度の年間行事計画に設定し、昨年に引き続き2回実施することができた。
- SaGaSu委員会において、生徒主体の発表会にしたいという提案があり、司会や挨拶等を生徒主体の発表会にすることができ、参加生徒の主体性や積極性の向上が伺えた。
- 最終事業報告会（シンポジウム）の発表では、今までオンラインでの交流しかなかった生徒同士が初めて対面で接し、これまでの取組を学校間で協力しながら発表することに向けて協働で取り組むことができた。
- SaGaSu委員会の活動は、管理機関がスケジュール調整や活動の指示を行ってきたため、来年度以降の取組に向けて、自走体制の構築に向けて課題が残った。地域の伝統芸能に関する探究活動や、地域の魅力発信など、これまでの委員会活動を活かし、生徒が主体的に活動できる体制づくりに向けて、引き続きネットワーク校へ働きかける。
- 本プロジェクトをとおして、広島県や長崎県との交流の土台を作ることができた。次年度以降、各校において、県内外の学校間連携の取組を継続していくことで、より一層生徒が多様な価値観に触れる機会を創出していくような働きかけが必要となる。
- 総合的な探究の時間への取組を、発表会を設定するという形で支援することができた。次年度以降、各校での発表会や、同じテーマによる複数校合同での探究の取組、県外校との交流を交えた発表会等、各校の実情に合わせた形で事業成果を継続させ、自分の意見を分かりやすく伝える力や、生徒が物事に進んで取り組む力などをいっそう身に付けていけるような支援を継続する。

Ⅶ 考察

1 生徒対象授業アンケート結果

年3回（7月、11月、2月）に受信生徒対象の授業アンケートを Google forms を利用して実施するとともに、管理機関が定期的に授業視察（訪問・オンライン）や、配信教員、受信補助職員等へのヒアリングを継続的に行った。この結果を踏まえながら、これまでの取組から遠隔授業の成果と課題を検証する。

(1) 対象生徒数 141名（通年の配信授業を受講している生徒数）

(2) 質問項目

- 大型ディスプレイに表示される映像や資料の見やすさ
- 配信する先生の音声の聞き取りやすさ
- 配信教員へ質問や、問いかけに対する回答のしやすさ
- タブレット端末の操作について
- 通常の授業と比較した、授業の理解度
- 通常の授業と比較した、授業の参加態度（意欲的に参加できたか）
- 通常の授業と比較した、自己表現や協働活動の頻度
- 通常の授業と比較した、
 - ・ノートやプリントに書く時間
 - ・他の生徒の意見や考えを共有する時間
 - ・一人で考える時間
 - ・先生に個別に教えてもらう時間
- 他の教科・科目での希望
- 他の学校との合同授業の希望
- 通常の授業と比較した、Google Classroom の活用頻度
- 通常の授業と比較した、自宅課題が出される頻度
- 配信教員から出される自宅課題の難易度
- 遠隔授業への要望

(3) 回答状況と主な質問項目の回答結果（人数と割合）

7月：85人（60.3%） 11月：78人（55.3%） 2月：104人（73.8%）

- 大型ディスプレイに表示される先生の映像や資料は見やすかったですか。

	7月	11月	2月
大変そう思う	35人（41.1%）	31人（39.7%）	33人（31.7%）
そう思う	36人（42.4%）	36人（46.2%）	51人（49.0%）
あまり思わない	10人（11.8%）	10人（12.8%）	16人（15.4%）
全く思わない	4人（4.7%）	1人（1.3%）	4人（3.8%）

- タブレット端末の操作はスムーズに行うことができましたか。

	7月	11月	2月
大変そう思う	42人 (49.4%)	48人 (61.5%)	51人 (49.0%)
そう思う	31人 (36.4%)	23人 (29.5%)	41人 (39.4%)
あまり思わない	10人 (11.8%)	6人 (7.7%)	10人 (9.6%)
全く思わない	2人 (1.3%)	1人 (1.3%)	2人 (1.9%)

- 通常の授業と同じくらい（またはそれ以上に）、授業内容を理解できましたか。

	7月	11月	2月
大変そう思う	32人 (37.6%)	29人 (37.2%)	32人 (30.8%)
そう思う	28人 (32.9%)	33人 (42.3%)	53人 (51.0%)
あまり思わない	20人 (23.5%)	16人 (20.5%)	15人 (14.4%)
全く思わない	5人 (5.9%)	0人 (0.0%)	4人 (3.8%)

- 通常の授業と同じくらい（またはそれ以上に）、意欲的に参加することができましたか。

	7月	11月	2月
大変そう思う	39人 (45.9%)	28人 (35.9%)	40人 (38.5%)
そう思う	36人 (42.4%)	40人 (51.3%)	53人 (51.0%)
あまり思わない	7人 (8.2%)	8人 (10.3%)	8人 (7.7%)
全く思わない	3人 (3.5%)	2人 (2.6%)	3人 (2.9%)

- 配信する先生への質問や、先生からの問いかけに対する回答はしやすかったですか。

	7月	11月	2月
大変そう思う	29人 (34.1%)	23人 (29.5%)	28人 (26.9%)
そう思う	33人 (38.8%)	40人 (51.3%)	47人 (45.2%)
あまり思わない	18人 (21.2%)	13人 (16.7%)	27人 (26.0%)
全く思わない	5人 (5.9%)	2人 (2.6%)	2人 (1.9%)

- 主な自由記述

- ・先生がワークや休んだ日の授業の解説を丁寧に送ってくれる。
- ・タブレットで前回やった大事なところをもう一度問題として出していた。
- ・自分で考えて答える質問が毎回の授業であり、身近で考えることができた。
- ・発言の機会がたくさんあったので、しっかり授業に参加していると感じた。
- ・多少画面の文字が見えないところはあったが、質問などは問題なく行うことができた。
- ・質問を受け付けるためのアンケートなどがあり、質問しやすい環境を作ってくれた。
- ・プリントをタブレット上に送ってもらえるので、先生の解説と一致してわかりやすい。
- ・タブレット操作でノートにメモを撮ったりするのが、自分のものを作るようで楽しかった。また、遠隔だから途中接続が切れることもあったけど、それも含めて楽しかった。
- ・通信が乱れることが往々にしてあり、先生側の資料が切れて見えないことも多かった。

- 2校合同授業に対する意見・感想等
 - ・自分たちにはない考えがあり、それを共有することができた。
 - ・他校の人と共有すると、たくさんの意見が出てすごくいい時間になったと思った。
 - ・他校と共同で授業を進めていく中で交流でき、意見交換することができた。
 - ・合同で授業が行われることで、授業の進み方や音声等にストレスを感じた。
 - ・初対面の人と会話をするのが苦手だった。

2 成果と課題

(1) 配信体制について

- ICT を最大限に活用して、配信教員が意欲的に授業改善に取り組んできた。受講生徒のアンケートにおいては、8割以上の生徒が肯定的な回答をしており、生徒にとっても、充実した授業を実施することができた。
- 1人1台タブレット端末とクラウドを活用した効果的な遠隔授業を展開することができ、配信教員の手法も、Google Classroom やロイロノートでの課題の送受信、授業プリント等の画面共有提示、Google ジャムボード等での同時共同編集など、概ね定着してきた。
- 「書道 I」の授業では、書画カメラや iPad 等、複数のカメラを用いて様々な角度から筆の運び方などを配信した。受信側補助職員が、机間指導で iPad を使い、生徒の作品を投影し、それを配信教員へ送り個別の指導を受けることができた。篆刻指導や、小筆のような細かい線を描くときの有効な ICT の活用方法が今後の課題となった。
- 「社会福祉基礎」では手話通訳者や車椅子ユーザーなどの外部講師との連携や、VR の活用による認知症体験などにより、専門性の高い授業を実現することができた。とくに、VR 機器を用いて認知症をリアルに体験することにより、いっそう認知症に対する理解が深まり、受講生徒の事後アンケートにおいて、認知症サポーターとして活躍したいという意欲的な回答が大半を占めた。
- 「地学基礎」をネットワーク校での教育課程の共通科目として位置付け、地学の専門教員配置校から配信した。配信教員も、自身の専門科目を教えることに喜びを感じながら、専門教員による質の高い授業を展開することができた。しかし、自校の授業よりも他校への遠隔授業が多く、自校の校務や学校行事等への支障が生じるなどの課題もあった。
- 「化学基礎」では阿賀黎明高校と羽茂高校の2校で校時を共通化し、同時配信の遠隔授業を実施した。受信校同士をテレビ会議システムにより映像接続し、相手校の様子を確認できる体制を構築した。2校合同のグループを作り、対面授業による実験も複数回実施し、グループ同士での意見交換を行うことができるといったスケールメリットを活かした授業を展開することができた。

- 配信教員を兼務している新潟翠江高校通信制は、スクーリングの都合上、平日3日間に配信が限定されるため、新潟翠江高校を配信拠点とした場合、今後の遠隔授業拡大には課題となる。
- 配信教員が、ICTを活用した遠隔授業で双方向型の授業改善の充実にに向けて取り組んできたことで、自校での対面授業にも活かされてきている。

配信教員からの振り返り

- ・ 講義形式は極力減らし、授業でしかできない活動を重視しようと再認識した。
- ・ 遠隔授業に取り組んでロイロノートを使うきっかけとなったことが最大の収穫だった。もっと早く使えば良かったと後悔した。遠隔での授業をしなければ、未だに使っていなかったかもしれない。
- ・ 遠隔授業に取り組んで、世界が広がった。今まで狭い範囲しか見ていなかったことに気付く大きなきっかけになった。視野が広がったことで、普段の授業でも柔軟な判断や対応ができるようになった。
- ・ 佐渡と遠隔授業でつながることで佐渡に魅了され、ますます新潟県への郷土愛が深まった。

(2) 受信体制について

- 教職員（当該教科、当該教科以外）、実習助手、非常勤事務職員を受信側補助として、機器準備、資料配付、授業中の生徒への指導、実験や実習を伴う指導のパターンに分けて、調査研究を進めてきた。
- 事務職員には授業中への生徒への指導が難しいこと、実験や実習を伴う授業では、専門的知識が必要となることから、当該教科の教員が補助を行うべきであることなどが明らかとなった。
- 複数校同時配信の補助（地歴公民や理科を想定）では、配信教員の見取りが複数教室に分散することから、各受信校では、授業中の生徒への適切な対応ができる職員配置が一層必要となることも明らかになった。

第3章

第3年次の取組②

(コンソーシアム構築による教育の高度化・多様化に関する取組)

I 調査計画 ※表の右側

年月	計画内容	
	<p>高等学校等の連携による遠隔授業など ICT を活用した取組 (○ : 遠隔授業 □ : 学校間連携)</p>	<p>地元自治体等の関係機関と連携・協働した取組</p>
<p>5年4月</p>	<p>○配信教員による受信校訪問 (遠隔授業オリエンテーション) ○遠隔授業の通年配信開始(16科目) □第1回 SaGaSu 委員会 ・探究活動の取組継続・県外校との交流・SNSによる魅力発信</p>	<p>●管理機関のコンソーシアム担当者との打合せ ●佐渡教育コンソーシアム総会 ●佐渡教育コンソーシアム幹事会① (SaGaSu 委員会の代表生徒も参加)</p>
<p>5月</p>	<p>□第2回 SaGaSu 委員会 ・県外交流に向けての準備 □SaGaSu ゼミ (キックオフ) 1年 (探究スキル講演) 2年 (SDGs によるグループ分け) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">庁内ユニット会議①の開催</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">CORE ハイスクール・ネットワーク構想担当者会議への参加</div></p>	<p>●阿賀黎明高校学校運営協議会① ●阿賀黎明高校探究パートナーズによる「阿賀学」「地域学」支援開始 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">●各コンソーシアム・コーディネーターが学校の教育活動と地域協力機関のマッチング開始</div></p>
<p>6月</p>	<p>○遠隔授業のあり方 WG 設立 ・先端技術等を活用した効果的な遠隔授業配信 □第3回 SaGaSu 委員会 ・オンラインによる県外交流会実施</p>	<p>●コンソーシアムを活用した各校体育祭の見学・参加呼びかけ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">第1回指導委員会の開催</div></p>
<p>7月</p>	<p>○遠隔授業実施校による県外視察 □第4回 SaGaSu 委員会 ・探究活動、SNS 発信等の中間報告 □SaGaSu ゼミ ・大学進学対策講習 ・各種検定対策開始</p>	<p>●佐渡教育コンソーシアムによる SDGs に関する授業実施 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">●校外での探究活動支援 ・大学・専門機関や現地研修 ・地元企業でインターンシップ ●コンソーシアム主催の地元企業説明会及び企業訪問の実施 (3年)</div></p>
<p>8月</p>	<p>□中高一貫連携校・地域探究コース連携校による相互訪問 □SaGaSu ゼミ ・1年探究ゼミ (地域魅力理解) ・2年探究ゼミ (各グループの経過報告)</p>	<p>●佐渡教育コンソーシアムによる高校生議会の実施 ●地域住民と連携した各校文化祭の実施に係る企画協議</p>

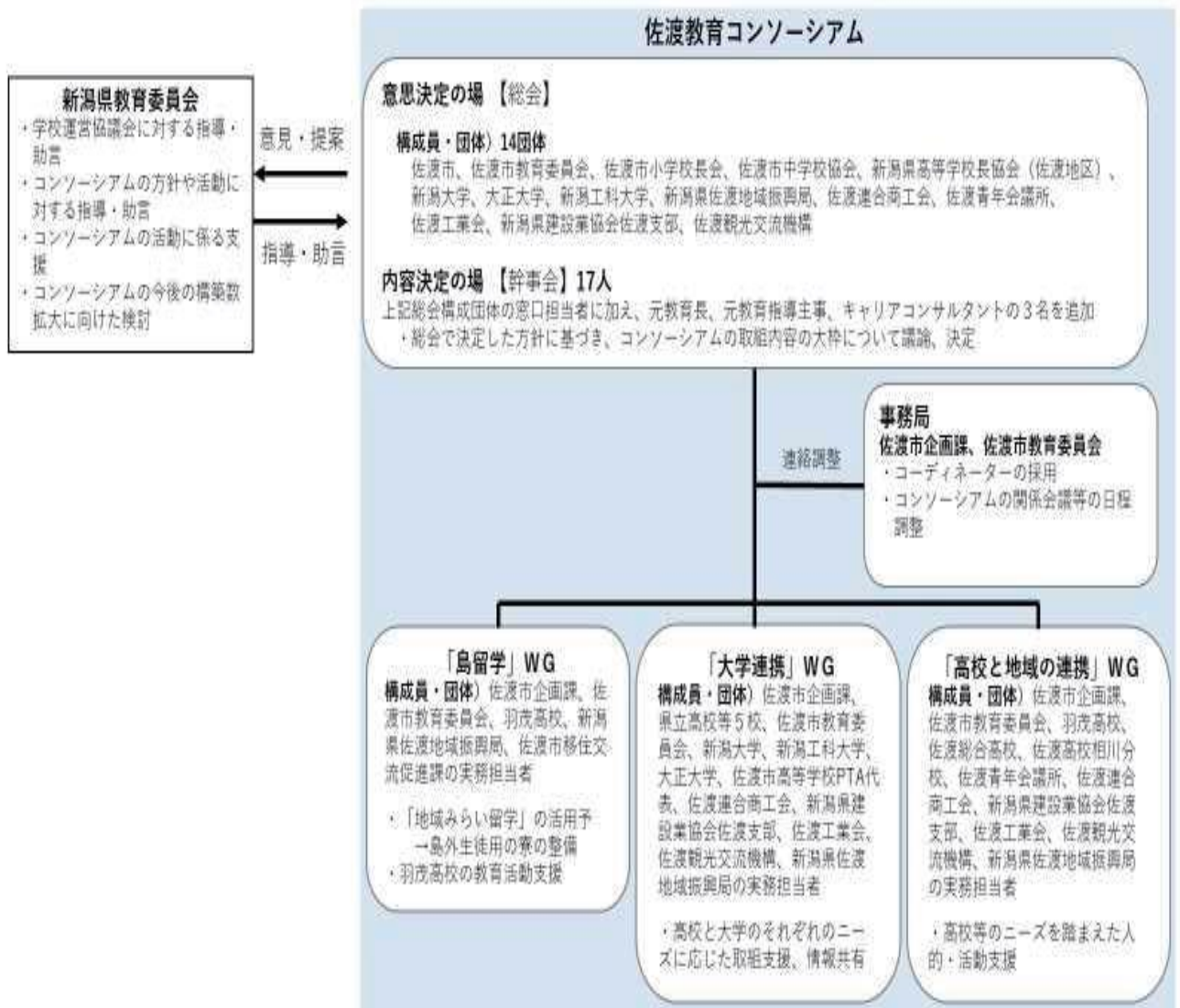
9月	<input type="checkbox"/> 管理機関による県外視察 <input type="checkbox"/> 第5回 SaGaSu 委員会 ・県外交流に向けた準備	<input checked="" type="checkbox"/> 阿賀黎明高校学校運営協議会②
10月	<input type="checkbox"/> 遠隔授業公開週間 (全県配信、企画評価委員の視察) <input type="checkbox"/> SaGaSu ゼミ ・1年探究ゼミ(地域課題理解) ・2年探究ゼミ(ネットワーク校合同探究発表会)	<input checked="" type="checkbox"/> 佐渡教育コンソーシアム幹事会② <input checked="" type="checkbox"/> コンソーシアムの支援による地域理解を深める講演会等の実施 ・大学、研究所等の学術講演会 ・地域の各専門家を招いた地域文化ワークショップ
11月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 最終事業報告会(シンポジウム)開催 <input type="checkbox"/>遠隔授業(全国配信) <input type="checkbox"/>学校間連携の取組発表 <input checked="" type="checkbox"/>地域の課題解決・魅力発信サミット </div> <input type="checkbox"/> 第6回 SaGaSu 委員会 ・オンラインによる県外交流実施 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 60%;"> 第2回指導委員会の開催 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> CORE ハイスクール・ネットワーク全国シンポジウム参加 </div>	<input checked="" type="checkbox"/> コンソーシアムの支援を受けた地域住民参加型の文化祭の実施
12月	<input type="checkbox"/> 遠隔授業のあり方WG③ <input type="checkbox"/> SaGaSu ゼミ ・大学進学対策講習(冬季休業中)	
6年1月	<input type="checkbox"/> SaGaSu ゼミ ・大学進学対策講習 ・2年ネットワーク校探究活動等成果発表会	<input checked="" type="checkbox"/> 阿賀黎明高校学校運営協議会③ <input checked="" type="checkbox"/> 生徒、保護者、地域住民へのアンケート調査の実施
2月	<input type="checkbox"/> 阿賀黎明、羽茂、佐渡総合の3校合同探究発表会 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 60%;"> 第3回指導委員会の開催 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 70%;"> 庁内事業ユニット会議②の開催 </div>	<input checked="" type="checkbox"/> 佐渡教育コンソーシアム幹事会③ <input checked="" type="checkbox"/> 次年度課題研究の共同研究グループのマッチングを検討
3月	<input type="checkbox"/> 配信教員による受信校訪問 <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業の成績評価と単位認定 管理機関による1年間の取組の総括と次年度に向けた準備 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> CORE ハイスクール・ネットワーク構想事業報告会への参加 </div>	<input checked="" type="checkbox"/> 管理機関による1年間の取組の総括と次年度に向けた準備

II 実施体制

1 佐渡教育コンソーシアム

【学校名 : 佐渡高等学校 (配信校)、佐渡高等学校相川分校 (受信校)、羽茂高等学校 (受信校)、佐渡総合高等学校 (配信校、受信校)、佐渡中等教育学校 (受信校)】

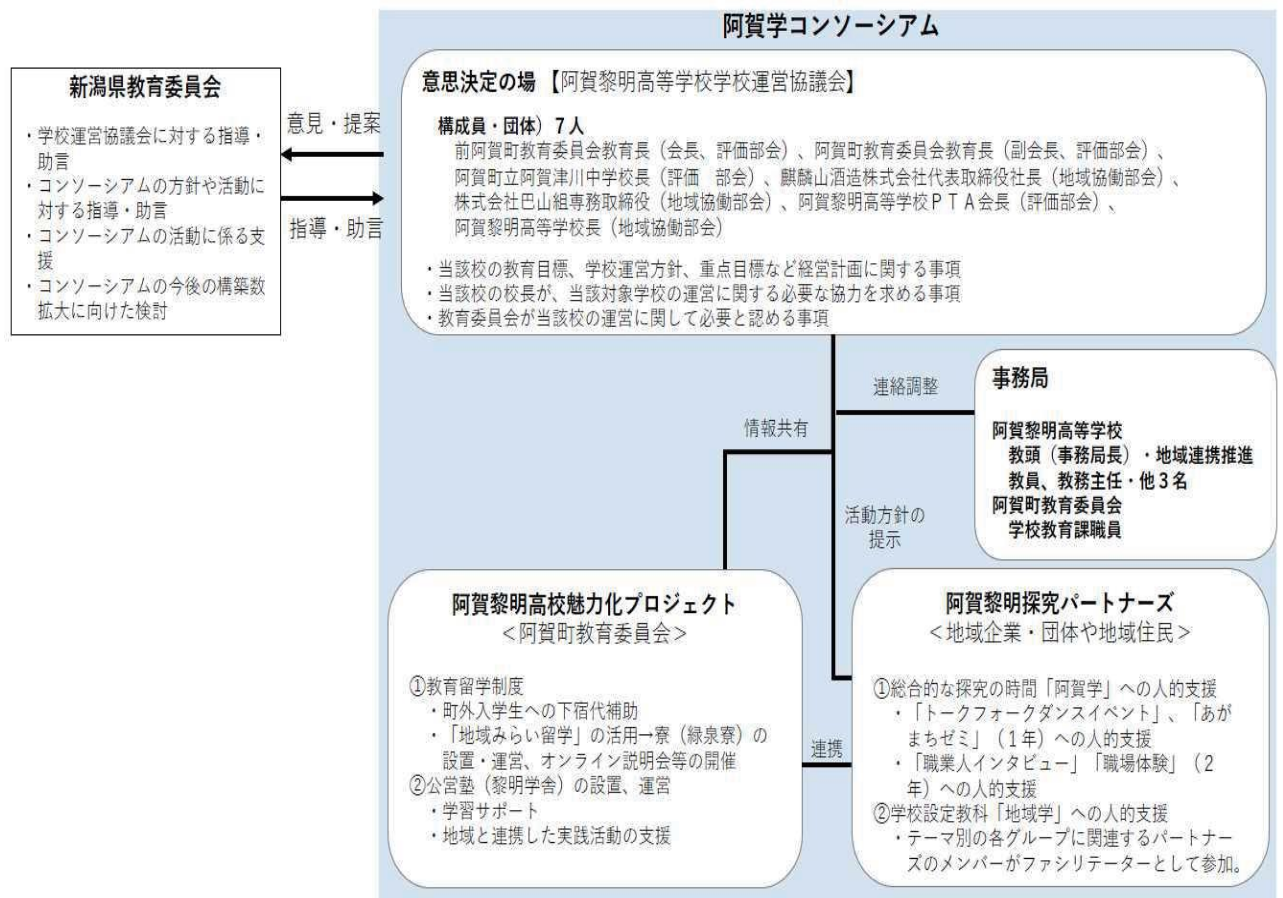
機関名	機関名
佐渡市	新潟工科大学
佐渡市教育委員会	新潟県佐渡地域振興局
佐渡市小学校長会	佐渡連合商工会
佐渡市中学校長会	佐渡青年会議所
新潟県高等学校校長協会 (佐渡地区)	佐渡工業会
新潟大学	新潟県建設業協会佐渡支部
大正大学	佐渡観光交流機構



2 阿賀学コンソーシアム

【学校名：阿賀黎明高等学校（受信校）】

機関名	機関名
阿賀町	NPO法人かわみなど
阿賀町教育委員会	新潟大学
阿賀黎明高校探究パートナーズ	東蒲原郡森林組合
麒麟山酒造株式会社	阿賀町社会福祉協議会
株式会社巴山組	阿賀町観光協会



※阿賀黎明高校には学校運営協議会が設置されており、公営塾（黎明学舎）や地域住民団体である阿賀黎明高校探究パートナーズが協議会の会議に参加することで、活動支援方針や行動計画が共有されていることから、事実上、コンソーシアム機能を有している。

Ⅲ 取組概要

1 佐渡教育コンソーシアム

佐渡市は人口減少をはじめとした様々な地域課題を抱えており、このような社会において、子どもたちが自立的に生き、社会に参画する人材となるために必要な資質・能力を育成することが急務となっている。そのため、佐渡市では、小中学校で地域の自然・歴史・文化への理解を深め体系化する「佐渡学」を中心としたキャリア教育に力を入れてきた。

さらに、佐渡市では、地元県立高校等が連携・協働しながら、地域を支える人材育成や地域活性化に取り組むための検討を進め、令和3年3月、佐渡教育コンソーシアムを計14団体で構築するに至った。



佐渡教育コンソーシアムの設立（令和3年3月17日）

1 当時の現状・課題

① 学校の存続

- ・少子化により、既存の学校をすべて現状どおりに存続することが困難な状況である。
- ・佐渡中等教育学校の存続が危ぶまれている。

② プラットホーム的な機能

- ・地域探究やフィールドワーク、キャリア教育等の実施に伴い、事業所や地域団体、大学等とのマッチングの場がない。

2 組織および構成団体

- ① 組織は、役員で構成される意思決定機関（総会など合意形成の場）と協力団体で構成されるワーキンググループ（学校の魅力化と島留学、大学連携と地域協働）とする。

- ② 役員・協力団体は、必要に応じ随時参加を依頼する。

【教育関係】

佐渡市小学校長会
佐渡市中学校長会
新潟県高等学校校長協会佐渡地区

【大学関係】

新潟大学
大正大学
新潟工科大学

【産業関係】

佐渡連合商工会
佐渡青年会議所
佐渡工業会
新潟県建設業協会佐渡支部
佐渡観光交流機構

【行政】

新潟県佐渡地域振興局
佐渡市
佐渡市教育委員会

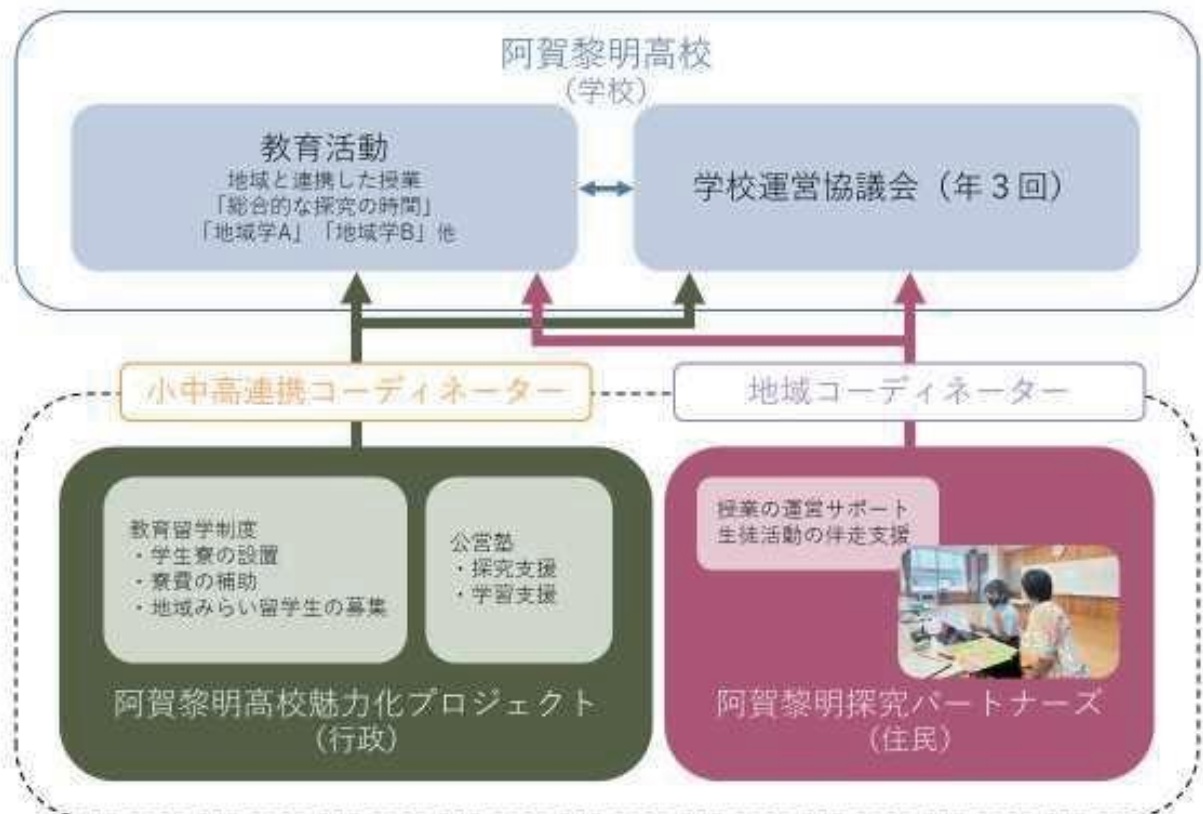


（令和5年11月14日（火）最終事業報告会（シンポジウム）地域連携協働発表資料より）

2 阿賀学コンソーシアム

阿賀町の人口減少や少子高齢化が急速に進む中、町に唯一所在する高校である県立阿賀黎明高校でも小規模化が進行し、近年、恒常的な定員割れが生じている。高校の魅力化を図ることが町の活性化に資すると考え、平成28年度から阿賀町は「阿賀黎明高校魅力化プロジェクト」を開始し、令和2年度には、新潟県教育委員会が阿賀黎明高校を学校運営協議会設置校に指定し、地域が学校の教育活動を支える体制を構築した。このことを踏まえ、地元自治体、企業、地域住民等による多様な支援により、阿賀黎明高校の教育活動の魅力化に資する組織的活動を展開するに至った。

学校と地域の連携・協働体制の全体像



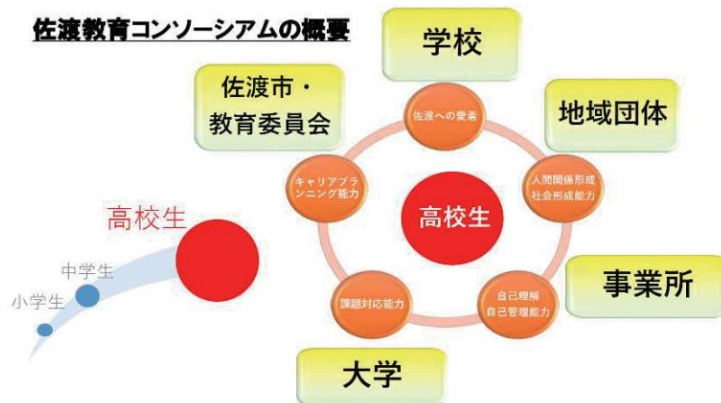
※会議：魅力化PTTワーキンググループ月1／高校進路指導部と公営塾スタッフで週1／パートナーズは年度始終と適宜開催

(令和5年11月14日(火)最終事業報告会(シンポジウム)地域連携協働発表資料より)

IV 取組実績

1 佐渡教育コンソーシアム総会の開催

- ア 日時 令和5年4月28日（金）13:30～14:30
 イ 会場 アミューズメント佐渡 小ホール
 ウ 内容 組織体制、令和4年度事業報告、令和5年度事業計画（案）について、等



（令和5年11月14日（火）最終事業報告会（シンポジウム）地域連携協働発表資料より）

2 阿賀黎明高校学校運営協議会の開催

開催日	参加者	主な内容
5月23日（火）	委員、学校教職員、阿賀黎明探究パートナーズ	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の活動方針について 新潟の未来を SaGaSu プロジェクトについて
10月10日（火）	委員、学校教職員、阿賀黎明探究パートナーズ	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の進捗状況について 新潟の未来を SaGaSu プロジェクトについて
1月22日（月）	委員、学校教職員、阿賀黎明探究パートナーズ	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の振り返りと次年度の活動方針 新潟の未来を SaGaSu プロジェクトについて



学校運営協議会の様子



熟議で意見を出し合う様子



熟議で完成したポスター

V 取組内容

1 佐渡教育コンソーシアムの取組

(1) 各学校からの生徒派遣（佐渡市高校生議会）

佐渡市主催の高校生議会に、佐渡島内の高校、中等教育学校が参加し、佐渡市の課題解決に向けた質問やSDGsの17の目標に関連づけた政策提案を行った。

ア 日時 令和5年8月18日（金）

イ 会場 佐渡市議会 議場

ウ 内容 ・議会、選挙についての学習 ・議場見学 ・高校生議会

エ 主な代表質問

学校名	質問項目
羽茂高校	「観光活性化のための組織づくり」「島民チャットアプリの開発」 「世界遺産登録を見据えた受入れ態勢の整備」
佐渡中等教育学校	「伐採した竹の処分・活用方法」
佐渡高校	「島内交通の充実」「防災・災害時の対策」
佐渡総合高校	「道路周辺支障木の管理・林業の担い手確保」「観光地の道路整備」

※「佐渡市高校生議会」は今年度で3年目となる取組で、SDGsの理解と市の施策との関連性について学びを深めるとともに、実際に身近な社会である佐渡市の諸課題の解決に向けた政策提案を行う活動により、佐渡の未来について考えることを目的にしたものです。参加生徒は事前に授業を通じて地域が抱える課題を探究し、その解決方法について考えたうえで、佐渡市の諸課題の解決にむけ市長をはじめ執行部に対して観光政策、島内交通の充実、防災や災害時の対応、健康促進や持続可能な社会に向けての教育について代表質問を行いました。自分たちの質問や提案がSDGsの17の目標のうち、どの目標と関連があるのかを考える中で、これらが他人事ではなく、佐渡や自分たちにも関係がある身近なものとして考える良い機会になったようです。（佐渡市ホームページより抜粋して引用）



集合写真



佐渡総合高校代表生徒

(2) 佐渡高校への支援（職業講話のコーディネート）

ア 日時 7月18日（火）9:15～11:05

イ 対象 1年

ウ 講師・佐渡グリーンフィールド ・河原田保育園 ・メレパレカイコ ・佐渡市観光振興部
・新潟県建設業協会 ・弥吉丸 ・佐渡総合病院 ・両津病院 ・さどやニッポン
・佐渡テレビジョン ・佐渡市スポーツ協会 ・エヌ次元
・リハビリ特化型デイサービスセンターミーお

(3) 羽茂高校の地域探究コースへの支援

実施日	学年	主な内容
5月11日（木）	3年	選択科目「生活と福祉」における高齢者体験授業（講師：社会福祉協議会）
5月24日（水）	2年	地域探究コース「ベーシック・コミュニケーション」における職業講話（講師：羽茂在住の全国通訳案内士）
5月25日（木）	2年	地域探究コース「ソーシャル・デザイン」におけるおこし型実習（講師：佐渡市健康推進協会羽茂支部）
6月5日（月）	3年	地域探究コース「地域探究」における佐渡の防災（講師：佐渡地域振興局）
7月24日（月）	3年	地域探究コース「地域探究」 におけるサウスクラブ（障がい者施設パン製造販売）取材
8月19日（土） 8月20日（日）	2年	地域探究コース「ベーシック・コミュニケーション」における宿根木ガイド
10月17日（火）	3年	地域探究コース「地域探究」における羽茂支所取材
10月18日（水）	1年	「海岸清掃活動」（講師：社会福祉協議会）
11月16日（木）	2年	地域探究コース「ベーシック・コミュニケーション」における羽茂小学校読み聞かせ
11月29日（水）	1年	ジオパーク現地研修
12月22日（金）	3年	地域探究コース 「地域探究成果発表会」（出席者：地元自治体、近隣中学校長、佐渡汽船、他）



おこし型実習の様子



防災の講義の様子



取材する生徒の様子



地域探究成果発表会の様子

(4) 佐渡総合高校への支援（「総合的な探究の時間」の講話）

ア 日時 7月25日（火）8:45～9:35

イ 対象 1年

ウ 講師 佐渡市企画部総合政策課

エ 内容 「持続可能な島・佐渡の実現に向けた取組～地域経済の好循環からローカルSDGsを目指す島～」

(5) 佐渡中等教育学校への支援（「佐渡SDGs天地人サイエンスプロジェクト」模擬講義）

ア 日時 6月21日（水）14:25～15:13

イ 対象 2・3年

ウ 目的 理科への興味・関心を引き出し、理系大学への進学意識を高める。また、佐渡に関係する内容を扱うことで、生まれ育った地域に対する新しい見方や考え方ができるようにする。

エ 講師 東京理科大学 本間 芳和 名誉教授

オ 内容 ・佐渡に関わりのある世界的研究者について
・半導体回路技術開発について



講義の様子

(6) 地域みらい留学合同説明会（オンライン）

回	日時	人数（延べ）	内容
1	6月10日（土）11日（日）	20人	・合同学校説明会・テーマ別の説明会（地域みらい留学、探究的な学びについて）
2	7月22日（土）23日（日）	5人	
3	8月26日（土）	5人	

(7) 地域みらい留学合同説明会（対面）

ア 日 時 9月23日（土）11:00～17:30

イ 会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター国際交流棟

ウ 内 容 ・学校についての説明
・学生寮、ハウスマスター等、受入体制についての説明
・質疑応答

エ 参 加 羽茂高校での島留学を検討している中学生・保護者 3組



対面での説明会の様子

2 「阿賀黎明高校魅力化プロジェクト」の取組（地域探究活動の支援）

(1) 1年阿賀町さいこうプロジェクト「福祉体験」

ア 日時 9月15日（金）、9月22日（金）、10月6日（金）、10月13日（金）、
10月20日（金）、10月27日（金）

イ 対象 1年17名

ウ 内容 地域の福祉サロン・老人クラブでのレクリエーション企画・実施をとおして、プロジェクトを実施する流れを理解し、1年後半や2年のプロジェクト企画につなげる。

エ 協力 阿賀町社会福祉協議会



「福祉体験」に参加する生徒の様子

(2) 1年阿賀町さいこうプロジェクト「あがまちゼミ」

ア 日時 11月10日（金）、11月17日（金）、11月24日（金）、12月8日（金）、
12月15日（金）、1月19日（金）、2月2日（金）、2月9日（金）、3月8日（金）

イ 対象 1年17名

ウ 内容 プロジェクト実践者との対話をとおして、自らの興味・関心と町の資源・課題を
かけ合わせたプロジェクトを企画する。また、探究型学習のサイクルを体験し、
問いを立てることや、振り返りをつなげていくことの大切さなどを学ぶ。

エ 協力 阿賀町社会福祉協議会、阿賀まちづくり株式会社、NPO 法人かわみなど



「あがまちゼミ」に取り組む生徒の様子

(3) 2年阿賀町さいこうプロジェクト

ア 日時 6月20日（火）、9月14日（木）、9月15日（金）
11月20日（月）

イ 対象 2年14名

ウ 内容 自分の興味関心分野でテーマを設定し、プロジェクトを設計・実施する。
活動実施後は班ごとにスライドとポスターを使って発表する。

エ 活動例 6月20日（火）「職業人ポスターセッション」
11月20日（月）「阿賀町子ども未来フォーラム」



阿賀町さいこうプロジェクトに取り組む生徒の様子

(4) 阿賀津川中学校との連携授業

ア 日時 5月19日(金)、6月20日(火)、9月14日(木)

イ 対象 阿賀黎明高校2年14名、阿賀津川中学校1年31名

ウ 内容 高校生が企画・実施するプロジェクトに中学生が参加し、多様な人と協働する姿勢やプロジェクト型学習の方法を学ぶ。



阿賀津川中学校との連携授業に取り組む生徒の様子

(5) 2年「地域学」(総合・教養学類)におけるプロジェクト活動

ア 日時 6~11月 計10回

イ 対象 2年総合・教養学類9名

ウ 内容 阿賀黎明探究パートナーズ及び地域パートナーと一緒に、地域をフィールドにプロジェクトを企画・実施し、まとめて発表する。

「廃校キャンプ提案プロジェクト」と「おかず/炭づくりプロジェクト」の2チームに分かれプロジェクト活動を実施した。

エ 協力 阿賀黎明探究パートナーズ



地域学に取り組む生徒の様子

(6) 3年「地域学」(教養学類)「新潟ふるさとCM大賞」

ア 日時 5~9月 計11回

イ 対象 3年教養学類 10名

ウ 内容 高校生の視点で「ふるさと」を再解釈し、30秒のCM制作を体験する。企画・撮影・編集全てを生徒自身で行い、発表する。

エ 協力 阿賀町役場まちづくり観光課



「地域学」でCM制作に取り組む生徒の様子など

(7) 3年消費生活（教養学類）「地域社会での消費」

ア 日時 7～11月 計19回

イ 対象 3年教養学類 10名

ウ 内容 社会における消費者としての自分の役割を理解するとともに、SDGsの視点を踏まえた地域社会における責任（レスポンシビリティ）と主体性（オーナーシップ）を身に付ける。

エ 協力 麒麟山酒造株式会社、榎屋商店、Refeli～れふえり～、目黒農園



「地域社会での消費」について学ぶ生徒の様子

(8) 3年フードデザイン（教養学類）

ア 日時 6～11月 計16回

イ 対象 3年教養学類 1名

ウ 内容 食をテーマとした人や場所の関係性をデザインし、地域における暮らしかたを構想・実践する。

エ 協力 NPO法人かわみなど



フードデザインの授業に取り組む生徒の様子や生徒の作品

(9) 体育祭・黎明祭「阿賀黎明おもっしえぞマルシェ」

ア 日時 体育祭：6月10日（土）、文化祭（黎明祭）：11月3日（金祝）

イ 内容 阿賀町にゆかりのある事業者のマルシェ出店をとおして、生徒・保護者・地域住民の交流を深め、阿賀町の食・物産品等の魅力を体感するとともに、阿賀黎明高校や阿賀黎明探究パートナーズの取組をより多くの人に知ってもらうための機会を創出する。

ウ 出店者 阿賀黎明探究パートナーズ、彩海、NPO 法人かわみなど、おかず TO ごはん、(株)E,FAM、久太郎、Happy Kitchen、広谷屋、室屋青年会、麟山堂、Refeli〜れふえり〜



体育祭や文化祭（黎明祭）で地域の方々等との交流を深める生徒の様子

3 入学生募集にむけた活動

中学生及びその保護者を対象に、阿賀黎明高校や学生寮、阿賀町内を見学し、魅力を体感してもらい、教育留学生と交流する機会を設定した。

回	実施日	参加中学生人数（延べ）	内容
1	6月18日（日）	1人	・学校及び黎明学舎、緑泉寮 の見学
2	7月8日（土）	3人	
3	7月29日（土）	14人	・在校生とのまちあるきワー クショップ
4	8月26日（土）	3人	
5	10月14日（土）	7人	・在校生による体験企画、プ レゼンテーション
6	11月3日（祝金）	6人	

※ 参加中学生の合計 32 人のうち、中学 1 年生 1 人、中学 2 年生 6 人、中学 3 年生 25 人（県内 15 人、県外 17 人）

※ 上記以外にも、4 人（いずれも県外）が阿賀黎明高校、緑泉寮を見学した。

4 「地域みらい留学」高校別説明会

月	参加人数（延べ）
4月・5月	15人
6月	25人
7月	22人
8月	22人
9月	2人

5 「地域みらい留学」個別相談会（東京会場）

	事前予約	当日相談数
9月23日（土）24日（日）	10件	24件

6 「地域みらい留学」オンライン合同説明会

回	日時	参加人数（延べ）
1	6月10日（土）11日（日）	42人
2	7月22日（土）23日（日）	19人
3	8月26日（土）27日（日）	24人

7 公営塾「黎明学舎」の取組

(1) 設置の経緯

阿賀黎明高校の生徒数減少を受け、阿賀町教育委員会が平成28年度に設置した。現在は阿賀黎明高校生と町内の中学校に通う中学生を対象に、放課後の学習支援や探究授業の支援を実施している。令和4年度からは、入学者募集の目的から、町内の中学生へ長期休暇中の講習や放課後の出張学習支援を開始した。

(2) 取組の概要

ア スタッフ 5人（地域おこし協力隊）

イ 登録生徒数 （阿賀黎明高校生28人、中学生16人）

ウ 放課後学習支援（月曜～金曜 15時30分～20時30分）

学校の授業の予習・復習、課題の自主学習を基本とし、質問がある場合や、学習の仕方が分からない場合はスタッフが支援する。

定期テスト対策、各種検定対策、受験対策など、生徒の要望に合わせて支援を行っている。

エ 探究学習支援

阿賀黎明高校の「総合的な探究の時間」及び学校設定科目「地域学」に対するプログラムの提案や、「阿賀黎明探究パートナーズ」（授業支援を行う地域住民の有志団体）との連絡調整など、探究学習の授業コーディネートや課外活動の支援を行っている。

オ 探究活動、課外活動の取組例

オリジナルラーメン作り、サイクリングツアー企画、配食ボランティア、児童クラブにおけるクリスマス会企画 等



学習支援



夏期講習



サイクリングツアー

VI 考察

1 佐渡教育コンソーシアム

- コンソーシアム設置の3年目を迎え、定期的な会合や連絡を重ねながら、各校の魅力化に向けた支援のあり方を検討し、具体的な活動につなげていくことができた。
- 11月14日（火）の最終事業報告会（シンポジウム）において、これまでの取組を全県の学校に周知することができ、1自治体複数校のコンソーシアムモデルケースとして周知させることができた。
- 佐渡教育コンソーシアムは、5つの高校等を支援するという難しさがあり、学校によって取組に差が生じてしまうことや、コーディネーターの負担などが課題となっている。コンソーシアムと学校間で一層の連携が必要となる。

2 阿賀学コンソーシアム

- 高校がコンソーシアム関係者と定期的な会合を重ね、高校の魅力化が町の活性化につながるという共通認識をもち、さまざまな意見交換を行うことができています。
- 11月14日（火）の最終事業報告会（シンポジウム）において、これまでの取組を全県の学校に周知することができ、1自治体1校のコンソーシアムモデルケースとして周知させることができた。
- 「スクール・ポリシー」策定において、学校運営協議会や地域協働部会等をとおして議論を重ね、学校と地域とが一体となって策定に向けて取り組むことができた。
- 「総合的な探究の時間」や「地域学」において、地域コーディネーターだけでなく、「阿賀黎明探究パートナーズ」や「黎明学舎」スタッフも協力し、探究活動の伴走体制を構築することができ、教員の負担軽減につながるとともに、生徒が主体的に取り組む態度を育成することができた。
- 地域みらい留学による学校見学やまなび体験会等をとおして、県内外からの入学志願者が増加傾向である。今後は、阿賀町内の入学志願者増加に向けて、中学生やその保護者に対する一層の取組周知や魅力発信が必要となる。

第4章

第3年次の調査研究 の総括

I 目標設定シートに対応した成果と課題

1 成果目標（アウトカム）

(1) 学びの基礎診断等により把握する生徒の学力の定着・向上の状況

把握のための測定方法及び指標	基準値	目標値	実績値	達成状況
【授業アンケート】 「遠隔授業は対面授業と同じくらい内容を理解できたか」という質問に対する、肯定的回答の割合	/	50%以上	77.5%	達成
【全県調査】 「電子黒板やタブレット端末など ICT を活用した授業は、学習意欲の向上につながっていますか」という質問に対する、肯定的回答の割合	/	50%以上	89.2%	達成
【学びの基礎診断認定ツール】 2年生の国数英の学習到達ゾーンが1年間で1ランク以上上がった生徒の割合	/	10%以上	16.1%	達成

(2) 地域課題の解決等の探究的な学びに関する科目等の数（総合的な探究の時間を含む。）

把握のための測定方法及び指標	基準値	目標値	実績値	達成状況
ネットワーク構成校における、地域課題の解決等の探究的な学びに関する科目数	/	25	23	達成せず
上記のうち、学校設定科目数	/	18	16	達成せず

(3) 免許外教科担任制度の活用件数

把握のための測定方法及び指標	基準値	目標値	実績値	達成状況
ネットワーク構成校における、免許外教科担任制度の活用件数	/	12	8	達成

(4) その他、管理機関が設定した成果目標

ア 学校満足度（学校が進路実現の役に立つ）

把握のための測定方法及び指標	基準値	目標値	実績値	達成状況
【全県調査】 「あなたの高校卒業後の進路希望の実現のために、現在の高校での学習内容は、直接役に立つと思いますか」という質問に対する、肯定的回答の割合 (高校2年生と中等教育学校5年生が対象)	71.2% (*)	基準値 +5 ポイント	73.6% 基準値 +2.4 ポイント	達成 せず

*令和4年度の全県割合

※目標設定の考え方

例年2月に新潟県教育委員会では、高等学校2年生（全日制・定時制）と中等教育学校5年生を対象に、学校満足度を把握するアンケート調査を実施しており、その中の「進路実現に学校は役に立っている」と感じた生徒の割合は県の教育施策の点検評価の指標ともなっている。各構成校が本事業の取り組んだ成果を定量的に表すことができ、本事業の取組を推奨するためのエビデンスとしても活用できる。

イ 地域への理解や将来の貢献意識

把握のための測定方法及び指標	基準値	目標値	実績値	達成状況
【全県調査】 「学校の授業で、地域の人と対話したり、一緒に活動したりしたことが、自分の成長につながったと思いますか」という質問に対する、肯定的回答の割合	全県 平均 72.4%	基準値 +10 ポイント	78.0%	達成 せず
「地域の魅力を理解したり、地域課題を地球規模の課題と関連付けて学習したりすることで、地域に対する興味・関心は高まりましたか」という質問に対する、肯定的回答の割合	全県 平均 71.4%	基準値 +10 ポイント	75.7%	達成 せず
「自分の生まれ育った地域に、将来、貢献したいと思いますか」という質問に対する、肯定的回答の割合	全県 平均 81.1%	基準値 +10 ポイント	85.1%	達成 せず

2 COREハイスクール・ネットワークとしての活動指標（アウトプット）

(1) ネットワークの構成校における遠隔授業の実施科目数

	見込	実績	達成状況
実施科目数	9科目	16科目	達成

(2) 地元自治体等の関係機関とコンソーシアムを構築している学校数

	見込	実績	達成状況
学校数	6校	6校	達成

(3) 管理機関が設定した活動指標：遠隔授業に関する公開授業・研究協議会等の開催回数

	見込	実績	達成状況
公開授業	2回	4回	達成
研究協議会	1回	1回	達成

Ⅱ 事業関係アンケート調査結果の分析

1 文部科学省「地域に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築事業」Web アンケート調査（以下、「内田洋行調査」）

- ・調査機関 株式会社 内田洋行
- ・対 象 文部科学省「地域に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築事業」全国 13 地域 91 校の生徒・教員
- ・回答方法 Google Forms
- ・回答期間 令和 5 年 11 月～12 月
- ・そ の 他 各回答項目の肯定的回答のうち、網掛け部分は全国の割合を上回っていることを示している。ただし、本県学校の回答者数は、在籍生徒数に対して多くない学校もあることは留意する必要がある。

生徒対象 遠隔授業で実施された教科・科目について、あなたの考えを教えてください。

学校名	佐渡相川	羽茂	佐渡総合	佐渡中等	阿賀黎明	ネットワーク 構成校	全国
1 回答者数	33	55	135	97	44	364	11,420
2 「授業を受けた」回答人数と割合	14	33	38	35	23	143	2,363
	42.4%	60.0%	28.1%	36.1%	52.3%	39.3%	20.7%
興味・関心のある教科・科目を選択することができた。	11	32	29	26	14	112	1,744
	78.6%	97.0%	76.3%	74.3%	60.9%	78.3%	73.8%
将来の進路目標に応じて必要な教科・科目を選択することができた。	9	26	26	24	14	99	1,703
	64.3%	78.8%	68.4%	68.6%	60.9%	69.2%	72.1%
これからの社会を想定した新しい学びが取り入れられた教科・科目を選択することができた。	12	31	27	12	16	98	1,838
	85.7%	93.9%	71.1%	34.3%	69.6%	68.5%	77.8%
自分の理解度に合った授業ができた。	13	33	27	31	17	121	1,964
	92.9%	100.0%	71.1%	88.6%	73.9%	84.6%	83.1%
学習内容について、先生が分かりやすく教えてくれた。	13	33	28	31	20	125	2,059
	92.9%	100.0%	73.7%	88.6%	87.0%	87.4%	87.1%
学びに対する興味・感心を高めることができる授業である。	13	32	27	30	19	121	1,963
	92.9%	97.0%	71.1%	85.7%	82.6%	84.6%	83.1%
知識や技能を身につけられる授業である。	13	33	30	31	20	127	2,096
	92.9%	100.0%	78.9%	88.6%	87.0%	88.8%	88.7%
主体的に取り組むことができる授業である。	13	32	28	32	18	123	2,011
	92.9%	97.0%	73.7%	91.4%	78.3%	86.0%	85.1%
先生や他の生徒との対話を通じて、新たな気付きを生みだしたり、深めたりすることができる授業である。	13	31	28	29	18	119	1,922
	92.9%	93.9%	73.7%	82.9%	78.3%	83.2%	81.3%
異なる考えを持った人々との協働作業を通じて、課題を解決できる授業である。	13	28	26	25	17	109	1,867
	92.9%	84.8%	68.4%	71.4%	73.9%	76.2%	79.0%
これまでは自校だけではできなかった活動を行う授業である。	13	31	28	28	16	116	1,884
	92.9%	93.9%	73.7%	80.0%	69.6%	81.1%	79.7%

- 全 11 項目中 8 項目において、本県の遠隔授業受信校は、全国平均と比較して高い満足度を示しており、一定の成果があったと考えられる。
- 回答項目「興味・関心のある教科・科目を選択することができた。」においては、全国平均より 4.5 ポイント高かった。このことは、今年度、新たに開設した「地学基礎」や「社会福祉基礎」といった科目開設により、生徒のニーズに一定程度応えることができたものとする。

生徒対象 地域との協働による授業を受けたことについて、あなたの考えを教えてください。

※各回答項目の肯定的回答の割合は、全回答者数に占める割合を示している。

学校名	佐渡	佐渡相川	羽茂	佐渡総合	佐渡中等	阿賀黎明	ネットワーク 構成校	全国
1 回答者数	473	33	55	135	97	44	837	11,420
2 「授業を受けた」 回答人数と割合	68	8	36	56	23	41	232	5,474
	14.4%	24.2%	65.5%	41.5%	23.7%	93.2%	27.7%	47.9%
回答項目	肯定的回答の人数と全回答者数に占める割合							
地域の協力によって、学校だけでは実施できない学びが受けられた。	63	7	36	52	23	38	219	5,146
	13.3%	21.2%	65.5%	38.5%	23.7%	86.4%	26.2%	45.1%
地域の協力によって、専門性の高い学びが受けられた。	64	7	34	48	20	32	205	4,895
	13.5%	21.2%	61.8%	35.6%	20.6%	72.7%	24.5%	42.9%
地域の協力によって、実践的な学びが受けられた。	57	8	33	48	21	37	204	4,895
	12.1%	24.2%	60.0%	35.6%	21.6%	84.1%	24.4%	42.9%
地域の協力によって、地域の課題の複雑さ・解決の困難さを学ぶことができた。	64	7	36	49	21	36	213	4,846
	13.5%	21.2%	65.5%	36.3%	21.6%	81.8%	25.4%	42.4%
地域の協力によって、地域の課題解決に参画することができた。	55	7	35	47	19	33	196	4,513
	11.6%	21.2%	63.6%	34.8%	19.6%	75.0%	23.4%	39.5%
様々な人たちが地域を支えていることが分かった。	64	8	36	51	22	36	217	5,133
	13.5%	24.2%	65.5%	37.8%	22.7%	81.8%	25.9%	44.9%
地域との協働による授業について、学習内容に満足している。	62	8	35	50	23	39	217	4,902
	13.1%	24.2%	63.6%	37.0%	23.7%	88.6%	25.9%	42.9%

- ネットワーク構成校の回答の割合は、昨年度と同様に羽茂高校と阿賀黎明高校の 2 校が全国平均の割合を上回った。この 2 校においては、「地域探究コース」をそれぞれ令和 2 年度及び令和 4 年度から設置しており、総合的な探究の時間や、学校設定科目「地域学」「地域探究」等での地域と連携した取組が確実に進められているものと考えられる。
- ネットワーク構成校の全てで、「授業を受けた」生徒の割合と、各回答項目において肯定的な回答の割合の変動がほぼなかったことから、地域との協働による授業を実施することで、生徒の学びへの意欲を高めることにつながったものとする。

生徒対象 高校の授業について、あなたの考えを教えてください。

学校名	佐渡	佐渡相川	羽茂	佐渡総合	佐渡中等	阿賀黎明	ネットワーク 構成校	全国
回答者数	473	33	55	135	97	44	837	11,420
もっと、興味・関心のある教科・科目を勉強したい。	406 85.8%	24 72.7%	44 80.0%	99 73.3%	82 84.5%	38 86.4%	693 82.8%	10,002 87.6%
もっと、将来の進路目標に必要な教科・科目を勉強したい。	418 88.4%	24 72.7%	42 76.4%	101 74.8%	82 84.5%	38 86.4%	705 84.2%	10,105 88.5%
もっと、これからの社会を想定した新しい学びが取り入れられた教科・科目を勉強したい。	392 82.9%	22 66.7%	41 74.5%	100 74.1%	82 84.5%	35 79.5%	672 80.3%	9,532 83.5%
もっと、自分の理解度に合った授業を受けたい。	403 85.2%	25 75.8%	45 81.8%	107 79.3%	75 77.3%	36 81.8%	691 82.6%	9,796 85.8%
学習内容について、もっと分かりやすく教えてほしい。	381 80.5%	22 66.7%	43 78.2%	101 74.8%	72 74.2%	33 75.0%	652 77.9%	9,161 80.2%
もっと、学びに対する興味・感心を高めることができる授業を受けたい。	410 86.7%	25 75.8%	46 83.6%	106 78.5%	79 81.4%	35 79.5%	701 83.8%	9,928 86.9%
もっと、知識や技能を身につけられる授業を受けたい。	417 88.2%	23 69.7%	48 87.3%	102 75.6%	81 83.5%	36 81.8%	707 84.5%	10,006 87.6%
もっと、主体的に取り組むことができる授業を受けたい。	375 79.3%	21 63.6%	39 70.9%	94 69.6%	78 80.4%	34 77.3%	641 76.6%	9,188 80.5%
もっと、先生や他の生徒との対話を通じて、新たな気づきを得ることができる授業を受けたい。	344 72.7%	21 63.6%	38 69.1%	90 66.7%	74 76.3%	35 79.5%	602 71.9%	8,962 78.5%
もっと、異なる考えを持った人たちとの協働作業を通じて、課題を解決できる授業を受けたい。	342 72.3%	23 69.7%	41 74.5%	91 67.4%	71 73.2%	35 79.5%	603 72.0%	8,828 77.3%
もっと、これまでは自校だけではできなかった活動を行う授業を受けたい。	342 72.3%	22 66.7%	36 65.5%	94 69.6%	70 72.2%	30 68.2%	594 71.0%	8,839 77.4%

○ 「もっと、興味・関心のある教科・科目を勉強したい。」や「もっと、学びに対する興味・関心を高めることができる授業を受けたい。」などの6項目において、ネットワーク構成校の回答が80%を超えている。遠隔授業の授業改善の取組が、対面授業にも活かされ、生徒の学習意欲につながったと考えられる。また、質問項目「もっと、先生や他の生徒との対話を通じて、新たな気づきを得ることができる授業を受けたい」、「もっと、異なる考えを持った人たちとの協働作業を通じて、課題を解決できる授業を受けたい。」において、阿賀黎明高校の約80%の生徒が肯定的な回答をしている。遠隔授業による合同授業等の取組による他校生徒との対話や意見交換が、協働的な学びの充実につながったと考えられる。

生徒・教員対象 自分が通っている（勤務している）学校について、どのような点が魅力だと思いますか。

学校名	佐渡		佐渡相川		羽茂		佐渡総合		佐渡中等		阿賀黎明		ネットワーク構成校		全国	
	生徒	教員	生徒	教員	生徒	教員	生徒	教員	生徒	教員	生徒	教員	生徒	教員	生徒	教員
回答者数	473	32	33	9	55	12	135	17	97	23	44	6	837	99	11,420	1,512
大学入試に対応した教科・科目が充実している点	445	28	18	1	36	8	97	15	76	15	27	6	699	73	9,556	799
	94.1%	87.5%	54.5%	11.1%	65.5%	66.7%	71.9%	88.2%	78.4%	65.2%	61.4%	100.0%	83.5%	73.7%	83.7%	52.8%
多様な進路希望に対応した教科・科目が充実している点	423	24	21	1	45	8	116	15	71	15	27	6	703	69	9,863	1,138
	89.4%	75.0%	63.6%	11.1%	81.8%	66.7%	85.9%	88.2%	73.2%	65.2%	61.4%	100.0%	84.0%	69.7%	86.4%	75.3%
これからの社会を生きるために必要な資質・能力を高めるための学習機会が充実している点	393	22	26	5	47	10	110	13	80	20	32	6	688	76	9,992	1,291
	83.1%	68.8%	78.8%	55.6%	85.5%	83.3%	81.5%	76.5%	82.5%	87.0%	72.7%	100.0%	82.2%	76.8%	87.5%	85.4%
他校の教師から学ぶ授業が導入されている点	149	0	17	3	43	11	78	8	63	17	25	5	375	44	5,697	763
	31.5%	0.0%	51.5%	33.3%	78.2%	91.7%	57.8%	47.1%	64.9%	73.9%	56.8%	83.3%	44.8%	44.4%	49.9%	50.5%
他校の生徒とともに学ぶ授業が導入されている点	200	6	19	2	38	10	77	5	52	12	25	6	411	41	5,195	634
	42.3%	18.8%	57.6%	22.2%	69.1%	83.3%	57.0%	29.4%	53.6%	52.2%	56.8%	100.0%	49.1%	41.4%	45.5%	41.9%
ICTを活用して協働的に学ぶ授業が導入されている点	274	20	18	1	45	11	83	12	70	22	26	6	516	72	8,634	1,310
	57.9%	62.5%	54.5%	11.1%	81.8%	91.7%	61.5%	70.6%	72.2%	95.7%	59.1%	100.0%	61.6%	72.7%	75.6%	86.6%
社会の第一線で活躍されている社会人などによる授業が導入されている点	244	8	19	1	41	8	91	11	64	15	27	5	486	48	7,609	872
	51.6%	25.0%	57.6%	11.1%	74.5%	66.7%	67.4%	64.7%	66.0%	65.2%	61.4%	83.3%	58.1%	48.5%	66.6%	57.7%
学外の人や組織に参画していただき、教わったりサポートを受けたりする授業が導入されている点	256	4	20	2	48	12	91	4	69	19	35	6	519	47	8,250	1,063
	54.1%	12.5%	60.6%	22.2%	87.3%	100.0%	67.4%	23.5%	71.1%	82.6%	79.5%	100.0%	62.0%	47.5%	72.2%	70.3%
地域課題解決をテーマとした学習機会が設定されている点	295	11	20	1	53	12	97	14	73	21	33	6	571	65	9,063	1,279
	62.4%	34.4%	60.6%	11.1%	96.4%	100.0%	71.9%	82.4%	75.3%	91.3%	75.0%	100.0%	68.2%	65.7%	79.4%	84.6%
地域課題について、地域住民と意見交換する学習機会が設定されている点	191	5	19	1	44	12	81	12	49	10	35	6	419	46	6,940	1,004
	40.4%	15.6%	57.6%	11.1%	80.0%	100.0%	60.0%	70.6%	50.5%	43.5%	79.5%	100.0%	50.1%	46.5%	60.8%	66.4%
地域課題解決に実際に参画する学習機会が設定されている点	213	2	19	0	48	12	89	13	52	17	35	5	456	49	7,793	1,097
	45.0%	6.3%	57.6%	0.0%	87.3%	100.0%	65.9%	76.5%	53.6%	73.9%	79.5%	83.3%	54.5%	49.5%	68.2%	72.6%
地域の人たちによる、生徒の学びをサポートするための体制がある点	209	2	22	4	49	10	87	9	50	10	35	6	452	41	7,653	964
	44.2%	6.3%	66.7%	44.4%	89.1%	83.3%	64.4%	52.9%	51.5%	43.5%	79.5%	100.0%	54.0%	41.4%	67.0%	63.8%
遠隔授業システムを活用して、生徒一人一人の個性や特性に応じて丁寧に学習支援を行う体制が整っている点	195	8	20	2	46	10	79	9	63	13	31	5	434	47	6,318	879
	41.2%	25.0%	60.6%	22.2%	83.6%	83.3%	58.5%	52.9%	64.9%	56.5%	70.5%	83.3%	51.9%	47.5%	55.3%	58.1%
遠隔授業システムを活用して、教師が学び合える研修環境が整っている点	-	5	-	1	-	7	-	4	-	14	-	6	-	37	-	707
	-	15.6%	-	11.1%	-	58.3%	-	23.5%	-	60.9%	-	100.0%	-	37.4%	-	46.8%
遠隔授業システムを活用して、教師の負担軽減を促進する協働体制が整っている点	-	3	-	0	-	5	-	7	-	10	-	5	-	30	-	588
	-	9.4%	-	0.0%	-	41.7%	-	41.2%	-	43.5%	-	83.3%	-	30.3%	-	38.9%

○ 回答項目「他校の生徒とともに学ぶ授業が導入されている点」において、ネットワーク構成校の生徒5校が全国平均を上回った。また、佐渡高校においては、全国平均を下回ったものの令和4年度から8.5ポイント上昇した。全国平均を上回った5校においては、1学年あたり3学級以下の小規模校であり、「学校間連携」での県内外の生徒との多様な交流機会を通して、様々な考えに触れることで、生徒一人一人の学びを深めることにつながったものであると考える。

○ 回答項目「遠隔授業システムを活用して、生徒一人一人の個性や特性に応じて丁寧に学習支援を行う体制が整っている点」において、遠隔授業受信校（佐渡高校は受信なし）全てで、生徒の回答が全国平均を上回った。このことは、遠隔授業を実施する上でのポイントである、一方向的な授業にならないように、配信側教員と受信側立会者との日々の授業における課題の共有が図られていたことと、これまでの実証研究の成果の蓄積により、生徒への丁寧な学習支援体制の充実につながったものであると考える。

生徒対象 あなた自身について、あなたの考えを教えてください。

学校名	佐渡	佐渡相川	羽茂	佐渡総合	佐渡中等	阿賀黎明	ネットワーク 構成校	全国
回答者数	473	33	55	135	97	44	837	11,420
将来、自分の住んでいる地域のために、役に立ちたいと考えている。	335	25	43	95	69	31	598	8,433
	70.8%	75.8%	78.2%	70.4%	71.1%	70.5%	71.4%	73.8%
自分の住んでいる地域の将来について、明るい希望を持っている。	273	21	35	87	50	23	489	7,622
	57.7%	63.6%	63.6%	64.4%	51.5%	52.3%	58.4%	66.7%
地域のの人たちと一緒に活動する機会がある。	218	20	38	86	39	23	424	7,124
	46.1%	60.6%	69.1%	63.7%	40.2%	52.3%	50.7%	62.4%
自分が関わることで、社会がより良くなるよう変えられと思う。	288	20	32	86	62	24	512	7,517
	60.9%	60.6%	58.2%	63.7%	63.9%	54.5%	61.2%	65.8%
自分のやりたいことがわかる。	347	22	42	97	70	29	607	8,634
	73.4%	66.7%	76.4%	71.9%	72.2%	65.9%	72.5%	75.6%
目標を達成するために何をすべきなのかわかる。	366	22	44	90	71	30	623	9,003
	77.4%	66.7%	80.0%	66.7%	73.2%	68.2%	74.4%	78.8%
自分の住んでいる地域の中に、尊敬していたり憧れていた人がある。	287	19	31	80	46	26	489	6,922
	60.7%	57.6%	56.4%	59.3%	47.4%	59.1%	58.4%	60.6%
日常生活や社会の中で課題を見つける力が身についている。	360	21	40	91	76	36	624	8,732
	76.1%	63.6%	72.7%	67.4%	78.4%	81.8%	74.6%	76.5%
情報を収集する力が身についている。	395	19	37	95	81	31	658	9,384
	83.5%	57.6%	67.3%	70.4%	83.5%	70.5%	78.6%	82.2%
情報を整理・分析する力が身についている。	373	21	42	91	84	32	643	9,100
	78.9%	63.6%	76.4%	67.4%	86.6%	72.7%	76.8%	79.7%
自分の考えや意見などをまとめて、表現する力が身についている。	366	17	37	92	81	33	626	8,957
	77.4%	51.5%	67.3%	68.1%	83.5%	75.0%	74.8%	78.4%

○ 回答項目「日常生活や社会の中で課題を見つける力が身についている。」においては、全国平均を上回る学校数が昨年度より増加するとともに、ネットワーク構成校の平均も昨年度より上昇した。このことは、コンソーシアムを通じた地域の人との交流の機会の充実と地域資源を活かした学びの充実が図られたと考えられる。

○ 一方、回答項目「将来、自分の住んでいる地域のために、役に立ちたいと考えている。」においては、ネットワーク構成校の平均が昨年度より減少した。地域資源を活かした学びをとおして、生徒一人一人が、地域の抱える課題を「自分事化」してより深く捉えることにつなげていくことが必要である。

2 令和5年度学校生活等に関する意識調査（以下、「意識調査」）

- ・調査機関 新潟県教育委員会（高等学校教育課）
- ・調査対象 新潟県立高等学校の全日制課程・定時制課程の1年生、2年生全員
新潟県立中等教育学校の2年生、4年生、5年生全員
- ・調査方法 Google Forms
- ・回答期間 令和6年1月22日（月）～2月9日（金）
- ・その他 各回答項目の肯定的回答の割合のうち、網掛け部分は全県の割合を上回っていることを示している（全日制高校及び佐渡中等教育学校は全県全日、佐渡高校相川分校は全県定時との比較）

質問 電子黒板やタブレット端末など ICT を活用した授業は、学習意欲の向上につながっていますか。

学校名	佐渡	佐渡相川	羽茂	佐渡総合	佐渡中等	阿賀黎明	全県全日	全県定時	全県中等	全県全日・定時
回答者数(1年・中等4年)	164	8	15	98	22	16	11,204	230	344	87.3%
回答者数(2年・中等5年)	176	17	26	88	39	14	10,926	222	364	
肯定的回答の人数・割合 (1年・中等4年)	145 88.4%	6 75.0%	13 86.7%	86 87.8%	22 100.0%	16 100.0%	9,884 88.2%	195 84.8%	331 96.2%	ネットワーク校 89.2%
肯定的回答の人数・割合 (2年・中等5年)	150 85.2%	14 82.4%	26 100.0%	86 97.7%	32 82.1%	13 92.9%	9,440 86.4%	190 85.6%	255 70.1%	

ネットワーク校全体の平均

R 3 : 87.2% ⇒ R 4 : 86.3% ⇒ R 5 : 89.2%

- ネットワーク校の肯定的回答の割合は、1年生で3校、2年生で3校が全県平均の割合を上回った。
- ネットワーク校全体の平均は 89.2%で、全県全日・定時の平均 87.3%を上回り、本プロジェクトの取組が、関係校の授業改善につながっているものと考えている。
- 1人1台端末を用いた双方向型の授業スタイルを、遠隔授業だけでなく、対面授業にも波及するように取り組み、全県の生徒の学習意欲向上につなげていく必要がある。

質問 学校の授業で、地域の人と対話したり、一緒に活動したりしたことが、自分の成長につながったと思いますか。

- 選択肢** 1 つながっている 2 どちらかといえばつながっている
3 どちらかといえばつながっていない 4 つながっていない
5 学校でそのような授業はなかった

学校名	佐渡	佐渡相川	羽茂	佐渡総合	佐渡中等	阿賀黎明	全県全日	全県定時	全県中等	全県全日・定時
回答者数(1年・中等4年)	164	8	15	98	22	16	11,204	230	344	72.4%
回答者数(2年・中等5年)	176	17	26	88	39	14	10,926	222	364	
肯定的回答の人数・割合 (1年・中等4年)	129 78.7%	6 75.0%	12 80.0%	86 87.8%	19 86.4%	15 93.8%	8,218 73.3%	166 72.2%	239 69.5%	ネットワーク校 78.0%
肯定的回答の人数・割合 (2年・中等5年)	117 66.5%	12 70.6%	26 100.0%	71 80.7%	30 76.9%	10 71.4%	7,808 71.5%	154 69.4%	245 67.3%	

ネットワーク校全体の平均

R 3 : 77.9% ⇒ R 4 : 76.0% ⇒ R 5 : 78.0%

- ネットワーク校は、1年生全ての学校が、2年生は4校が、全県平均の割合を上回った。
- 本プロジェクトの地域連携・協働の取組を踏まえて、全県で、学校間連携や学校と地域との連携協働に取り組む活動を進めていく必要がある。

質問 地域の魅力を理解したり、地域課題を地球規模の課題と関連づけて学習したりすることで、地域に対する興味・関心は高まりましたか。

- 選択肢** 1 高まった 2 ある程度高まった 3 あまり高まらなかった
4 高まらなかった 5 学校でそのような学習は行ったことがない

学校名	佐渡	佐渡相川	羽茂	佐渡総合	佐渡中等	阿賀黎明	全県全日	全県定時	全県中等	全県全日・定時
回答者数(1年・中等4年)	164	8	15	98	22	16	11,204	230	344	71.4%
回答者数(2年・中等5年)	176	17	26	88	39	14	10,926	222	364	
肯定的回答の人数・割合 (1年・中等4年)	122 74.4%	6 75.0%	9 60.0%	80 81.6%	20 90.9%	14 87.5%	8,146 72.7%	158 68.7%	230 66.9%	75.7%
肯定的回答の人数・割合 (2年・中等5年)	121 68.8%	12 70.6%	26 100.0%	74 84.1%	26 66.7%	7 50.0%	7,663 70.1%	160 72.1%	245 67.3%	

ネットワーク校全体の平均

R 3 : 73.8% ⇒ R 4 : 70.5% ⇒ R 5 : 75.7%

- ネットワーク校は、1年生で5校が、2年生で2校が、全県平均を上回った。
- 佐渡総合高校は、1・2年生ともに80%以上と、全県平均を上回る高い割合となった。
- 地域課題を地球規模の課題と関連づけて学習することについては、2年生(5年生)全員の合同探究発表会を2回実施し、SDGsの理解を促す機会を設定した。生徒一人一人の探究学習テーマをSDGsに関連づけ、自分たちの取組が地球課題や地球規模の課題を解決するという意識をいっそう醸成していく必要がある。

質問 自分の生まれ育った地域に、将来、貢献したいと思いますか。

- 選択肢** 1 そう思う 2 どちらかというと思う
3 どちらかというと思わない 4 思わない

学校名	佐渡	佐渡相川	羽茂	佐渡総合	佐渡中等	阿賀黎明	全県全日	全県定時	全県中等	全県全日・定時
回答者数(1年・中等4年)	164	8	15	98	22	16	11,204	230	344	81.1%
回答者数(2年・中等5年)	176	17	26	88	39	14	10,926	222	364	
肯定的回答の人数・割合 (1年・中等4年)	137 83.5%	5 62.5%	12 80.0%	86 87.8%	21 95.5%	12 75.0%	9,154 81.7%	180 78.3%	250 72.7%	85.1%
肯定的回答の人数・割合 (2年・中等5年)	149 84.7%	16 94.1%	26 100.0%	75 85.2%	34 87.2%	8 57.1%	8,799 80.5%	174 78.4%	274 75.3%	

ネットワーク校全体の平均

R 3 : 79.9% ⇒ R 4 : 80.4% ⇒ R 5 : 85.1%

- ネットワーク校は、1年生で3校が、2年生で5校が、全県平均を上回った。
- 本事業当初は、地域と連携・協働した取組を進める一方で、地域に将来貢献したいという回答割合は高くはなかった。各コンソーシアムの総合的な探究における伴走支援や、地域探究コース

の取組など、3か年の取組の成果が表れた結果となった。地域との連携・協働の取組をとおして、将来、自分の地域に貢献したいという気持ちを醸成していくことが今後の課題となる。

質問 あなたの高校卒業後の進路希望の実現のために、現在の高校での学習内容は、直接役に立つと思いますか。

選択肢 1 役に立つ 2 ある程度役に立つ
3 あまり役に立たない 4 役に立たない 5 分からない

学校名	佐渡	佐渡相川	羽茂	佐渡総合	佐渡中等	阿賀黎明	全県全日	全県定時	全県中等	全県全日・定時
回答者数(1年・中等4年)	164	8	15	98	22	16	11,204	230	344	66.3%
回答者数(2年・中等5年)	176	17	26	88	39	14	10,926	222	364	
肯定的回答の人数・割合 (1年・中等4年)	108 65.9%	3 37.5%	6 40.0%	46 46.9%	15 68.2%	10 62.5%	6,694 59.7%	101 43.9%	220 64.0%	ネットワーク校 65.3%
肯定的回答の人数・割合 (2年・中等5年)	142 80.7%	7 41.2%	24 92.3%	51 58.0%	24 61.5%	10 71.4%	8,021 73.4%	145 65.3%	292 80.2%	

ネットワーク校全体の平均

R 3 : 66.2% ⇒ R 4 : 65.1% ⇒ R 5 : 65.3%

- ネットワーク校は、1年生で3校が、2年生で2校が全県平均を上回ったが、ネットワーク校の平均は65.3%と全県平均を下回った。
- 佐渡高校は、1・2年生ともに全県平均を上回る高い割合となった。
- 効果的な遠隔授業や探究活動等の充実を図り、進路実現に向けた学習につなげていく必要がある。

Ⅲ 第3年次（令和5年度）に本事業を通じて明らかにしたい事項の考察

1 「教科・科目充実型」遠隔授業の実施に係る調査研究

(1) タブレット端末とクラウドを活用した効果的な遠隔授業の実施

本県の遠隔授業では、生徒1人1台端末を前提として取り組み、教職員の端末操作とクラウドの活用の習熟度を高めるとともに、遠隔授業の通年配信の中で、反転学習の要素を踏まえた効果的な授業方法の実証研究も行ってきた。配信教員の手法も、Google Classroomやロイロノートでの課題の送受信、授業プリント等の画面共有提示、Google ジャムボード等での同時共同編集など、概ね定着化してきた。ICTを活用しながら、生徒同士の意見の発表や共有を行うなど、生徒の主体的・協働的な学びに向けた効果的な遠隔授業に取り組んできた結果、受講生徒のアンケートにおいては、8割以上の生徒が肯定的な回答をしており、生徒にとっても、充実した授業を実施することができた。

(2) 複数校同時配信の遠隔授業に関する調査研究

小規模校の生徒の「協働的な学び」の充実に向け、複数校への同時配信について取り組んだ。阿賀黎明高校と羽茂高校の校時を揃え、「化学基礎」の遠隔授業を同時配信し、受信校同士をテレビ会議システムにより映像接続し、相手校の様子を確認できる体制を構築した。2校合同のグループを作り、対面授業による実験も複数回実施し、多様な意見に触れ、グループワークやディスカッションなどの協働的な学習を取り入れた授業を展開することができた。

(3) ネットワーク構成校での教育課程の共通化に関する研究

令和5年度の配信科目において、ネットワーク構成校の教育課程の中で、「地学基礎」の共通化を図り、地学の専門教員配置校から「地学基礎」の配信を4校に行った。阿賀町と佐渡市がもつ地理的環境や地質的特徴をお互いに学び合う機会を創出するなど、共通化した配信科目における遠隔授業のあり方について、複数校同時配信を見据えながら検証した。専門教員による質の高い授業を展開することができたが、担当した教員の自校の授業よりも他校への遠隔授業が多く、自校の校務や学校行事等への支障が多いという、課題もあった。

(4) 遠隔授業における実験・実習のあり方に関する研究

これまで、理科や芸術等における実験・実技の効果的な指導方法や、VRの活用、地元介護系人材のサポートによる福祉の配信のあり方について検証を進めてきた。令和5年度は、その検討を踏まえて、配信科目に「書道Ⅰ」と「社会福祉基礎」を実施した。どちらも実習を伴う科目であることから、遠隔授業における実験・実習の効果的な指導方法や、先端技術を活用した指導方法を研究した。

「書道Ⅰ」の授業では、書画カメラやiPad等、複数のカメラを用いて様々な角度から筆の運び方などを配信した。受信側補助職員がiPadを使い、生徒の作品を投影し、それを配信教員へ送り個別の指導を受けることができた。篆刻指導や、小筆のような細い線を描くときの有効なICTの活用方法が今後の課題となった。

「社会福祉基礎」では手話通訳者や車椅子ユーザーなどの外部講師との連携や、VRの活用による認知症体験などにより、専門性の高い授業を実現することができた。とくに、VR機器を用

いて認知症をリアルに体験することにより、いっそう認知症に対する理解が深まり、受講生徒の事後アンケートにおいて、認知症サポーターとして活躍したいという意欲的な回答が大半を占めた。

(5) 受信体制のあり方に関する研究

国委託事業では、受信教室に教諭以外の学校職員を配置することが、特例的に認められていた。本県では、受信側職員として、実習助手や非常勤事務職員を配置し、授業中の生徒への指導や、実験・実習を伴う指導等、受信側のサポート体制の検証を進めてきた。令和5年度も、受信側の阿賀黎明高校と羽茂高校において、引き続き教諭以外の学校職員を配置し、受信側職員に係るマニュアルの作成や、指導内容の確認等を行いながら、受信体制のあり方について引き続き研究した。

教諭・講師（当該教科、当該教科以外）、実習助手、非常勤事務職員を受信側補助として、機器準備、資料配付、授業中の生徒への指導、実験や実習を伴う指導のパターンに分けて、検証を進めることができた。

事務職員には授業中の生徒への指導が難しいこと、実験や実習を伴う授業では、専門的知識が必要となることから、当該教科の教諭や実習助手等が補助を行うべきであることなどが明らかとなった。

複数校同時配信の補助（地歴公民や理科を想定）では、配信教員による生徒の具体的な把握が複数教室に分散することから、各受信校では、授業中の生徒への適切な対応ができる職員配置が一層必要となることも明らかになった。

2 学校間連携を行うための運営体制に関する調査研究

(1) ネットワーク構成校6校による学校間連携

これまでの取組では、管理機関が中心となって生徒間交流や関係教員の情報共有の機会を設定してきた。令和5年度は、ネットワーク構成校の生徒及び教員が主体的にプロジェクトの参画者となれるよう、引き続き、管理機関として生徒間交流（SaGaSu委員会）や探究活動発表の機会を設定し支援するとともに、令和6年度以降の自走体制構築に向けて取り組んだ。

事後アンケートより、参加生徒の主体性や積極性が向上したことが伺えた。また、SaGaSu委員会において、生徒主体の発表会にしたいという提案のとおり、司会や挨拶等を生徒主体の発表会にすることができたことで、参加生徒も自発的に質問したり、意見を述べたりする機会が増え、一定の成果があったと言える。

SaGaSu委員会の活動は、管理機関がスケジュール調整や活動の指示を行ってきたため、来年度以降の取組に向けて、自走体制の構築に向けて課題が残った。

(2) 中高一貫教育校による学校間連携

ネットワーク構成校の阿賀黎明高校（H14 から併設型、H31 から連携型）と佐渡中等教育学校は、小規模な中高一貫教育校であり、人間関係力の育成のための連携・交流ネットワークの形成に向けて取り組んだ。阿賀黎明高校では、ネットワーク校6校で実施した合同探究発表会を2回（10月、1月）実施し、総合的な探究の時間や学校設定科目「地域学」をとおして探究した成果を発表した。加えて、佐渡中等教育学校においては、今年度より県立中等教育学校6

校の同学年同士の切磋琢磨する機会を設定し、探究学習の充実や、進路実現を図ることを目的とした「遠隔教育推進事業」を開始した。

(3) 阿賀黎明高校と羽茂高校による「地域探究コース」の学校間連携

本県では、地域と連携した体験活動や探究的な学習に重点的に取り組む「地域探究コース」をネットワーク構成校に設置している（令和2年度：羽茂高校、令和4年度：阿賀黎明高校）。離島と中山間地域という異なる環境に立地する「地域探究コース」同士による学校間連携について、定期的な成果発表会の機会の確保等、連携のあり方について検証した。ネットワーク校6校で実施した合同探究発表会を2回（10月、1月）実施するとともに、地域探究コース設置校2校に佐渡総合高校を加えた3校合同探究発表会を実施した。事後アンケートにおいては、物事に進んで取り組む力や、自分の意見を分かりやすく伝える力を伸ばしたいと回答した生徒が多く、継続した取組に向けた意欲の醸成を図ることができた。

3 学校と地域とが連携・協働した運営体制や取組の充実に係る調査研究

(1) 「スクール・ポリシー」の策定を見据えた取組

新潟県教育委員会では、各校との協議及び地元自治体等への意見聴取を踏まえ、令和5年3月にスクール・ミッションを再定義し、公表した。県立高校等は、このスクール・ミッションに基づき、令和5年度にスクール・ポリシーの策定作業を行い、令和6年3月に策定・公表する。このことを踏まえ、阿賀黎明高校と佐渡島内5校では、阿賀町と佐渡市の各コンソーシアムにおいて、各校のスクール・ポリシー策定に向けた協議を行った。阿賀黎明高校の学校運営協議会においては、熟議において、スクール・ポリシー策定を踏まえた学校運営について協議を行った。

※ スクール・ポリシー（3つの方針）の内容

- ・ 育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）
- ・ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）
- ・ 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

(2) 探究活動を中心としたコンソーシアムの支援のあり方の研究

これまでのアンケート調査の分析において、ネットワーク構成校の「地域の将来に対する明るい希望」や「将来の地域貢献意識」の割合が高くなかったことを踏まえ、各コンソーシアムと情報共有し、特に生徒が直接参画できる機会や環境の充実を図った。ネットワーク校合同探究発表会では、SDGsに関連したテーマでグループ設定を行った。SDGsの理解促進の機会や、生徒の進路希望に応じた職場体験や各種機会を提供することで、生徒の探究学習の充実や進路実現、そして各校の魅力向上につなげることができた。

第5章

3か年の調査研究の総括

I 小規模校の教育の質を維持・向上させる遠隔授業モデルの構築

総論

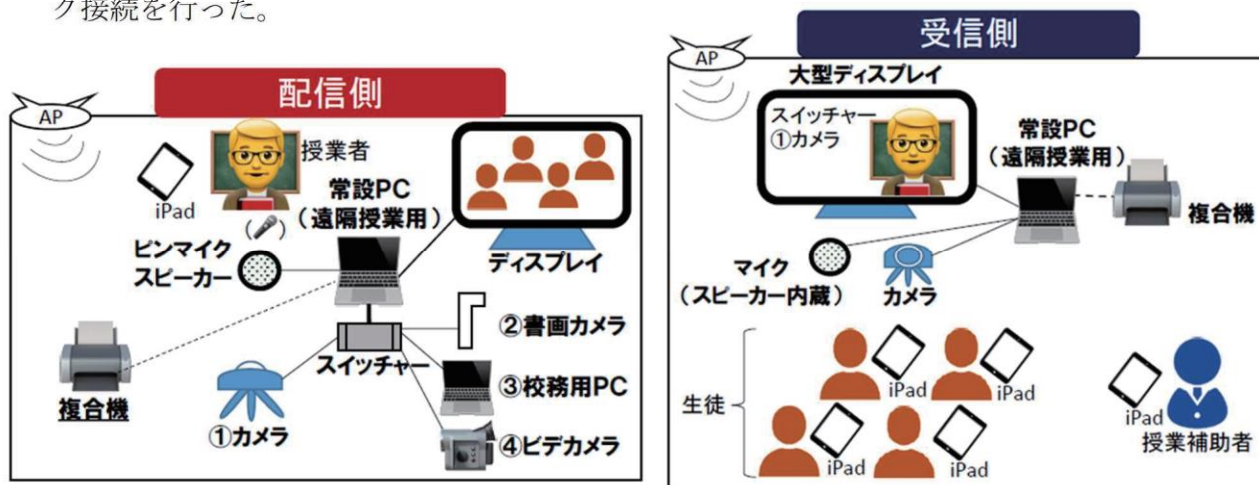
- 生徒1人1台端末の環境を前提とした汎用性の高い遠隔授業システムと運営体制を構築して遠隔授業を実施したことにより、小規模校においても新たな選択科目の開設や外部人材とも連携した専門的指導、協働的な学びの環境等を実現することができた。
- 一方、受信側の適切な補助体制が不可欠であること等を踏まえると、遠隔授業にも限界があることを確認し、一定の学校規模があるからこそ確保できる対面での学びの空間や、学校行事等の体験的活動において切磋琢磨することの意義をあらためて再認識する契機ともなった。
- 今後は、本県の地理的環境及び学校の小規模化の進行を踏まえ、本プロジェクトで構築した基礎的モデルをもとに遠隔授業を拡充することで、教育の質の維持・向上を図りたい。
- その上で、実証研究で得られた多くの知見や経験を小規模校の教育環境の充実だけでなく、本県における遠隔教育の在り方を検討しながら、生徒の学びの充実とそれを支える教職員の資質向上や人材育成に取り組むことで、本県高等学校教育全体の充実につなげていく体制の構築が必要である。

1 汎用性の高いシステム構築の実現

遠隔授業の実施に向けて、機器性能が支障要因とならないように標準以上の性能を持つ機器を整備した。また、Web会議システム（本県ではGoogle Meet）の活用や機器の構成・操作の単純化に努めるとともに、学校訪問指導を通じて受信側の操作補助を不要にする取り組みを行い、概ね1か月程度で操作トラブルが報告されない状況を確認した。

システムの具体的な特徴としては以下の点が挙げられる。

- デジタルスイッチャーの導入：配信側にデジタルスイッチャーを整備し、Webカメラ、書画カメラ、校務用PC、教師用iPad、ビデオカメラの映像を授業の状況に応じて切替可能にした。
- Google Workspaceの活用：Google Formsによる理解度の確認やJamboard、スライドの同時共同編集機能を活用して個別指導や協働的な学びを実現した。
- 高速無線回線の利用：令和3年度に整備された無線回線（最大1Gbps）を使用してネットワーク接続を行った。



本県の遠隔授業システム構成 概要図

【参考】受信側の音の環境と通信ネットワーク環境について

音の環境については、普段から声量の小さい生徒の回答を配信教員が聞き返す場面が散見され、生徒数の多い（10人以上）授業では、マイクの集音範囲を意識して通常の対面授業よりも狭い座席間隔とする学校もあった。チャット等の文字機能の活用や教員・生徒双方でヘッドセットの着用等も試行したが、ストレスのない授業環境の改善にはまだ道半ばである。今後は、集音性能の優れた機器の導入やマイクの個数を増やす等のハード面の改善もふまえながら、受信側教室の適切な在り方について引き続き研究する必要がある。

また、通信環境については、ある特定の曜日や時間帯の授業において、通信状況の遅延や中断が確認される事例が確認された。本県では、遠隔授業実施校に通信トラフィックの監視装置を設置して一定期間モニタリングした結果、遠隔授業用の制御 PC のスペック不足ではなく、GIGA スクール構想の標準仕様である通信速度最大 1 Gbps の通信速度環境やそれに対応したセッション数等に原因があると指摘された。「つながらない」「遅い」通信環境は、安定的な遠隔授業の実施に加え、対面授業における積極的な ICT 活用における大きな障害となる。通信速度を最大 10Gbps へ変更するなど回線の帯域や品質向上に向けた環境整備を今後検討する必要がある。



360度カメラマイクスピーカーの検証では、座席配置をロの字型にし、生徒の表情把握や集音範囲について確認した。

映像のゆがみ等の性能上の課題はあるものの、集音状況は良好であり、少人数のグループ討議を中心とした授業スタイル等で活用できると考えられる。

2 遠隔授業に求められる配信教員の資質・能力

(1) ICT 活用能力

複数の機器を扱いながらタブレット端末を活用する遠隔授業モデルの推奨に向け、配信教員には ICT 活用能力が重要であるという仮説に基づいて調査研究を進めてきた。人事異動により試行や準備の期間が限られる場合においても、配信教員は機器やタブレット端末の効果的な活用に努め、開始3か月間程度を経ると、授業をテンポよく進行できるようになっている。

ただし、受信側では、大型モニター越しに配信教員の説明を聞く時間が長くなったり、タブレット端末の操作頻度が多い状況では、生徒の集中力が低下することが確認された。

(2) 学習観・授業観、授業構成力

令和5年度の遠隔授業は、実技や実習を伴ったり、複数校へ同時に配信したりするものを含め、延べ16科目わたって実施した。その中で、遠隔授業には対面授業と同様に、主体的で対話的な深い学びの実現に向けた工夫ある授業実践が展開された。以下、具体例を詳述する。

○「書道Ⅰ」の授業

書画カメラや iPad のカメラを活用して複数の視点から筆運びを演示する工夫を行うとともに、受信側補助職員と連携して生徒一人ひとりに対して丁寧な声かけや作品に対する専門的な講評を通じて、遠隔授業であっても意欲的に取り組む受信側教室の雰囲気を作り上げた。

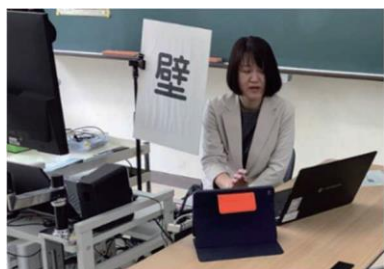
また、例えば篆刻等の作品製作にあたっては、事前の安全指導を確実に対面授業で行うなど、遠隔と対面のメリハリのついた指導計画となっていた。

○社会福祉基礎の授業

オンラインの環境特性（同じ空間にはいないが、世界中の多くの人々をつながる特性）と単元の特徴をうまく利用した授業をデザインし、生徒の学びの充実につながった。



生徒の作品を講評する
書道配信教員の様子



配信側の課題を受信側生徒が
解決の手段を考える1回目の
授業の様子



配信側で外部人材（専門学校
講師）と連携する授業の様子



受信側の外部人材と連携して
VRを活用した体験的学びを確
保した授業の様子

○化学基礎の授業

複数校同時配信の授業では、受信1校の通信状況が悪い場合や、受信校の音声が入り込むことで配信側の指示が伝わらない等の様々な技術的課題に対して、基本的な対応ノウハウを確立した。また、協働的な学びの機会を増やすため、タブレット端末を活用して2校混在のグループワークや実験も実施した。



複数校同時配信授業における羽茂高校
側の様子（左側モニターは配信教員、右
側モニターは阿賀黎明高校の様子）

以上のことから、遠隔授業に求められる教員の資質・能力において、ICT活用能力は授業実践を重ねる中で高められるが、教科の専門性の裏付けと学習観や授業観のアップデートを踏まえた良質な授業のデザイン力こそが配信教員に最も求められる資質・能力であると考えられる。

また、配信教員からは、遠隔授業を「対面授業の再現」ではなく、「遠隔授業ならではの良さ」を考えて授業の実践を重ねたことが、より良い対面授業のあり方を考えることにつながっていると発言があった。今後、遠隔授業の公開や研究協議の機会の設定が、より良い授業デザインを考える教員研修の機会になると考えられる。

【参考】令和4年度遠隔授業研究協議会（令和5年2月8日実施）

石井英真指導委員（京都大学大学院教育学研究科・准教授）からの指導・助言

- 問いや課題の質、もう少し待って委ねる姿勢と学び（何を体験し、何が残っているか）を見る眼が教師には大切である。リモートで得た授業観や装備を活かして、対面環境を充実させて欲しい。問われるのは対面授業のあり方であり、学習観・授業観の転換のきっかけにしてほしい。

3 遠隔授業の実施において留意すべきこと

(1) 受信側の補助体制の適切な在り方

本県では、国事業の特例により、事務職員や実習助手も受信側補助職員として配置した検証を行い、次の図のようにまとめた。

	当該教科の教員	当該教科以外の教員	実習助手	事務職員
機器準備・資料配付等	○	○	○	○
授業中の生徒への指導	○	○	○	△
実験や実習を伴う指導	○	△	△	△→×
複数校同時配信の補助 (地歴公民や理科を想定)	配信教員の見取りが複数教室に分散することから、各受信校では適切な生徒対応ができる職員配置が一層必要			

国事業成果報告会（令和6年1月30日、東京都中央区）での本県発表資料より

特に、国事業の特例により取り組んだ事務職員の受信補助については、次の点に課題がある。

- 普段生徒と接する機会が少ないことから、受信側生徒への適切な声掛けや特別な支援を要する生徒への配慮において心理的負担がかかりやすい。
- 実験や実習を伴う授業については、薬品の扱い等、専門的な安全管理が求められるため、事務職員のみで補助することは困難であり、当該教科の教諭等が補助する必要がある。

以上のことから、事務職員の受信補助については、生徒や授業内容の要件を整理した上で、研修等の機会を確保する等が必要であると考えられる。

また、小規模校は教員数のみならず、事務職員や実習助手の配置も限られているため、受信側職員に係る要件緩和の活用は推奨しがたい。よって、新たな人員配置等に係る財政措置について国に要望することが必要だと考える。

また、今後、遠隔授業の拡充が見込まれる場合、これまで蓄積した受信側補助のノウハウを共有できる機会を得ながら人材育成にむけた取組も進める必要がある。

(2) 持続可能な配信体制

本県の実証研究では、通信制課程の教諭と全日制課程の教諭が配信教員を兼務して遠隔授業を実施したが、今後の遠隔授業の拡充を見据えた場合、次の課題を解決する必要がある。

- 通信制課程教諭が兼任：通信制課程のスクーリング日が土日であることから、平日2日間が振替休日となり、配信日が実質平日3日間に限定される。
- 全日制課程教諭が兼任：他校へ配信する理解が得にくいことに加え、受信校の校時と異なる場合は、遠隔授業1単位時間の実施にあたり最大3単位時間分（事前・事後含む）を確保する必要があり、自校の授業担当にも支障が生じる。

以上のことから、将来の配信教員の人材確保・育成の観点から、当面は複数の学校を拠点に配信する体制を維持することに一定の意義は認められるが、本格的な拡充を見据えた場合、本県においても北海道や高知県のように配信専任教員を配置して受信校との調整を図る配信センターを設置する方向で検討することが望ましいと考える。なお、配置先については安定した通信環境の確保が見込め、かつ今後の遠隔教育の在り方や求められる役割、機能等について有識者の意見もいただきながら検討していくことが必要である。

Ⅱ 複数校間連携モデル及び小規模校間連携モデルの構築

【総論】

- オンライン環境を活用しながら、探究学習を中心とした合同活動や成果発表の機会を確保することで、地理的環境が異なる学校との交流促進につなげることができた。
- こうした取組により、生徒の主体性や社会性を育てることにもつながるとともに、生徒が他校・他地域との比較を通じて、自校・自地域の魅力の再認識や愛着の醸成にもつながるものと考えられる。
- ICT環境が整った現在、国内外の多様な人や学校等との交流が可能となっていることから、教育委員会としては、生徒が多様な価値観に触れられ、切磋琢磨できる環境の構築を推進することで、本県高等学校教育全体の充実につなげていくことが重要である。

1 多様なネットワーク構成校による連携とその課題

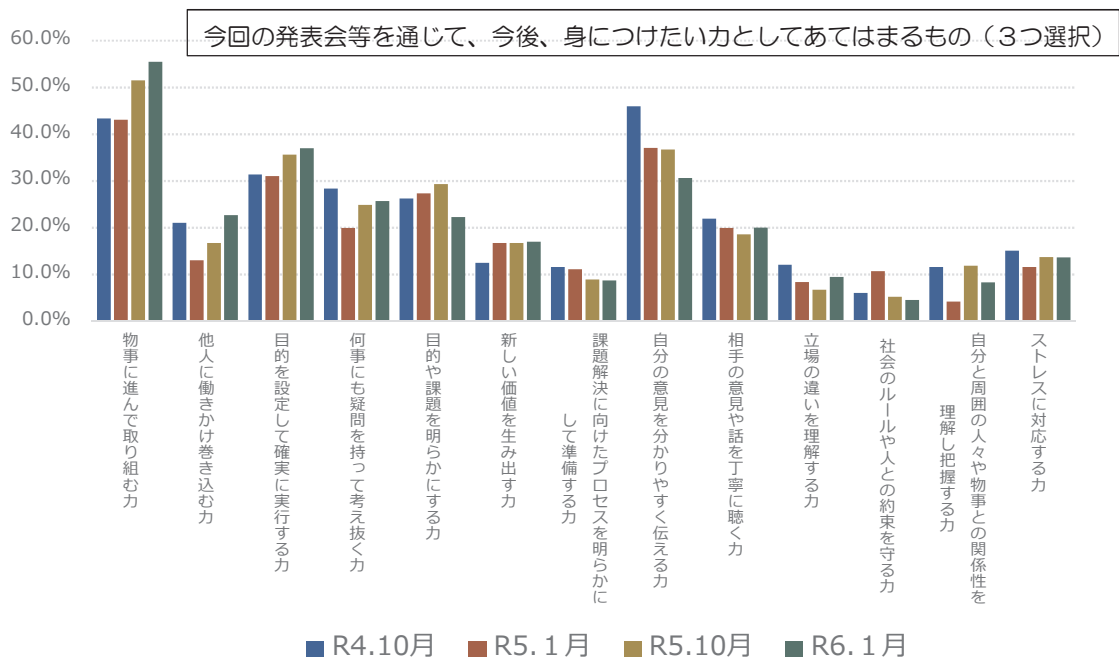
本プロジェクトのネットワーク構成校は、学校種・課程・学科のいずれも同一ではないことから、オンライン環境を活用した生徒間交流により、地理的条件や学校規模に寄らず多様な価値観に触れ、切磋琢磨できる機会を確保した。

特に、探究活動や県外校交流、プロジェクト等の魅力発信をネットワーク校生徒が合同で取り組む生徒組織（SaGaSu 委員会）や、同学年生徒がオンライン上で一堂に会して探究活動の成果発表をする機会（SaGaSu ゼミ）は、普段接することがない他校生徒とグループを形成して意見を交わしたり、生徒一人一人が探究活動の内容を発表することで、多くの生徒がコミュニケーションスキル等の重要性を認識することにつながった。

一方、ネットワーク構成校においては、校時が共通でないことや年間行事計画に位置づけなかったことに伴う連携授業の時間調整に課題があった。今後、多様な学校間連携を実施する場合には、特に学校間で共通性を確保した環境の構築が必要である。

【参考】 SaGaSu ゼミ（探究活動成果発表会）における事後アンケートの結果

回答者：ネットワーク構成校2年生（中等5年生）約300人



2 探究活動を中心とした小規模校間の連携とその効果

ネットワーク構成校のうち、1学級募集校の阿賀黎明高校と羽茂高校が地域探究コース設置校として、対面やオンライン環境を利用して探究活動の交流を実施した。成果発表においては、自校だけでは成しえない多数の意見や、中山間地域と離島という異なる生活環境による多様な価値観に触れることができ、小規模校の教育環境の改善に一定の成果が得られた。また、両校の探究活動や全国生徒募集に係る活動・環境整備に対しては地元自治体の支援によるところが大きい。また、両校の連携・交流が両自治体同士の情報交換やノウハウ共有の機会にもつながった。

また、本プロジェクトでは広島県や長崎県の小規模高校との交流も実現するとともに、佐渡中等教育学校は、令和5年度から県内各地の中等教育学校の各学年と探究活動の充実に係る講演会や意見交換、成果発表会などを合同で実施することにもつなげている。

こうしたICT環境の整備が急速に進んだことで、小規模校でも多様な価値観に触れられ切磋琢磨できる環境を構築できる可能性が拡大したことから、本プロジェクトの成果やノウハウを全県に拡大していく必要がある。



羽茂高校の生徒が阿賀黎明高校を訪問して探究学習の取組を発表している様子



広島県の高校と交流している様子

【参考】中等教育学校間の連携・交流授業

期日	ホスト校	対象学年	内容
7月13日(木)	村上	6年生	探究テーマに基づくワークショップ
8月22日(火)	津南	5年生	「よりよい探究学習のための導入」としての講演会
9月28日(木)	佐渡	2年生	佐渡の伝統文化・芸能、食文化、建築文化、自然、農業等に係る意見交換会
10月27日(金)	直江津	1年生	勤労観や職業観の醸成や海外での医療ボランティアの経験に関する講演会
2月15日(木)	燕	4年生	クリティカルシンキング講座
3月4日(月)	柏崎翔洋	3年生	地域活性化案発表会



佐渡中等教育学校2年生(前期課程)の発表を他の中等教育学校2年生に配信している様子

【2年生対象の連携授業における事後アンケート結果】

回答者：6校の2年生計256名

質問内容：連携授業の満足度及びその理由

肯定的評価	その理由(複数選択)	
80.5%	他校の生徒と意見交換できたから	64.1%
	遠隔で交流するなど、ICT技術を体感できたから	23.0%
	探究学習などについて、主体的に取り組むことの大切さを実感できたから	11.7%
	今回のテーマに関心があり、自分の考えや今後の取組の参考になったから	10.9%

Ⅲ 地域を深く理解し、探究的に学ぶための地域協働体制構築

【総論】

- 地域との連携・協働した取組は、学校が地元自治体等とで探究的な学びやキャリア教育の充実に向けた支援体制を構築することで、生徒が多様な関わり合いを持ちながら地域への理解や郷土愛を深めることができたと考えられる。
- 特に、基礎自治体が小・中学校に県立高校等を加えた一体的・連続的なキャリア教育が地域にとって有為な人材の育成につながるという視点を持ち、多様な団体による教育コンソーシアムの構築や、コーディネーターの配置や地域住民による生徒活動への伴走支援団体の組織化など、地元高校等の教育環境の充実や魅力化・特色化を支援するモデルを本プロジェクトで示すことができた。
- 今後はこうした取組が、中学生やその保護者に広く認知されるとともに、ローカルな視点に留まらない（地域に縛られない）広い学びや、希望する進路の実現やキャリア形成に資するものとなるよう、さらに取組を充実させる必要がある。
- 県立高校等の強みは地域に根ざした活動ができることであることを再認識し、本プロジェクトで取り組んだ地域資源の豊富さ・魅力を活用した探究的な学びの充実とそれを支える地元自治体等との連携・協働体制の構築モデルを、全県の高等学校教育の充実に向けて波及させていくことが重要である。

1 地域資源の活用により多様な大人との関わりや地域理解が促進

阿賀黎明高校では、阿賀町の「阿賀黎明高校魅力化プロジェクト」により、公営塾職員やNPO職員がコーディネーターとして派遣され、地域住民や企業が探究活動への生徒活動への伴走支援団体を結成した。これにより、生徒は、教員や保護者以外の多様な大人と関わり合いを持ちながら、探究活動や学校行事の活性化に取り組むことができた。

佐渡市内の高校等については、佐渡市が構築した佐渡教育コンソーシアムの構築により、地域理解を促進する各種体験活動や島内外の多様な講演等の機会を通じて多様な人材との交流が実現し、そこで得られた学びの成果を、高校生議会の機会等を通じて地域活性化や地域課題の解決策を提言することにつなげることもできた。

こうした取組により、生徒はコミュニケーション能力の高まりなど自己の成長を実感することとともに、地域貢献に対する関心度を高めることができた。一方で、地元中学校からの進学率や、ネットワーク構成校の進路実績等に大きな影響を与えるものとはならなかった。

地元自治体側にとっても地域資源を活用した取組は、小・中学校と連続したキャリア教育を通じて郷土への愛着心醸成や地域を担う人材育成を期待するものとなる。今後は、地域資源（自然・文化・産業等）の豊富さや魅力を再確認する探究的な学びが通じて、学校と地域とが一体となったブランディングに活かすとともに、新たな地方創生人材を生み出すための工夫した取組を一層進める必要がある。



阿賀黎明探究パートナーズによる探究学習への伴走支援の様子

【参考】学校生活に関する意識調査（新潟県教育委員会実施）におけるネットワーク構成校と
 全県平均との比較 回答者：全日制・定時制高校2年及び中等教育学校5年

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	ネットワーク6校	全県	ネットワーク6校	全県	ネットワーク6校	全県
回答者数	646	23175	684	23497	679	22784
学校の授業で、地域の人と対話したり、一緒に活動したりしたことが、自分の成長につながったと思いますか。	77.9%	65.8%	76.0%	70.0%	78.0%	72.4%
地域の魅力を理解したり、地域課題を地球規模の課題と関連付けて学習したりすることで、地域に対する興味・関心は高まりましたか。	73.8%	68.7%	70.5%	69.7%	75.7%	71.4%
自分の生まれ育った地域に、将来、貢献したいと思いますか。	79.9%	81.6%	80.4%	81.2%	85.1%	81.1%

2 地域協働体制構築の課題と拡充に向けて

本プロジェクトにおける地域協働体制は、次の2つのモデルの成果と課題の検証を進めた。

(1) 1自治体が複数校を支援するモデル（佐渡市・佐渡市内5校）

本モデルにおいては、佐渡市役所はじめ14団体の多様な組織によるコンソーシアムが構築され、佐渡市役所に配置されたコーディネーターが市内5校の活動ニーズを把握し、コンソーシアム構成団体の協力範囲とのマッチングを行った。

ただし、学校数が多い分、コーディネーターの業務が過多となる傾向があり、教員数の少ない小規模校ほどコンソーシアムとの連絡調整体制に限界もある。

今後、コンソーシアム全体の連絡調整役である統括コーディネーターと、地域人材を活用して各学校に地域連携支援に関する職員を配置することが望ましく、これに対応した予算措置を検討していく必要がある。

(2) 1自治体が1校を支援するモデル（阿賀町・阿賀黎明高校）

本モデルにおいては、阿賀黎明高校がコミュニティ・スクールに指定されていることから、学校運営協議会を取組方針の議論の場と位置づけ、学校・行政（阿賀町）・住民の三者の調整役として、公営塾職員（地域おこし協力隊）や地元NPO代表者をコーディネーターに位置付けて運営した。（下図参照）

一方、今後の取組充実に向けては、取組の評価に係る外部からの指導・助言やデータ分析を取り入れていくことが必要と考えられる。

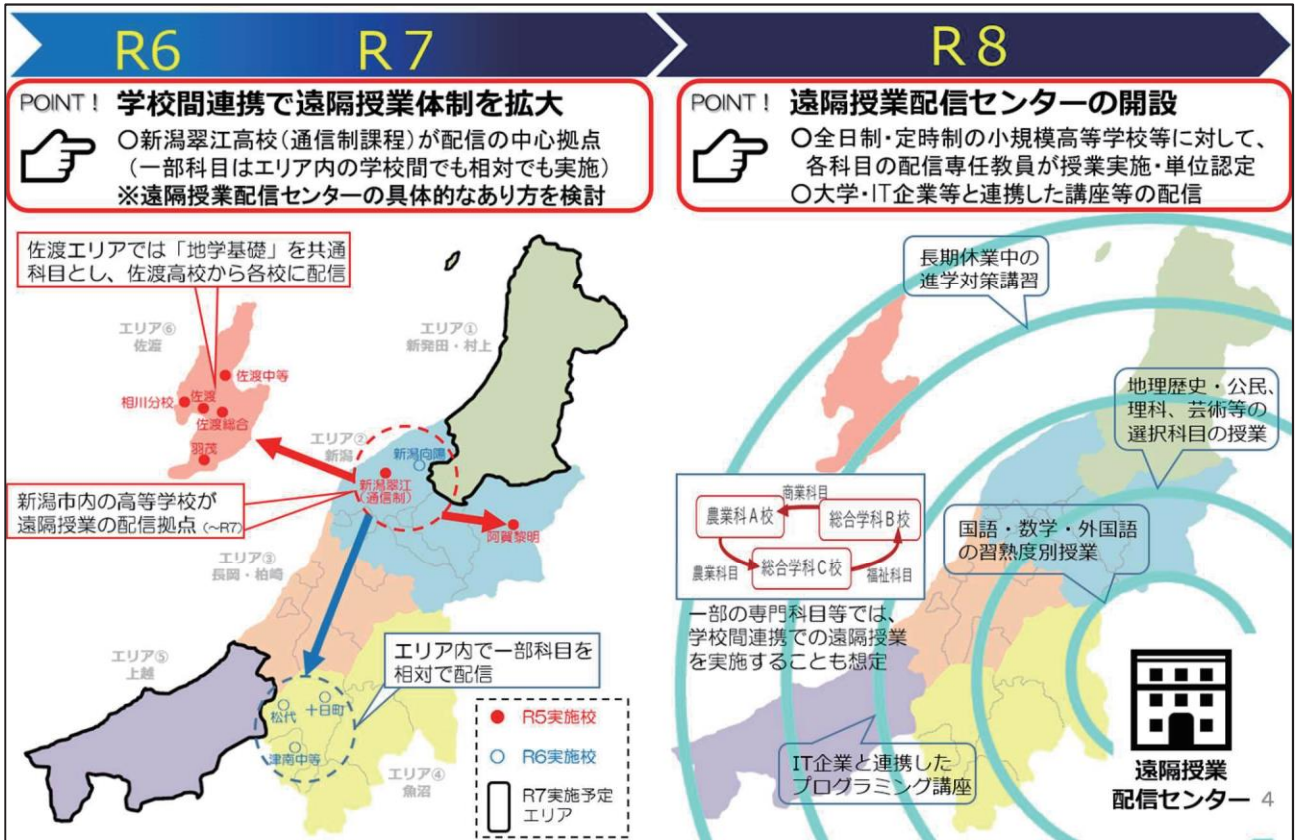


第6章

事業終了後に向けて

I 遠隔授業の拡充体制の構築に向けて

本プロジェクトの成果と課題を踏まえ、令和6年度・令和7年度までの間で離島・中山間地域以外にも遠隔授業の実施校を拡大して教育の質の維持の確保に努めるとともに、令和8年度を目途とした遠隔授業配信センターの設置に向けて、役割・機能の整理や設置先等のあり方検討を進めるとともに、配信側・受信側双方のスキル向上や人材育成に向けた体制も構築していく。



遠隔授業の拡充に向けた構想図

【参考】遠隔授業システムの機器変更 (R6年度の配信校に設置)

○AI 自動追跡ウェブカメラの導入

配信教員が黒板を利用するなど、着座位置から動きがある場合にカメラ調整の手間を省いて円滑に授業を実施できるよう、被写体をAIで自動追跡するウェブカメラを導入した。

○ディスプレイの大型化

今後の複数校同時配信の実施拡大を念頭に、受信側教室の把握のしやすさを確保するため、当初導入した28インチディスプレイから42.5インチディスプレイに変更した。



機器変更を伴った新遠隔授業システムによる試行の様子

1 令和6年度の遠隔授業の実施について

本プロジェクトの対象校7校に新潟市内2校及び魚沼地域の3校を加えた計12校で遠隔授業を実施する。

(1) 実施校

	学校名	課程	学科	所在エリア	配信	受信	備考
1	新潟翠江高等学校	通信制	普通科	新潟	○		配信の中心拠点
2	新潟東高等学校	全日制	普通科	新潟	○		
3	新潟向陽高等学校	全日制	普通科	新潟	○		
4	阿賀黎明高等学校	全日制	普通科	新潟		○	
5	十日町高等学校	全日制	普通科	魚沼	○	○	
6	松代高等学校	全日制	普通科	魚沼	○	○	エリア内でも相対実施
7	津南中等教育学校	全日制	普通科	魚沼	○	○	
8	佐渡高等学校	全日制	普通科	佐渡	○		
9	佐渡高等学校相川分校	定時制	普通科	佐渡		○	
10	羽茂高等学校	全日制	普通科	佐渡		○	
11	佐渡総合高等学校	全日制	総合学科	佐渡		○	
12	佐渡中等教育学校	全日制	普通科	佐渡		○	

(2) 実施教科・科目（予定）

	教科	科目	配信校	受信校			通年実施 単位認定	備考
				学校名	学年	単位数		
1	国語	古典探究	新潟翠江	羽茂	3	2	○	
2	地理歴史	地理総合	新潟翠江	羽茂	3	2	○	
3		地理探究	新潟翠江	津南中等	5	2	○	
4	公民	政治・経済	新潟翠江	阿賀黎明	3	2	○	
5		政治・経済	新潟翠江	佐渡総合	2	2	○	
6		政治・経済	十日町	津南中等	5	3	○	
7	理科	化学基礎	新潟翠江	羽茂	2	2	○	受信側合同授業
8		生物	新潟東	阿賀黎明	3	4	○	
9		生物	新潟東	松代	3	4	○	
10		地学基礎	佐渡	阿賀黎明	2	2	○	
11		地学基礎	佐渡	羽茂	2	2	○	
12		地学基礎	佐渡	佐渡総合	2	2	○	
13	地学探究	佐渡	佐渡中等	6	2	○		
14	外国語	英語総合	新潟翠江	十日町	3	2	○	
15	芸術	書道Ⅰ	新潟向陽	阿賀黎明	1	2	○	
16		書道Ⅰ	新潟東	相川分校	2	2	○	
17	情報	情報Ⅰ	新潟翠江	佐渡中等	1	2	○	
18		情報Ⅰ	松代	津南中等	4	2	○	
19		情報Ⅰ	松代	津南中等	4	2	○	
20	福祉	社会福祉基礎	新潟向陽	佐渡総合	2	2	○	
21	総合的な探究の時間	総合的な探究の時間	津南中等	十日町	1	1		スポット配信

2 ICTを活用した遠隔授業や学校間連携に関する後継事業について（令和6年度県予算事業）
 多様で柔軟な学びの推進に向けた遠隔教育配信拠点形成事業（15,033千円）

(1) 遠隔教育配信センター（R8 設置予定）のあり方検討

- 外部有識者によるワーキンググループ会議の開催
- 外部アドバイザーの採用
- センター設置先の検討及び通信ネットワーク環境アセスメント調査の実施

(2) 学校間配信（R7 実施校）環境整備事業

○令和7年度遠隔授業実施エリアへ遠隔授業システム機器を導入

【エリア別の全日制高校1校あたりの募集学級数（『高校等再編整備計画 R5.7』より）】

	村上・新発田	新津・五泉	新潟	三条・西蒲	長岡・柏崎	魚沼	上越	佐渡
R6	3.7	3.7	6.8	3.8	3.9	3.2	3.5	2.8
R8	3.8	3.5	6.6	3.9	3.8	3.1	3.5	2.2
増減	0.1	▲0.2	▲0.2	+0.1	▲0.1	▲0.1	±0.0	▲0.6
備考		R4 遠隔開始				R6 遠隔開始		R4 遠隔開始

(3) 配信側調整員（1校）及び受信側支援員（4校）の配置及び育成

○配信側調整員

- ・目的及び役割 遠隔授業の配信調整業務（配信受信校の時間割調整、配信教員・受信校とのミーティング等）
- ・教員免許 有が望ましいが必須ではない

○受信側支援員 ※国の遠隔授業関連の制度改正（下図参照）を踏まえた措置

- ・目的及び役割 遠隔授業実施に係る機器関係の事前・事後業務、遠隔授業時の受信補助業務（機器操作の支援や記録作成）
- ・教員免許 無くてよい

「高等学校教育の在り方ワーキンググループ中間まとめ」を踏まえた制度改正の概要（2/2）

2 「高等学校等におけるメディアを利用して行う授業の実施に係る留意事項」（通知）改正関係（令和6年4月1日～）

(1) 受信側の教室等への教員配置

以下の場合においては、例外的に、受信側の教室等に当該高等学校等の教員を配置することは必ずしも要しない

① 以下を全て満たし、教員に代えて学習指導員や実習助手、事務職員等の当該高校等の職員（校長の指揮監督下）を配置する場合

- 受信側の教室等に当該高校等の教員の配置を求めることが、多様な科目開設や習熟度別指導等により生徒の多様な進路実現に向けた教育・支援を行うに当たっての支障となる
- 受信側の教室等における生徒の数が生徒が必要とする援助の内容等に照らし、教育上支障がないと当該高等学校等の校長が認める場合

※ ただし、当該高等学校等ごとの教員数が、公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律（昭和36年法律第188号）の定めるところによる教職員の定数の標準を満たしていることが前提（教員数の合理化を目的に安易に教員に代えて職員を配置することは本特例措置の趣旨に合致しない）

② 不登校生徒に対し、自宅その他特別な場所（教育支援センター、校内教育支援センター、保健室、その他当該高等学校等内の別室等）において、メディアを利用して行う授業の配信を行う場合

(2) 対面により行う授業の時間数

以下の場合においては、例外的に、対面により行う授業の時間数を各教科・科目ごとに年間1単位時間とすることも認められる

① 以下を全て満たす場合

- メディアを利用して行う授業の配信を受ける高等学校等が離島・中山間地域等の遠方に立地することにより、配信側の教員の移動に日数を要し、当該教員による他の高等学校等への授業の実施に支障を伴う
- 同時に授業を受ける生徒数が少人数であるため個々の生徒の学習状況が速隔でも把握しやすい状況にある
- 配信側の教員が過年度における授業を担当している等、配信側の教員と受信側の生徒との間の人間関係が既に構築されており、当該受信側の生徒が必要とする援助の程度に照らしてもメディアを利用しての授業の実施に支障がないと受信側の高等学校等の校長が認める場合

② 病気療養中等の生徒であって、当該生徒の病状や治療の状況、医師等の意見等を踏まえ、対面により行う授業を複数回行うことが難しいと高等学校等の校長が認める場合

(3) その他配慮いただきたい事項（柔軟な履修等）

教務規程等において、慣例として、授業への出席の回数を履修や単位認定の要件として課しているところ、遠隔授業や通信教育の実施、補講その他適切な指導の実施等により、生徒一人一人の実情に応じて柔軟に履修・単位修得を認めることが望まれる

【主な留意点等】

教育上支障がないと認められる場合… 以下の①、②をともに満たすこと。
 (上記(1)関係)

① 受信側の教室等の生徒数、活用するメディアの態様等を踏まえて、配信側の教員が生徒一人一人の学習状況を見取ることが可能な人数規模で、授業を実施するものであること。（実証結果に基づき、大型ディスプレイ越しに生徒の様子を確認する場合で最大5名程度、1人1台端末を活用した画面共有機能や共同編集機能等による場合で最大15～20名程度以下）

② 配信側の教員と、受信側の教室等に配置される職員とが授業の進め方や生徒の状況に係る事前の打合せを行い、役割分担を明確化した上で、遠隔授業が実施されること。また、受信側の教室等に配置される職員が、当該役割を十分に認識し、果たすることができる者であること。

自宅等遠隔授業を受けた場合の出席… 出席扱いにすることが可能。その際、画面やチャットツール等を通じて生徒の学習状況を把握することにより、出席扱いと認めることが考えられる。

「高等学校等における多様な学習ニーズに対応した柔軟で質の高い学びの実現について（通知）」添付資料より
 （令和6年2月13日5文科初第2030号より文部科学省）

(4) 中等教育学校における同学年同士等のオンライン連携講演会等の実施

II 高校と地域との連携・協働体制の全県波及に向けて

1 高校と地域との連携・協働体制構築事業（15,000千円）

(1) 事業趣旨

「新潟の未来をSaGaSuプロジェクト」（R3～R5）の事業成果を踏まえ、学校と地域との連携・協働に取り組む活動により、本県高等学校等の教育環境の充実を図る。

SaGaSuプロジェクト（地域コンソーシアム）の事業成果

①学校側視点の事業成果

- ・コンソーシアム構築により、関連団体、地域住民等が授業や課外活動に関与、伴走する体制が整い、生徒が教員・保護者以外の多様な大人と関わる環境を確保
- 教員だけではなしえない専門的・実践的な学びの環境や、コミュニケーション能力の高まりなどの成長を実感

②地域側視点の事業成果

- ・学校側と地方創生人材や地方産業等を支える人材育成ビジョンを明確に共有でき、コーディネーターを配置した上で地域資源を活用した具体的な取組を展開
- 地域住民等が地元高校への関心を高める契機となり、離島・中山間地域の活性化の一助

(2) 事業内容

学校と地元自治体等との連携・協働した体制構築及びそれに関連した取組を行う学校を支援する。

- 事業期間 2年間
- 総事業費 1,500万円（令和6年度） ※令和7年度は未定
- 指定件数 5件程度（1件当たり300万円を上限）

(3) 実施校の選定

- 公募制による選定を行う。
- 選定方針については、別に定める。

(4) 事業費

- 対象経費は次のとおりとする。

費目	摘要
報酬	会計年度任用職員任用に係る報酬（別紙「県立学校地域連携学習支援員取扱要領」に基づく採用を原則とする）
報償費	講師謝金等（講師謝金の1時間当たりの基準 大学教授級 ¥7,300、大学准教授級 ¥6,300、民間講師 ¥3,800）
旅費	職員旅費及び費用弁償旅費
需用費	50,000円未満の物品購入、報告書作成に係る印刷費
役務費	保険料、切手代等
委託料	外部への各種業務委託
使賃料	会場借上料、バス借上料等

(5) 年次計画（想定）

	R6 (取組1年目)	R7 (取組2年目)	R8 (取組3年目) 自走化
事業校	<ul style="list-style-type: none"> ○地域連携をベースとしたカリキュラムの見直し・検討 ○探究学習等に関する学校間連携の内容やスケジュールの調整 ○コーディネーターの採用 	<ul style="list-style-type: none"> ○コンソーシアム等への意見聴取を踏まえ、新カリキュラム決定 ○校時表の一部共通化(時間割を合わせることで合同活動が円滑化) ○コーディネーターによる取組調整 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域連携・協働の視点を踏まえた「総合的な探究の時間」及び学校設定科目による授業及び課外活動の実施 ○校時表の共通化 ○複数コーディネーターの配置検討
	<ul style="list-style-type: none"> ○探究学習に係る講演会や現地研修、企業実習等の実施、校内発表 	<ul style="list-style-type: none"> ○探究学習に係る講演会や現地研修、企業実習等の合同実施、発表 	<ul style="list-style-type: none"> ○探究学習に係る講演会や現地研修、企業実習等の合同実施、発表
地元自治体等	<ul style="list-style-type: none"> ○コンソーシアムの構築(上期) ・構成団体の調整・決定 →総会の開催(キックオフ) ワーキンググループ(構成団体実務担当者で構成) 	<ul style="list-style-type: none"> ○コンソーシアムの運営 ・総会の開催(3回) 活動の基本方針決定や活動評価 ・ワーキンググループの定期開催 学校への具体的支援内容を協議 	左記活動の発展・充実
	<ul style="list-style-type: none"> ○コンソーシアム構成団体の協力による各学校の取組や学校間連携に対する人材派遣や体験活動や企業実習等の実施 ○阿賀町をモデルとした地元企業・住民等で構成された「探究活動伴走団体」の組織化 	<ul style="list-style-type: none"> ○高校生の成果発表の場の設定 ・佐渡市をモデルとした「高校生議会」の開催 ・各種プレゼン機会の提供 ○コンソーシアム構成団体及び探究活動伴走団体の協力による、各学校の取組や学校間連携に対する人材派遣や体験活動や企業実習等の実施、伴走 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○コンソーシアム構成団体対象のワークショップや先進県視察実施 ・地域連携に関する意識啓発講演会や他地域との情報交換 	<ul style="list-style-type: none"> ○R8以降の自走化に向けた資金調達等の具体的検討 	
教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○スタートアップ事業による支援と自走化に向けた指導・助言 		<ul style="list-style-type: none"> 事業総括の成果発表会を開催

Ⅲ 県立高校等のあり方の検討に向けて

本県では、令和5年度から令和6年度にかけて、中長期の視点に立った「県立高校の将来構想」を策定することとしており、下記の課題の整理や、本プロジェクトで得た成果と課題等の知見を踏まえながら、県立高校のあり方について検討を進めていく。

○ 本県高等学校等における課題の整理

◇ 中学校卒業生数の減少

- ・ 県立高校の小規模化
- ・ 学校数を維持したままでの学級数調整の限界
- ・ 望ましい学校規模の考え方
- ・ 小規模化による多様な科目選択の制限
- ・ 地域の特性等により存続が必要な小規模校の特色化

◇ 教育のニーズの多様化

- ・ 定時制・通信制高校の進学者増加への対応
- ・ 公教育としての質の高い学びを保障する定時制・通信制教育
- ・ 県立定時制・通信制高校の再編
- ・ 普通科・専門学科の役割と特色化

◇ ICTを活用した教育の加速度的な進展

- ・ 遠隔教育の効果と限界
- ・ 遠隔教育の役割の明確化

◇ 県立高校等のあり方

- ・ 「新潟県教育振興基本計画」（令和5年3月改定）を踏まえた県立高校等における今後の方向性

資料

- 文部科学省資料「CORE ハイスクール・ネットワーク構想事業概要」
及び「事業実施機関一覧（令和5年度）」・・・・・・・・・・102
- 「新潟の未来を SaGaSu プロジェクト」事業概要図・・・・・・・・・・103
- 「新潟の未来を SaGaSu プロジェクト」指導委員会 設置要綱・・・・・・・・・・104
- 「新潟の未来を SaGaSu プロジェクト」指導委員会 委員名簿・・・・・・・・・・105
- 「新潟の未来を SaGaSu プロジェクト」指導委員会の概要・・・・・・・・・・106
- 遠隔授業の実施に係る運用規程・・・・・・・・・・108
- 文部科学省「高等学校教育の在り方ワーキンググループ中間まとめ」
を踏まえた制度改正の概要・・・・・・・・・・115
- 最終事業報告会（シンポジウム）・・・・・・・・・・117
- 令和5年度教育広報誌「かけはし」第57号（令和5年3月8日発行）・・・・・・・・155
- 令和4年度教育広報誌「かけはし」第52号（令和4年7月1日発行）・・・・・・・・156
- 令和4年度新潟県教育月報3月号（874号）「遠隔授業研究協議会」・・・・・・・・157
- 令和4年度新潟県教育月報1月号（872号）
「新潟の未来を SaGaSu プロジェクト」・・・・・・・・・・158
- 令和3年度新潟県教育月報1月号（861号）
「高等学校における遠隔教育の推進について」・・・・・・・・・・162

COREハイスクール・ネットワーク構想

令和5年度予算額 0.8億円
(前年度予算額 0.8億円)



地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワークの構築 : COllaborative REgional High-school Network

文部科学省

背景・課題

- 中山間地域や離島等に立地する小規模高等学校においては、地域唯一の高等学校として、大学進学から就職までの多様な進路希望に応じた教育・支援を行うことが必要であるが、教職員数が限定的であり、生徒のニーズに応じた多様な科目開設や習熟度別指導が困難。
- 複数の高等学校の教育課程の共通化やICT機器の最大限の活用により、中山間地域や離島等の高等学校においても生徒の多様な進路実現に向けた教育・支援を可能とする高等学校教育を実現し、持続的な地方創生の核としての機能強化を図る。

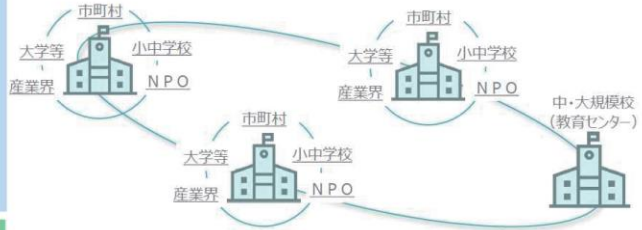
事業内容：中山間地域や離島等に立地する小規模高等学校の教育環境改善のためのネットワークの構築

① 同時双方向型の遠隔授業などICTも活用した連携・協働

- ⇒ 自校では受けることのできない授業の受講を可能化
- ⇒ 免許外教科担任制度の利用解消
- ◆ 文部科学省が実施教科や形態に応じた複数の研究テーマを設定し実施

② 地元自治体等の関係機関と連携・協働する体制の構築

- ⇒ 学校外の教育資源を活用した教育の高度化・多様化
- ⇒ 地域を深く理解しコミュニティを支える人材の育成



※中・大規模校（教育センター）から複数の高等学校に対する「集中配信方式」の実施も推奨

【事業の検証のための調査研究】

全国展開に向けて、各ネットワークにおける成果・課題を抽出・分析する実証研究を実施

生徒の多様なニーズに応じた質の高い教育を実現する高等学校ネットワークのモデルを構築

対象校種	国公立の高等学校・中等教育学校	委託先	学校設置者
箇所数 単価（期間）	13箇所（R3指定） 480万円程度/箇所（原則3年）	委託対象経費	遠隔授業の開発・実施に必要な経費 （人件費、委員旅費、謝金等）

COREハイスクール・ネットワーク構想実施機関一覧（令和5年度）



文部科学省

管理機関	ネットワークを構成する学校
1 北海道教育委員会	有朋高等学校（配信センター）、夕張高等学校、月形高等学校、蘭越高等学校、寿都高等学校、虻田高等学校、厚真高等学校、穂別高等学校、平取高等学校、福島商業高等学校、南茅部高等学校、長万部高等学校、松前高等学校、上ノ国高等学校、下川商業高等学校、美深高等学校、苫前商業高等学校、豊富高等学校、礼文高等学校、利尻高等学校、常呂高等学校、津別高等学校、佐呂間高等学校、清里高等学校、興部高等学校、雄武高等学校、阿寒高等学校、羅臼高等学校、本別高等学校、標津高等学校、天塩高等学校、弟子屈高等学校
2 岩手県教育委員会	葛巻高等学校、西和賀高等学校、花泉高等学校、山田高等学校、種市高等学校、岩手県立総合教育センター
3 宮城県教育委員会	宮城野高等学校、田尻さくら高等学校、柴田農林高等学校川崎校、岩ヶ崎高等学校、中新田高等学校、貞山高等学校
4 群馬県教育委員会	長野原高等学校、嬬恋高等学校、渋川高等学校、吾妻中央高等学校、尾瀬高等学校
5 新潟県教育委員会	佐渡高等学校、佐渡高等学校相川分校、羽茂高等学校、佐渡総合高等学校、佐渡中等教育学校、阿賀黎明高等学校、新潟翠江高等学校
6 愛知県教育委員会	内海高等学校、加茂丘高等学校、足助高等学校、福江高等学校、新城有教館高等学校作手校舎、田口高等学校、愛知県総合教育センター
7 島根県教育委員会	益田高等学校、江津高等学校、津和野高等学校、吉賀高等学校
8 広島県教育委員会	福山誠之館高等学校、油木高等学校、東城高等学校、日影館高等学校
9 高知県教育委員会	清水高等学校、宿毛高等学校、宿毛工業高等学校、中村高等学校、中村高等学校西土佐分校、幡多農業高等学校、大方高等学校、窪川高等学校、四万十高等学校、遠隔授業配信センター（高知県教育センター内）
10 長崎県教育委員会	宇久高等学校、杵岐高等学校、奈留高等学校、北松西高等学校
11 熊本県教育委員会	第一高等学校、小国高等学校、牛深高等学校、球磨中央高等学校、熊本県立教育センター
12 大分県教育委員会	中津南高等学校耶馬渓校、久住高原農業高等学校、国東高等学校、佐伯豊南高等学校、中津南高等学校、大分南高等学校、情報科学高等学校、三重総合高等学校
13 宮崎県教育委員会	高千穂高等学校、福島高等学校、延岡高等学校、宮崎南高等学校、五ヶ瀬中等教育学校、日南高等学校

新潟の未来をSaGaSuプロジェクト

目的

- Sado(佐渡)とAga(阿賀)とSuikou(新潟翠江)のネットワーク7校の取組で、新潟の高校教育の未来を拓く
- 遠隔授業をとおして、生徒のニーズに応じた多様な教科・科目の開設を行い、離島・中山間地域の教育環境の充実を図る。
 - 佐渡市、阿賀町両自治体が推進するキャリア教育を基盤として、地域と一体となって有為な地域人材を育成する。

現状

- 本県の人口減少と少子化の急速な進行
 - ・若者を中心として社会減少数が全国平均以上
 - ・都市部と離島・中山間地域との間の人口偏在（医師の地域偏在を表す指標で全国最下位）
 - ・佐渡市・阿賀町の中卒者数は20年前に比べ約半減
- 通学範囲の広さと通学手段の不便さ
 - ・離島である佐渡市は、東京23区の約1.4倍の面積に県立高等学校等が5校点在
 - ・福島県境にある阿賀町は、県内有数の豪雪地域で、町に唯一ある高等学校以外への通学には30km以上の距離
- 県立高等学校等の小規模化の進行
 - ・本県の全日制及び定時制課程県立高等学校・中等教育学校89校のうち44%が1～3学級（令和4年度募集）

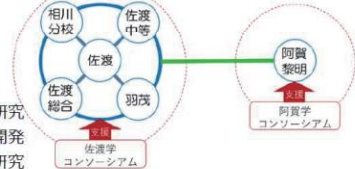
1. 遠隔授業に関する取組の概要

- 新潟市内に立地する新潟翠江高等学校に遠隔授業配信センターを設置し、授業及び補習等を配信
 - 理科、地理歴史・公民、芸術等の専門教員による授業
 - 国語、数学、英語の習熟度別に対応した授業
 - 大学進学や検定対策など、生徒のニーズに応じた各種補習
- 新潟の魅力や最先端技術を踏まえた授業配信
 - 本県の地形的・地質的特徴を学ぶ「地学基礎」を教育課程で共通化
 - VRや専門人材の活用を踏まえた「福祉」科目の授業



2. 地元自治体等の関係機関と連携・協働する体制の構築に関する取組の概要

- 佐渡学コンソーシアムと阿賀学コンソーシアムの構築
 - 共通理念は、生徒を「主語」に、大人も「ワクワク」
 - 地域資源の活用や、SDGsを踏まえた「探究的な学び」の充実
- コンソーシアム内外の学校間連携の推進
 - 佐渡島内5校による、佐渡の魅力の情報発信
 - 異なった環境に立地する「地域探究コース」同士の交流、共同研究
 - 例：佐渡・阿賀の魅力を知る観光周遊ルートや体験型メニュー開発
 - ：離島・中山間地域が自給できるクリーンエネルギーの調査研究



3. ネットワークを構成する学校

- 新潟県立佐渡高等学校(全日制、普通科)
- 新潟県立佐渡中等教育学校(普通科)
- 新潟県立佐渡高等学校相川分校(定時制、普通科)
- 新潟県立阿賀黎明高等学校(全日制、普通科)
- 新潟県立羽茂高等学校(全日制、普通科)
- 新潟県立新潟翠江高等学校(定時制・通信制、普通科)
- 新潟県立佐渡総合高等学校(全日制、総合学科)

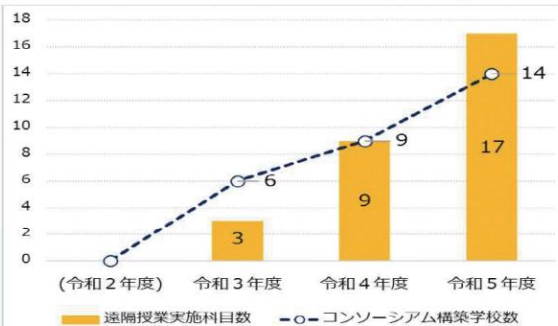
新潟の未来をSaGaSuプロジェクト

育成を目指す資質・能力

- 専門教員による遠隔授業により、教科・科目における専門的な知識の理解と活用力を育成
- ICTを活用した「協働的な学び」と「個別最適な学び」の実施により、深い思考力と豊かな表現力を育成
- 地元の佐渡市や阿賀町へ愛着や誇りを抱き、主体的に社会参画・地域貢献を行う態度を醸成
- 地域と地球規模の課題を関連付け、自己のキャリア形成に活かそうとする態度、新潟の未来を創造しようとする態度を醸成

主なアウトプット(活動目標)

- ネットワーク構成校における遠隔授業の実施科目数の増加
- 地元自治体等とコンソーシアムを構築する学校数の増加



主なアウトカム(成果目標)

- 遠隔授業や地域と連携・協働した探究学習によって、「学習意欲の向上につながった」と回答した生徒の割合

令和3年度：50%以上 令和4年度：60%以上
令和5年度：70%以上

- 県の高校生意識調査における「学校の指導が進路実現が役に立つ」と回答した生徒の割合（高校2年生・中等教育学校5年生対象）

令和2年度県内平均値
68.4%と比較して、

ネットワーク構成校※は、
令和3年度：+5ポイント
令和4年度：+8ポイント
令和5年度：+10ポイント

※遠隔授業配信センターとなる新潟翠江高校の数値は除く。

委託期間終了後の見通し

- 県事業への接続と高等学校等の再編整備計画への反映
⇒ 遠隔授業の対象校拡大や、地域と連携した魅力ある学校づくりの一層の推進
- 本事業のコンソーシアムモデルをもとに、県内他地域への新たなコンソーシアム構築に向けた支援

「新潟の未来をS a G a S uプロジェクト」指導委員会 設置要綱

(設 置)

第1条 文部科学省委託事業「地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築事業（COREハイスクール・ネットワーク構想）」に係る管理機関（新潟県教育委員会）の取組に対する指導・助言を得るため、「新潟の未来をS a G a S uプロジェクト」指導委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(構成等)

第2条 委員会は、別表に掲げる委員をもって構成する。
2 任期は、委嘱の日から令和6年3月31日までとする。

(会議の進行等)

第3条 会議の進行は管理機関が担うものとする。
2 委員が必要と認めるときは、委員以外の者に出席を求めることができる。

(幹 事)

第4条 会議には、幹事を若干人置く。
2 幹事は、新潟県教育庁職員の中から教育長が任命する。

(事務局)

第5条 会議の事務局は、新潟県教育庁高等学校教育課に置く。

(雑 則)

第6条 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、事務局が別に定める。

附 則

この要綱は、令和3年5月10日から施行する。
この要綱を、令和3年7月16日から改正する。

「新潟の未来をS a G a S uプロジェクト」指導委員会 委員名簿

(敬称略)

No	氏 名	所 属 等
1	石井 英真	京都大学大学院教育学研究科 准教授
2	東原 義訓	信州大学教育学部 名誉教授
3	長尾 雅信	新潟大学大学院現代社会文化研究科 准教授
4	高堂 景寿	相互技術株式会社 代表取締役社長
5	岩佐 十良	株式会社自遊人 代表取締役

【教育委員会】

○ 幹事

教育次長（幹事長） 長谷川 雅一
 高等学校教育課長 市野 正廣

○ 事務局（高等学校教育課）

参事（事務局長）	石橋 弘光
企画振興係長	田邊 康彦
企画振興係管理主事	菅 一典
企画振興係指導主事	齋藤 達也
企画振興係指導主事	南雲 悠
教育情報化推進担当副参事（指導主事）	原口 央
教育情報化推進担当指導主事	石田 亘

第1回「新潟の未来を SaGaSu プロジェクト」指導委員会の概要

日時：令和5年7月18日(火) 午前10時～12時

場所：新潟県庁15階 教育委員会室

参加者：石井委員、東原委員、長尾委員、高堂委員、岩佐委員

次第

- 1 開会あいさつ（長谷川教育次長）
- 2 自己紹介
- 3 資料説明 ① 3年目の調査研究
② 3年間の総括の方向性と本県高等学校教育の可能性（11月シンポジウムを見据えて）
- 4 指導・助言
- 5 閉会

<指導委員からの指導・助言等>

- 3年目の遠隔授業の取組状況から、ICT活用のスキルも大切だが、それ以上に、遠隔授業も対面授業も授業の構成力など教師の指導力量そのものが重要であると考えられる。
- 遠隔授業において生じる様々なトラブルは事例共有しておく必要がある。
- 遠隔授業における合同授業は、生徒同士の対話を重視するなど、受信側に対してもっと委ねる授業形態を目指しても良い。
- 本プロジェクトでは、遠隔授業、地域連携双方において取組成果やノウハウが蓄積された。特に、今後は、遠隔授業の全科目展開を目指して、専任教員を配置した配信センターの設置を検討しても良いのではないかな。
- 本プロジェクトに取り組んでいるネットワーク校が、近隣の中学生にとって魅力的な進学先として捉えてもらえるよう、高校生が中学生に活動報告をする機会を設けてもよいのではないかな。
- 中学校卒業者の減少を前提として、新潟県がこのプロジェクトを通じてどのような教育システムを作っていきたいのか、高等学校の今後のビジョンをどう考えるのか、あらためて整理してほしい。
- 急速な過疎化や人口減少に課題のある地域・学校に対してのICT活用等の手立てという視点ではなく、全県の教育の質をどう高めていくかという視点で本プロジェクトを捉えなおしても良いのではないかな。

第2回「新潟の未来を SaGaSu プロジェクト」指導委員会の概要

日 時：令和6年2月29日(木) 午前10時～12時

場 所：新潟県庁15階 教育委員会室

参加者：石井委員、東原委員、長尾委員、高堂委員

欠席：岩佐委員

次 第

- | | |
|-----------------------|---------|
| 1 開会あいさつ（長谷川教育次長） | 3 指導・助言 |
| 2 資料説明 調査研究報告書（案）について | 4 閉会 |

<指導委員からの指導・助言等>

- 本プロジェクトは、遠隔授業の枠にとどまらず、新潟県の高校をどうしていくのかという大きなビジョンのもとでなされてきたことが大きい。
- 自走して県として動くときには、プロジェクト実施時期と同様のことが求められるため、次年度以降、より一層、県教育委員会の役割が大きくなる。
- 遠隔授業における工夫した取組により、通常の対面授業がどのように変わっていったかも確認しておくが良い。
- 1人1台端末を活用した双方向授業の可能性が見られ、対面授業への気づきとなってきたことは、本プロジェクトの取組をとおして得られた知見であり、3年前には想像できていなかった。
- 講義形式だけでなく、ディスカッションが増えていることも評価できる。学校ならではの教育体験がオンラインでもできることが大きな成果と考える。配信授業というと一方的なイメージがあるが、多方向・双方向の遠隔授業の取組をとおして、そのイメージが払拭されてほしい。
- 機器はツールであり、有効であれば、フル活用していく。対面授業でも改善している取組は共有していくことが望ましい。
- 遠隔授業配信センターを設置したときに、県全体の授業改善や学習改善といった取組が、配信センターだけにとどまる形になってしまってもったいない。多方面を巻き込んで、配信センターが県としての授業改善の一つのきっかけになってほしいし、何らかの形で授業や学習への揺さぶりといった部分をうまくデザインしていけるといい。
- これまでの取組を整理してまとめ、記録を残しておいてほしい。配信教員のノウハウをハンドブックという形で本を出版してはどうか。この取組で蓄積された経験値を広く拡散するために情報発信していくことが今後につながる。
- 阿賀町や佐渡市との取組をとおして、他地域で進めるための課題を共有し、県全体に波及するように進めてほしい。

遠隔授業の実施に係る運用規程

令和4年2月28日
高等学校教育課

I 遠隔授業全般

- 1 県立高等学校及び県立中等教育学校（後期課程）を対象として実施する遠隔授業は、学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第88条の3及び第113条第3項の規定、並びに平成27年文部科学省告示第92号に基づき、多様なメディアを高度に活用して、同時かつ双方向的に行われるものである。
- 2 遠隔授業は、原則、通年で実施し、単位認定の対象とする。
- 3 遠隔授業の実施にあたっては、平成27年文部科学省告示第92号に基づき、各教科・科目等の特質に応じ、対面により行う授業（以下、対面授業）を相当の時間数行うものとし、以下の点に留意する。
 - (1) 対面授業は、遠隔配信担当教員（以下、配信教員）が各学校を訪問して実施するもので、原則、受信校の生徒は移動しない。
 - (2) 対面授業の時間数は、年間2単位時間以上を確保する。時間数については、各教科・科目の特質を考慮して、柔軟に設定する。
 - (3) 原則として、上記(2)の時間数のうち、1単位時間は、4月当初にオリエンテーションを目的に実施する。
 - (4) 対面授業は、授業実施日を原則とし、配信教員が出張可能な日を設定する。
 - (5) 必要に応じて、受信校との協議の上、2時間連続の対面授業も可能とする。
- 4 遠隔授業により修得できる単位数は、学校教育法施行規則第96条第2項の規定により、全課程の修了の要件として修得すべき単位数のうち、36単位を超えないものとする。
- 5 遠隔授業の実施形態は、原則、次のとおりとする。
 - (1) 配信側は、当該教科の免許状を保有する教員のみとする。
 - (2) 受信側には、当該校の生徒に加え、授業補助としての教員（以下、遠隔授業支援教員。当該教科の免許状の有無は問わない）又はその他の教職員（*）を配置する。

*その他の教職員・・・校長の指揮監督下にある学校教職員で、実習助手や会計年度任用職員など。文部科学省の「地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築事業（COREハイスクール・ネットワーク構想）」の実施機関にのみ特例的に認められた措置。本県では「遠隔授業支援員」として位置付けることとする。
- 6 遠隔授業の実施校及び実施教科・科目は、県教育委員会が決定し、実施校に通知する。

Ⅱ 配信校

- 1 遠隔授業の配信校は、県教育委員会による配信教科・科目の決定を踏まえ、次に掲げる業務を行うとともに、適切な校内組織体制を構築するものとする。
 - (1) 受信校との協議を踏まえた年間指導計画及びシラバスの作成
 - (2) 授業配信計画の作成及び調整
 - (3) 遠隔授業及び対面授業の実施
 - (4) 配信する教科・科目の学習評価
 - (5) 使用教科書・副教材の選定に係る受信校との協議
 - (6) その他、遠隔授業の実施に係る必要な業務
- 2 配信校の校長は、上記1に係る協議を受信校の校長と行うとともに、県教育委員会に対して必要な報告等を行う。
- 3 配信校の教頭は、上記1に係る調整を受信校の教頭と行う。
- 4 県教育委員会は、配信教員に、受信校の教諭の兼務を発令する。
- 5 遠隔授業における学習評価は、当該授業を担当する配信教員が行い、必要に応じて、受信校の教員等の協力を得ながら行うものとする。
- 6 配信校は、配信する教科・科目で使用する教科書・副教材の候補を示し、受信校が選定する。
- 7 出張、年次有給休暇等による授業の措置について
 - (1) 配信教員の出張、年次有給休暇等は、できるだけ速やかに配信校の教頭を通じて受信校の教頭に連絡する。
 - (2) 上記(1)の場合、原則として授業は振替又は他の配信教員が代替する。
 - (3) 受信校の遠隔授業支援教員等が出張、年次有給休暇等の場合は、受信校の職員が用務を代替する。
 - (4) 受信校の都合で時間割変更が必要な場合は、事前に受信校から配信校に連絡する。以降は上記(2)と同様の措置を行う。

Ⅲ 受信校

- 1 遠隔授業の受信校は、次に掲げる業務を行うとともに、適切な校内組織体制を構築するものとする。
 - (1) 配信教員による年間指導計画及びシラバスの作成に係る補助
 - (2) 配信校の授業配信計画を踏まえた学校行事等の調整
 - (3) 配信教員の遠隔授業及び対面授業の実施に係る補助
 - (4) 配信教員の遠隔授業実施教科・科目の学習評価に係る補助
 - (5) 遠隔授業の使用教科書及び副教材の選定
 - (6) その他、遠隔授業の実施に係る必要な業務
- 2 受信校の校長は、上記1に係る協議を配信校の校長と行うとともに、県教育委員会に対して必要な報告等を行う。
- 3 受信校の教頭は、上記1に係る調整を配信校の教頭と行う。その際、次の点に留意する。
 - (1) 授業の開始時間については、配信の効率化を図るため、配信校が指定する授業の開始時間に合わせるよう努める。
 - (2) 複数の高等学校等に遠隔授業を実施する配信校は、1つの受信校の時間割変更が他校への配信にも影響することから、受信校は遠隔授業実施科目の時間変更を原則として行わない。
 - (3) 年度の中途に計画する学校行事（自校教員の出張等に伴う時間割変更を含む）等についても、上記(2)と同様に、原則として配信校が指定する配信時間を避けて設定する。
 - (4) 上記(2)、(3)の対応ができず、配信校が示す標準時間割の配信時間に授業を受けられない場合には、その状況が分かり次第、速やかに配信校へ連絡し協議の上、対応方法について調整する。
- 4 遠隔授業支援教員等は、次に掲げる業務を行うものとする。
 - (1) 遠隔授業実施前の教材や機器設定等の準備及び配信教員との事前打合せ
 - (2) 遠隔授業時における遠隔授業システム機器と生徒用端末の操作補助及びタブレット端末等を使用した机間巡視（個々の生徒の様子を配信教員に送信するため）
 - (3) 遠隔授業実施後の機器の後片付け及び配信教員との事後打合せ
 - (4) 上記(1)から(3)の業務に係る日誌の記録
 - (5) 遠隔授業以外で遠隔授業システムを利用する活動において、必要な機器操作補助や生徒の学習活動の支援
 - (6) その他、校長が必要と認める業務
- 5 遠隔授業支援員については、令和3年12月20日制定「県立学校遠隔授業支援員取扱要領」に基づくものとする。

6 生徒の欠席等への対応や緊急時の対応について

- (1) 授業前に欠席・遅刻・早退・出席停止・忌引などについて把握している場合は、受信校の教頭から配信校の教頭へ連絡する。
- (2) 授業中に早退・遅刻、又は体調不良等により離席する生徒がいた場合、遠隔授業支援教員等は、当該生徒の担任（不在の場合は管理職）に速やかに連絡する。

IV 学習評価・単位認定

1 出席時数等の扱いについては、受信校の規程に従う。

2 定期試験について

(1) 生徒に関しては、各受信校の規程に従う。

なお、記入済みの解答用紙を複合機でスキャンして採点するため、生徒には、できるだけ濃く解答用紙に記入するよう、周知しておく。

(2) 配信教員は、受信校の教科主任等と十分協議の上作成する。ただし、習熟度別授業の場合は、他授業の定期試験と同じものにすることができる。

(3) 配信教員と受信校の役割分担は次のとおりとする。

	定期試験に係る業務分担					試験後の授業
配信側	作問			採点		解説
受信側		印刷	監督		返却	授業支援

(4) 配信教員は、作成した定期試験を、受信校で規定された提出期限の前日までに、統合型校務支援システムのグループウェアで提出することとし、電子メールでは送付しない。受信校の当該教科主任等は定期試験を受領・印刷する。

(5) 定期試験の教室巡回は、受信校の当該教科主任等が行い、出題に関する質問等に対して適切に対応する。

(6) 定期試験の採点を配信教員が行う場合は、次のとおりとする。

ア 受信校の当該教科主任等が解答用紙をPDFファイル化し、統合型校務支援システムのグループウェアにて配信教員に送信する。なお、解答の筆跡が薄い場合は、複合機の鉛筆モードでコピーしたものをスキャンするなどの工夫をする。

イ 解答用紙データを送信後、生徒が記入済みの解答用紙は、受信校の教務部が鍵付きのロッカー等で一時的に保管する。

ウ 採点後は、配信教員が統合型校務支援システムのグループウェアにて遠隔授業支援教員等に送付し、遠隔授業支援教員等はカラー印刷したもの及び保管した原本を生徒に返却する。

(7) その他周知事項

ア 配信教員への解答用紙等の手渡しは行わない。個人情報や解答用紙の保持の観点から、原本は受信校教務部が一時的に保管する。

イ 定期試験を生徒が受験できなかった場合、受信校の当該教科主任等が、その後の対応について速やかに配信教員に連絡する。

ウ 配信教員が採点する解答用紙など、送信が必要なものは原則A4版とする。

3 単位認定・成績の取扱い

(1) 履修・単位修得の認定に関しては、受信校の規程に従う。

(2) 学習成績の評価・評定について

ア 学習指導要領の目標を基に、各教科・科目の特性や生徒の実態に即した目標を設定し、それを踏まえて評価する。

イ 各教科・科目の観点別評価に基づいて評価する。

ウ 配信教員は、評価の客観性や妥当性を担保するため、受信校の教科主任等との定期的かつ十分な連携・協議の上、評価する。

エ 評価は、定期試験、平素の学習成績等（学習態度、実験実習、研究調査報告、提出物）、その他評価に必要な資料から総合的に考慮して行う。配信教員は、遠隔授業支援教員等と協議の上、学習態度などを評価する。

オ 評定は、総合的な評価に基づき、5段階で行う。5段階の評定と素点(100点法)の換算は、受信校の規程によるものとする。

(3) 成績処理について

ア 成績及び出欠の集計方法（累積又は学期単位）等については、受信校の教務内規及び申し合わせ事項に従って処理する。

イ 成績伝票入力は、原則として、受信校の締切前日の正午までに、統合型校務支援システムにより配信教員が配信校にて行う。

ウ 配信教員から上記イの完了連絡があった後に、受信校の当該教科主任等が成績伝票の印刷・押印・提出を行う。

(4) 成績伝票の訂正の手続きについては、受信校の規程に従う。再提出が必要な場合は、成績伝票を印刷・押印・提出した者が、配信教員と連絡の上行う。

V その他

- 1 本運用規程に則り、配信校及び受信校において校内規程等を定めるときは、事前に県教育委員会と協議の上決定し、配信を行う年度の4月1日までに県教育委員会に報告する。
なお、年度の中途に校内規程に変更が生じる場合は、事前に県教育委員会と協議の上決定し、速やかに県教育委員会に報告する。
- 2 その他関係する必要な事項を定めたときは、その内容を県教育委員会に報告する。
- 3 本運用規程は、令和4年4月1日から施行する。

「高等学校教育の在り方ワーキンググループ中間まとめ」を踏まえた制度改正の概要（1/2）

1 学校教育法施行規則改正（令和6年4月1日施行）

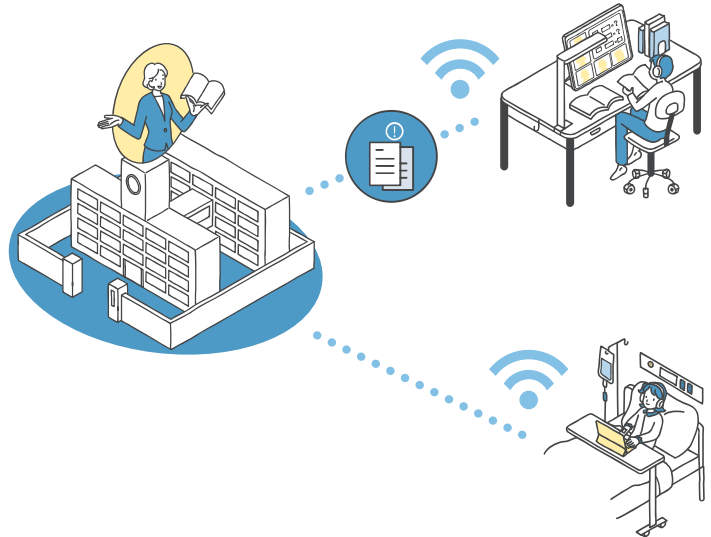
（1）不登校生徒等向けの通信教育の実施（施行規則第88条の4関係）

全日制・定時制課程において、学校生活への適応が困難であるため、相当の期間高等学校を欠席し引き続き欠席すると認められる生徒（「不登校生徒」）、疾病による療養のため又は障害のため、相当の期間高等学校を欠席すると認められる生徒（「病気療養中等の生徒」）その他特別の事情を有する生徒を対象として、教育上有益と認めるときは、高等学校は授業に代えて通信教育を行うことができる。

（2）修得可能な単位数に関する規定の整備（施行規則第96条関係）

不登校生徒が学修の継続のために自宅その他特別な場所で遠隔授業を履修し、修得する単位数、上記（1）の方法により修得する単位数及び全日制課程の生徒が自校又は他校の通信制課程との併修により修得する単位数は合計で36単位までとする。

※病気療養中等の生徒に対する遠隔授業及び通信教育については、現行の遠隔授業と同様、単位数の制限無く行うことができる



I 第96条第3項で定める単位数

74単位のうち

【教室外・遠隔授業】

① 不登校生徒が、学修継続のため、自宅その他特別な場所（教育支援センター、校内教育支援センター、保健室等）で遠隔授業を履修し、修得する単位

（第96条第2項第2号）

【教室外・通信教育（自校）】

② 施行規則第88条の4の規定に基づく通信教育により修得する単位

【教室外・通信教育（他校・他課程）】

③ 全日制の課程の生徒が、施行規則第97条の規定に基づき、通信制の課程との学校間連携・課程間併修により修得する単位

①+②+③（教室外で修得できる単位数）が、合計で36単位以下となる必要

II メディアを利用して行う授業（遠隔授業）により修得する単位数

74単位のうち

【教室外・遠隔授業】

左記
①

【教室内・遠隔授業】

④ 在籍する高等学校等では対面で実施されない多様な科目の授業や習熟度別指導による遠隔授業等を進路の実現のために履修し、修得した単位

（第96条第2項第1号）

①、④それぞれが36単位以下となる必要
※①については左記合計が36単位以下となる必要

「高等学校教育の在り方ワーキンググループ中間まとめ」を踏まえた制度改正の概要（2/2）

2 「高等学校等におけるメディアを利用して行う授業の実施に係る留意事項」（通知）改正関係（令和6年4月1日～）

（1）受信側の教室等への教員配置

以下の場合においては、例外的に、受信側の教室等に当該高等学校等の教員を配置することは必ずしも要しない

- ① 以下を全て満たし、教員に代えて学習指導員や実習助手、事務職員等の当該高校等の職員（校長の指揮監督下）を配置する場合
 - 受信側の教室等に当該高校等の教員の配置を求めることが、多様な科目開設や習熟度別指導等により生徒の多様な進路実現に向けた教育・支援を行うに当たっての支障となる
 - 受信側の教室等における生徒の数や生徒が必要とする援助の内容等に照らし、教育上支障がないと当該高等学校等の校長が認める場合※ただし、当該高等学校等ごとの教員数が、公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律（昭和36年法律第188号）の定めるところによる教職員の定数の標準を満たしていることが前提（教員数の合理化を目的に安易に教員に代えて職員を配置することは本特例措置の趣旨に合致しない）
- ② 不登校生徒に対し、自宅その他特別な場所（教育支援センター、校内教育支援センター、保健室、その他当該高等学校等内の別室等）において、メディアを利用して行う授業の配信を行う場合

（2）対面により行う授業の時間数

以下の場合においては、例外的に、対面により行う授業の時間数を各教科・科目等ごとに年間1単位時間とすることも認められる

- ① 以下を全て満たす場合
 - メディアを利用して行う授業の配信を受ける高等学校等が離島・中山間地域等の遠方に立地することにより、配信側の教員の移動に日数を要し、当該教員による他の高等学校等への授業の実施に支障を伴う
 - 同時に授業を受ける生徒数が少人数であるため個々の生徒の学習状況が遠隔でも把握しやすい状況にある
 - 配信側の教員が過年度における授業を担当している等、配信側の教員と受信側の生徒との間の人間関係が既に構築されており、当該受信側の生徒が必要とする援助の程度に照らしてもメディアを利用しての授業の実施に支障がないと受信側の高等学校等の校長が認める場合
- ② 病気療養中等の生徒であって、当該生徒の病状や治療の状況、医師等の意見等を踏まえ、対面により行う授業を複数回行うことが難しいと高等学校等の校長が認める場合

（3）その他配慮いただきたい事項（柔軟な履修等）

教務規程等において、慣例として、授業への出席の回数を履修や単位認定の要件として課しているところ、遠隔授業や通信教育の実施、補講その他適切な指導の実施等により、生徒一人一人の実情に応じて柔軟に履修・単位修得を認めることが望まれる

【主な留意点等】

・教育上支障がないと認められる場合… 以下の①、②をともに満たすこと。
（上記（1）関係）

- ① 受信側の教室等の生徒数、活用するメディアの態様等を踏まえて、配信側の教員が生徒一人一人の学習状況を見取ることが可能な人数規模で、授業を実施するものであること。（実証結果に基づき、大型ディスプレイ越しに生徒の様子を確認する場合で最大5名程度、1人1台端末を活用した画面共有機能や共同編集機能等による場合で最大15～20名程度以下）
- ② 配信側の教員と、受信側の教室等に配置される職員とが授業の進め方や生徒の状況に係る事前の打合せを行い、役割分担を明確化した上で、遠隔授業が実施されること。また、受信側の教室等に配置される職員が、当該役割を十分に認識し、果たすことができる者であること。

・自宅で遠隔授業を受けた場合の出席… 出席扱いにすることが可能。その際、画面やチャットツール等を通じて生徒の学習状況を把握することにより、出席扱いと認めることが考えられる。

制度改正に関する主な留意点等

1 共通事項

- 不登校生徒の範囲については、「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しない、あるいはしたくともできない状況にあるため年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの」という不登校の定義を一つの参考としつつ、高等学校等又はその管理機関において判断することが可能。
- 本改正は義務付けだけでなく、各学校長の判断により実施可能とするもの。
- 学習意欲はありながら登校できない生徒が、遠隔授業や通信教育によって原級留置、転学、中途退学することなく在学期間中に不登校状態や療養等による長期欠席状態を解消し、卒業することができるようにすることを目的とする。
- 生徒の不登校状態の深刻化、安易な単位認定、他の生徒の学習意欲の低下等の弊害が生じないよう留意し、指導内容等の検討が必要。

2 学校教育法施行規則第88条の4（通信教育）関係

- 「通信教育」とは、高等学校学習指導要領（平成30年文部科学省告示第68号）第1章第2款5（通信制の課程における教育課程の特例）に定める各教科・科目の添削指導の回数及び面接指導の単位時間数の取扱い等に準じた教育課程を編成し、教育を実施することを意味する。そのため、対面での面接指導を行うことが必要である。また、本来行われるべき学習の量と質を低下させることがないようにする。
- 通信教育実施にあたっては、当該教科・科目の全日制・定時制課程の授業において通常使用している教材（プリント、問題集、提出課題等）を添削課題として位置付けることや、授業を記録した動画の視聴を多様なメディアを利用して行う学習として位置付けることも可能。
- 通信教育により単位認定を行う場合、指導要録において、履修上の特記事項として、その旨を備考欄に記入する。
- 学年又は年次の途中から第88条の4の規定に基づく通信教育を実施する場合も想定される。
- 教師との対面を通じての触れ合いや生徒同士の集団活動が社会性を育む上で極めて大切であると考えられることに加え、不登校生徒の学習状況等を適切に把握するためにも、対面での指導等の機会を積極的に確保することが望ましい。
- 指導を行うにあたっては、不登校生徒の実態に配慮し、例えば家庭訪問等を通じて生活や学習の状況を把握し、生徒本人やその保護者が必要としている支援を行うこと等が望ましい。
- 「その他特別の事情」については、国内外の他の高等学校に一定期間留学する場合等が想定される。

3 「高等学校等におけるメディアを利用して行う授業の実施に係る留意事項」関係（前ページに加えて）

- 配信側の教員は受信側の高等学校等の身分を有する必要がある。具体的には、兼務発令等により受信側の高等学校等の教員の身分を配信側の教員に持たせる等の必要がある。
- 配信側の教員は学校種や教科等に応じた相当の免許状を有する者であること。（特別非常勤講師を含む）
- 単位認定の評価は、当該授業を担当する配信側の教員が、必要に応じて受信側の教員の協力を得ながら行う。
- 受信側の教室等には、原則として、当該高等学校等の教員を配置するべき。
- 不登校生徒が教育支援センターや高等学校等内の別室等から授業に参加する場合には、安全管理や当該生徒への援助を行うため、当該センターや高等学校等の職員が配置されることが適切。
- 配信側の教員の移動に日数を要し、当該教員による他の高等学校等への遠隔授業の実施に支障を伴う場合は、往復の時間及び対面授業の実施・準備に係る時間が1日の通常の勤務時間を超え、日帰りの出張では対応できない場合など、日数を要する場合は想定。ただし、対面授業の時間数を安易に減ることがないように留意する必要がある。

3

（参考）「高等学校教育の在り方ワーキンググループ中間まとめ」抜粋

遠隔授業における受信側の教室の体制に係る要件の弾力化

教科・科目充実型の遠隔授業における受信側の教室の体制について、学校は、教師を配置して生徒の状況に応じたきめ細かな指導・支援をすることが望ましいため、この原則は引き続き堅持する必要がある。他方で、中山間地域や離島等に立地する小規模高等学校において、多様な科目開設や習熟度別指導等を行い、生徒の多様な進路実現に向けた教育を実施する際に、当該高等学校に配置されている教師の数等の事情により受信側の教室に教師を常時配置することが困難であり、かつ、受信側の教室における生徒の数や生徒が必要とするサポートの内容等に照らし、教育上支障がないと考えられる場合には、一定の基準の下、教師に代えて職員を配置することが可能となるよう、国において、この要件の弾力化を行うべきである。そのための具体的な基準については、対面授業と比較して教育の質の確保を図ることに留意しつつ、国において定めることが求められる。また、国は、受信側の教室における教師や教師に代わる職員の配置について、常駐以外の方法により、配信側教師の授業運営や受信側の教室の生徒の安全管理上問題のない配置が可能かどうか実証研究を行い、その結果を踏まえ、必要な取組を行うべきである。

遠隔授業における対面授業に係る要件の弾力化

教科・科目充実型の遠隔授業の実施に当たり必要な対面授業について、生徒との関係性の構築や実験・実技等の実施のために必要であることから、学校は、年間2単位時間以上（各教科・科目等の単位数を1単位と定めている場合には年間1単位時間以上）を実施するという原則は引き続き堅持する必要がある。他方で、受信校が離島・中山間地域に立地する等の事情により、配信側から受信校の距離が遠いことで出張負担が過度に大きく、遠隔授業による多様な科目開設を妨げてしまっている状況においては、その特殊性を踏まえつつ、受信側の教室における生徒の数や生徒が必要とするサポートの内容、配信側教師による当該生徒の指導歴等に照らして教育上支障がないと考えられる場合には、一定の基準の下、当該教科・科目の単位数にかかわらず対面授業を年間1単位時間以上とすることも可能となるよう、国において要件の弾力化を行うべきである。そのための具体的な基準については、対面授業と比較して教育の質の確保を図ることに留意しつつ、国において定めることが求められる。

通信教育の活用に向けた制度改正

国内の他の高等学校に一定の期間留学することにより特定の科目を履修する機会を特別に設ける必要がある生徒など、特別の事情を有する生徒を対象に、全日制・定時制課程においても、オンデマンド型の学習を可能とする通信教育が活用可能となるよう、国において制度改正を行うことが求められる。

全日制・定時制課程における不登校生徒の学習機会の確保

- 全日制・定時制課程における不登校生徒の学習機会の確保に向けて、国は、不登校生徒が自宅等から高等学校の同時双方向型の遠隔授業を受講すること、現行制度上は高等学校が文部科学大臣による学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）としての指定を受けることで活用できる、オンデマンド型の学習を可能とする通信教育について、指定を受けずとも活用することを、合計36単位の範囲内において可能とするために必要な制度改正を行うことが求められる。
- 国においては、不登校傾向のため、授業時数の3分の2以上の出席など、多くの学校において慣例として定められている単位認定の際の出席要件を生徒が満たせなかった場合でも、学校が一人一人の実情に応じて柔軟に履修・修得を認める運用となるよう、上記制度改正の周知と併せて促す必要がある。

4

文部科学省委託事業「地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築事業
（COREハイスクール・ネットワーク構想）」

新潟の未来を SaGaSu プロジェクト 最終事業報告会（シンポジウム）

令和5年11月14日（火） 朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター

次 第

【午前の部】

開会挨拶 10時00分

佐野 哲郎（新潟県教育委員会教育長）

趣旨説明 10時10分

市野 正廣（新潟県教育庁高等学校教育課長）

基調講演 10時40分

[演 題] これからの高等学校教育をどう描くか

[講 師] 荒瀬 克己 様（独立行政法人教職員支援機構 理事長）

（休憩） 12時00分

【午後の部】

取組報告 13時00分

- (1) 遠隔授業の取組
- (2) 生徒間交流の取組
- (3) 学校と地域との連携・協働体制の取組

パネルディスカッション 14時15分

会場参加者との意見交換 15時30分

講 評 15時50分

閉会挨拶 16時00分

長谷川 雅一（新潟県教育委員会教育



最終事業報告会（シンポジウム） 午後の部 記録

●遠隔授業の取組報告

【配信校担当】

- 通信制高校教諭のうち、7名が遠隔授業を担当し、週 16 単位、4校の受信校へ配信している。
- ICT 機器を最大限に活用している。数学では、生徒のタブレット画面を一覧表示するアプリ (TFabTile) を活用し、書道では書画カメラで受信校補助が生徒の手元を投影し、地理ではスイッチャーで受信校のディスプレイに Google Map や Google Earth を投影し、授業を行っている。
- 化学は、今年度より校同時配信を実施している。実験の取組をアプリを駆使して工夫するなど試行錯誤を繰り返している。

【受信校担当】

- 授業中は、生徒を観察しながら支援し、音量調整や生徒の手元撮影、トラブル時の対応などを行っている。
- 配信教員は、授業の中でしか受信校生徒と接する機会がないため、チャットやメールを活用し授業外の相談や質問を受け付けるなど、生徒との信頼関係を構築していく必要がある。
- 教科の内容に関する指導を受信側が行うことはないため、教科に関する専門知識は不要であるが、成績の評価に関与したり、生徒指導を求められたりする可能性は十分に考えられる。また、理科の実験は、専門知識なしで行うことは極めて困難と感じる。

●学校間連携の取組報告

- 交流の仕方に新たな可能性を感じた。オンラインは戸惑いもあったが、他校生徒との新しい意見の共有を容易に行うことができた。考え方の視野が広がり、課題解決に繋げていけると感じた。
- 地域の魅力をたくさんの方に知ってもらえるように探究を取り組んだ。住んでいても知らないことがたくさんあった。新潟県のことをより深く知ることができた。
- 自分たちの探究活動の成果を、他校の生徒にオンラインで発表できてよかった。広島県以外の生徒との交流や対面での交流をもっとしてみたかった。

●地域連携・協働の取組報告

【佐渡市】

- 一島一市となってから、令和 6 年 3 月で 20 年を迎える。当時の人口は約 7 万人であったが、現在は 5 万人を割った。年間千人ずつ減少していることになる。
- 少子化の急激な進行により学校の維持存続が難しく、また地域と学校をつなぐプラットフォームがなかったため、佐渡教育コンソーシアムを設立し、キャリア教育、探究活動、地域内の事業者をつなぐコーディネートの役割で支援することとした。
- 小中高と切れ目のないキャリア教育、魅力的な高校づくり、島留学、高校生議会など、これまでの取組の効果を検証し、真に役に立つためにはどうすべきか、話し合っ進めていきたい。

【阿賀町】

- 阿賀黎明探究パートナーズ（地域の有志団体）で大切にしていることは、「子どもとともに大人も学ぶ」。生徒のモチベーションを上げたいと大人たちも本気で悩み、振り返っている。
- 生徒とパートナーズは、先生でも親でもない「斜めの関係」であり、地域に出て活動することで、学校だけでは得られない学びの価値があると考えている。
- 教育を基点とした町づくりが進められ、大人も変わり続けるきっかけとなっている。学校も地域の一員として、生涯学習として持続可能な取組となるように、高校の活動に関わっている。

●パネルディスカッション

【遠隔授業】

- オンラインの話合い、積極的に話し合いに参加することができなかった点が難しかった。
- 音がとぎれることがあり、正確に話を聞きとることが難しかった。授業では、授業中に機器のトラブルがあっても、その時間に自学自習するなど、自分たちで時間を有効に使うことができた。
- 墨の匂いの嗅覚や、紙の手触りの触覚を共有するところから導入する書道では、遠隔授業は不可能だろうという気持ちからスタートした。
- ICTを使わざるを得ない状況であるため、アプリなどを駆使して授業を行ってきた。対面授業でできないことが、逆に遠隔授業ではできた。受信側補助が事務職員であったため、実験などは、動画を用いたりした。学びの環境が向上していくと、様々なことにチャレンジすることができ、新しい価値観が生まれてくると感じた。
- 実験はNHK高校講座などを参考にして、昨年度は3回程実施した。難しい実験は、演示や動画などで生徒が自分でやっているかのように見せる工夫をした。齋藤さんのコメント（実験をもっとやりたい）を活かし、今年度は5～6回に増やす予定である。
- 化学は、学んでいて楽しかった。将来は、化粧品開発に携わりたいと思っているので、たいへん参考になった。授業の中で、魅力を感じる事ができていた。遠隔授業であってもよく分かった。
- （2校同時配信のスケールメリットの感触や可能性について）両校混合のグループを作り、実験を行った。羽茂高校で対面授業を行い、実験の動画や写真を同じグループの阿賀黎明生徒へ送る取組を挑戦した。両校生徒とも、コミュニケーションをとりながら進めることが楽しいとの感想であった。今後も、一緒に学ぶ仕掛けを増やしていきたい。
- 表情を読み取り、良いところだけを全員の前で褒めるようにした。作品を褒められると、自己肯定感が高まる。個々の作品を褒めることが、生徒との対話になっている。
- 対面授業で担保されていたものが遠隔授業ではない。言葉遣いなど正しく伝える力、非言語でのコミュニケーションが大切である。
- 「学ぶ」ことに関しては、対面であろうが遠隔であろうが、あまり関係ない。その上で、いかに効果的にやるか、教師の授業デザインが問われる。工夫次第で魅力ある授業となる。遠隔授業は特別ではない。
- 教員の存在意義や専門性が問われる時代が加速している。

【学校間連携】

- SaGaSu プロジェクトをとおして、普通の学校生活では培えない力をつけることができた。自分の学校の生徒だけでなく、他地区の学校や、広島県の高校と交流することで、その地域の魅力を感じるだけでなく、自分たちが住む地域の魅力にも気づくことができた。
- 阿賀町での暮らしは、地域と触れ合う機会が多く、自分が今まで知らなかったことを知ることができた。
- 当たり前のことが、当たり前でないことを気付かせたい。学校間連携による他校との交流はその一つのチャンスである。
- 将来的に、その地域を離れたとして、理想は戻ってきてほしいが、離れていても、思ってくれていたらいい。

【地域との連携・協働】

- 小規模校に行きたいと希望する生徒もいるはずである。阿賀町は、すべて阿賀町産の食材で調理した「おにぎりカフェ」を開いた。挑戦と実験を繰り返し、生徒とパートナーズとの対話によって、新たな価値が生み出されている。
- 探究のプロジェクト活動は、自分にとって問題意識があったことに関して、意欲的に取り組むことができた。3回くらい寮に集まって、苦勞したが、楽しかった。
- どれだけ良い大人に会えるか、とくに先生でない、家族（親）でない、斜めの関係の大人は大切である。ネットワーク校の生徒が、地域のメリット、デメリットを知り、それらを活かそうとしていることが嬉しい。
- 小規模校は、先生との距離が近く、手厚いサポートができる。羽茂高校では、地域について学ぶ機会が充実しており、羽茂高校本間さんは、地元で就職したいと言っている。これは財産である。
- 地域との連携協働は、大人たちにとっても良い学びとなった。生徒は褒められたことが自信になる。これは、大きなブランディングの一步である。
- 褒められることは、対面だと、少し恥ずかしい気持ちがするが、オンラインだと受け入れやすい。探究活動の取組や、プレゼンテーション、ポスターを褒めるようにしている。

●指導員からの講評

- リモートワークやweb会議が当たり前の時代になり、教育現場も1人1台端末の整備が進んでいる。本事業の遠隔の取組を対面でも活用してほしい。これからの社会に求められる力は「学び続ける力（自立、自律した学習者）」、「考え抜く力（インターネットや chatGPT などで自分が考えなくても分かるからこそ大切になる）」、「協働する力（多様な人間関係の中、協働して仕事を進めていく）」と感じている。教育や子どものためなら協力する地域の会社は多いはずである。地域のあらゆる人材等を巻き込み、all niigata で進めてほしい。
- 遠隔授業の取組は、はじめはnegative と思っていたことが、続けていくことで positive にかわっていった。新潟県は素晴らしい自然環境に恵まれている場所が多く、遠隔教育のアプローチは、地方創生の新しい武器となった。移住を決めるポイントは、医療、老後のケア、若い力の充実などが挙げられるが、その中でも、教育環境が充実しているか否かは非常に重要である。

最終事業報告会（シンポジウム）の様子



佐野教育長の開会挨拶



市野課長の趣旨説明



荒瀬克己氏の基調講演



遠隔授業の取組報告



ネットワーク構成校生徒による学校間連携の取組報告





佐渡市、阿賀町による地域との連携・協働の取組報告



パネルディスカッションの様子



書道の遠隔授業を動画で紹介する様子



質疑応答の様子



高堂委員、岩佐委員からの講評



長谷川教育次長の閉会挨拶



田邊企画振興係長の司会進行



会場内全体の様子

「新潟の未来を SaGaSu プロジェクト」ポスター
と「にいがた教育の日」ロゴマークを受付で紹介



遠隔授業の取組

配信校
新潟県立新潟翠江高等学校
受信校
新潟県立羽茂高等学校

自己紹介

配信校

受信校

小林 伸輔
教諭
(地理歴史・地理専門)

石井 満明
実習助手
(理科・化学専門、教員免許有)

<配信担当>
地理B 3単位
3学年・4名
(昨年度は地理A2単位、地理B3単位を配信)

<受信担当>
メイン:セミナー日本史
サブ:化学基礎
サブ:地学基礎
サブ:古典B



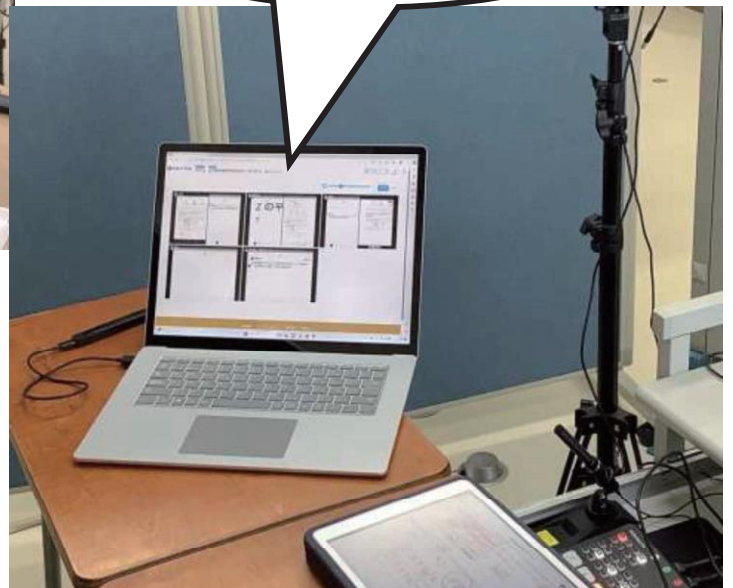
マイク

デジタル
スイッチャー

授業の様子①（数学B）



生徒のタブレット
画面を一覧表示す
るアプリの活用

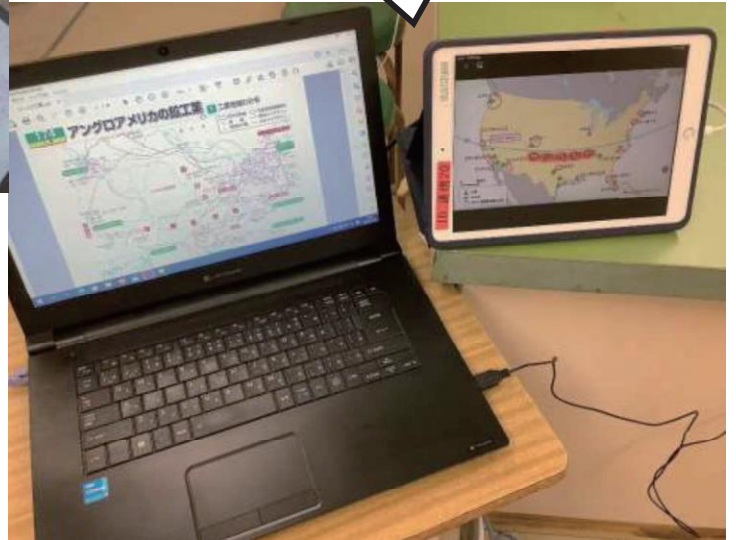


授業の様子②（地理B）



スイッチャーで
受信校のディス
プレイに投影

ウェブ会議アプ
リで画面共有



授業の様子③（書道Ⅰ）



書画カメラで
手元を投影



授業の様子④（化学基礎） ※ 2校同時配信



生徒の手元の
映像
※受信校の支
援員が撮影



アプリの共同編集
機能の活用

遠隔授業の流れ

セッティング(5分程度)



授業中の支援

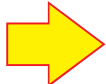
- ・生徒観察
- ・音量調整
- ・生徒の手元撮影
- ・トラブル対応

授業終了後

- ・簡単な打ち合わせ(あれば)
- ・後片付け(5分程度)



配信担当者との打ち合わせ

授業以外は配信校に丸投げ  不可

平時の打ち合わせ事項

- ・授業プリントの依頼
- ・テスト実施の準備
- ・探究活動などの発表準備
- ・成績査定の相談 etc.

授業のスケジュール管理と緊急時の連絡

- ・授業は年度初めに学校単位で計画・決定するが…
→ 予期せぬ変更が生じた場合は、速やかに受信担当から一報入れる(配信担当者との信頼関係構築)



教員用タブレット一台を常に携帯して対応


受信担当者 = 遠隔授業コーディネーター

受信担当者の専門性について

→ 教科に関する専門知識は不要

ただし・・・

理科の実験は、専門知識なしで行うことは極めて困難

 理由：遠隔で指示を出すことは可能だが、薬品等の準備や後処理、生徒の危険回避に現場の知識が不可欠のため

言い換えると…

一般的な知識で準備可能な実習(日用品のみを用いた理科の実験など)であれば、専門の教員がいなくても実施できる可能性が高い

教科の内容に関する指導を受信側が行うことはない

教員免許の必要性について

機材の設置
→誰でも可能

授業の内容について
→指導はしない



実習助手など、必ずしも教員免許を持たない職種の方でも対応は十分可能

しかし、成績の評価に関与したり、生徒指導を求められたりする可能性は十分に考えられる

生徒への関わり方の例
・学習意欲の低い生徒への注意
・緊急時の生徒の統率、誘導
・観点別評価に関する情報提供

日常的に生徒と接する立場かどうかポイントとなるか

生徒と配信教員の関わり

配信者と生徒との関わりは、ほぼ授業内に限定



生徒との信頼関係構築が対面授業より難しい

生徒は在勤の教員を頼れる場合はそちらを頼り、配信教員も生徒理解がなかなか進まない(授業やテストの難易度に影響)



授業外の相談や質問などを受け付けるシステムが必要

チャットやメールの活用

課題
・リアルタイムでやり取りできず、質問が放置されることも
・図表を用いた解説ができない

セミナー日本史では、配信教員による計画的なりモット面談を実施



課題 生徒人数が多いと難しい etc.

機器のトラブルについて

設置は難しくなく、比較的すぐにルーチン化できるが…

突発的に発生するトラブルの解決には、ある程度の経験と知識が必要



ほとんどのトラブルは初歩的で、一度理解してしまえば簡単に解決できる

初年度は解決手段がすぐに分からず、問題が長引くケースもある(特に音声がらみのトラブル)

発生したトラブルは全て記録し、トラブルシューティングを作成するとよい

解決が難しいトラブル

・映像の乱れやフリーズなど、通信状況が原因と思われるもの(体感的に月に1回程度か?)

成果

<配信校>

- ・授業内外へのICT活用のメリット
- ・配信教員のICT活用スキルの向上

<受信校>

- ・配信機器の準備は、それほど時間を要しないことが分かった。
- ・ICTが教員や生徒にとって身近な存在となり、特に生徒は、遠隔授業以外においてICTを活用することへの抵抗が小さくなっていったように感じた。
- ・少人数かつ実習の伴わない科目においては、対面と比較しても遜色ないレベルで授業展開できた。
- ・受信側の遠隔授業担当者がその教科の専門でなくても、十分に授業をサポートすることができた。

課題

＜配信校＞

- ・所属校の業務、学校行事等との兼ね合い
- ・諸資料のデジタル化

＜受信校＞

- ・対面の授業以上に生徒理解に努めなければ、信頼関係の構築が難しい。
- ・その日の回線状況によって、配信が不安定になる(原因が判明しておらず、それが予測できない)。
- ・実験の準備や片付けには、知識のある人材が必要である。
- ・授業外での配信教員と生徒とのコミュニケーションを工夫する必要がある。

新潟の未来を SaGaSuプロジェクト



取組報告 生徒間交流



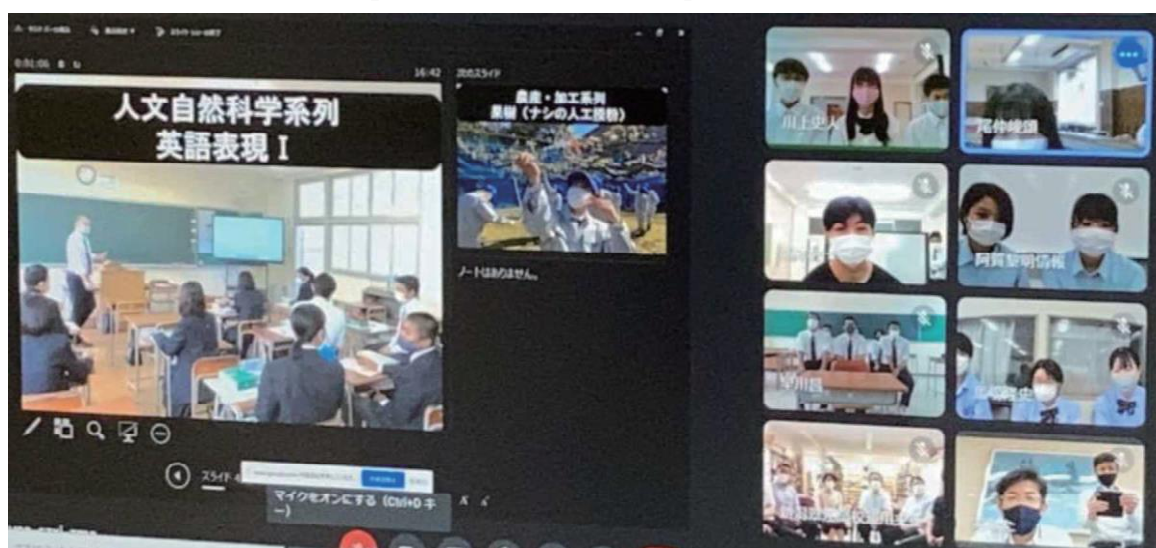
阿賀黎明高校
佐渡高校
佐渡高校相川分校
羽茂高校
佐渡総合高校
佐渡中等教育学校

鈴木 桐弥
渡部 翔稀 瀧川 啓太
宇佐見 真央
本間 蒼大
本間 光
脇坂 望 静間 舜

2023.11.14@朱鷺メッセ

1 生徒間交流の取組（1年目）

キックオフイベント（令和3年6月）

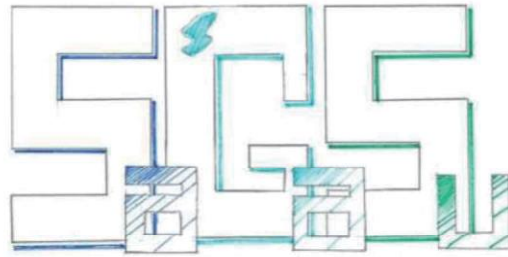


- 各校の代表生徒がスライド・動画を用いて自校の紹介
- プロジェクトの「ロゴ」と「webページ」作成に向けて各校からアイデア募集

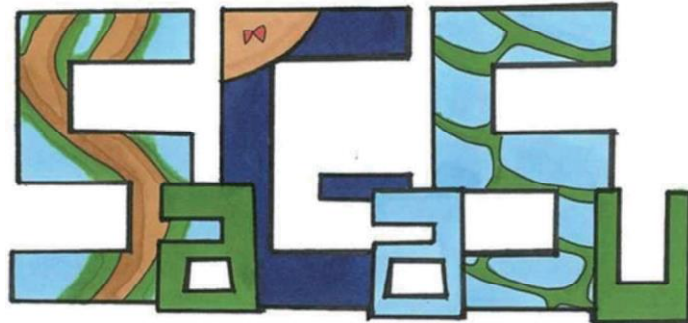
2 生徒間交流の取組（1年目）

プロジェクトのロゴマークを作成

応募のあった24案に対し、
ネットワーク校生徒が投票
↓
最多得票案を原案に、
ロゴ委員がデザイン化



佐渡中等教育学校生徒のロゴ案(最多得票)



3 生徒間交流の取組（1年目）

探究学習の合同発表会

対面で初交流授業 地域の自慢紹介
阿賀黎明高と佐渡・羽茂高
2021/10/20 13:00

新潟県阿賀町の阿賀黎明高校と同佐渡市の羽茂高校の2年生による初の交流授業が阿賀黎明高で行われた。生徒は地元の魅力や課題などを知る地域探究コースでの取り組みを紹介し合った。

阿賀黎明高と羽茂高の2年生が地域探究での取り組みを紹介し合った交流授業＝阿賀町津川の阿賀黎明高

離島・中山間地域の教育環境充実に向け、県教育委員会が文科省の事業採択を受けて実施する「新潟の未来をS a G a S uプロジェクト」の一環。プロジェクトは両校と佐渡高、同高相川分校、佐渡総合高、佐渡中等教育学校（以上佐渡市）、新潟翠江高（新潟市）の7校がネットワークを結んで遠隔授業を行うほか、自治体が進めるキャリア教育を通じ、地域での人材育成に取り組んでいる。

今回、羽茂高の生徒が修学旅行に合わせて阿賀黎明高を訪れ、12日に対面形式で交流授業が行われた。

生徒は商業、観光、農業、土木林業、まちづくりのテーマごとに5班に分かれて、面校での取り組みを報告。各班には同町の企業や団体の代表らがアドバイザーを務めた。

商業について学ぶ班では、羽茂高生徒がカヤの売の販売について報告すると、阿賀黎明高生徒は「パッケージに鬼太鼓やトキを使ったらどうか」などと提案。観光の班は、佐渡のパワースポットマップ作りや狐の嫁入り行列などの紹介し合った。

羽茂高の生徒（16）は「各地の特色を生かした観光はまちづくりにつながる。観光の力を通し地域をよくしていきたい」と授業の感想を語り、阿賀黎明高の生徒（16）は「阿賀と佐渡は似ていると感じた。それぞれの魅力を見つけ発信することが大事だと思った」と話した。



	表題
羽茂高校	空き家を生かす in Sado
	スマホでVR観光～家にも旅行がしたい！～
	食うてみんかつちゃ ふるさとの味～郷土料理を広めたい～
阿賀黎明高校	「まちづくり班」～空き家のリノベーションと、高校生の居場所をつくる～
	「環境」～林業の現状と体験～
	「医療×観光」～観光しながら健康体を手に入れる企画の立案・実施
佐渡総合高校	プロジェクトL～佐渡のレモンを世界へ～
	あんぼ柿 NEWレシビプロジェクト
	「SDGS 2 飢餓をゼロ」～私たちができることザンビアへの食糧支援～」

新潟日報ホームページより

(<https://www.niigata-nippo.co.jp/news/local/20211020648459.html>)

4 生徒間交流の取組（2年目・3年目）

SaGaSu委員会*の始動！

*ネットワーク校6校の生徒会執行部や部活動（グローバルアクト探究部）などで構成、計35名

- 月1回のオンラインミーティング
- Google Classroomを利用した意見交換
- 学校の枠を超え、委員会を3つの班に分けて、各班で活動

○ゼミ班

- 地域の伝統芸能や芸能団体に関する探究活動（佐渡の鬼太鼓や民謡、阿賀の狐の嫁入り行事など）
→民謡の記録保存に向けて元新潟大学教授の伊野義博先生の協力を得る

○交流班

- 県外校との交流や、探究活動の交流
自己紹介、学校紹介、オンラインお茶会などを計画

○発信班

- ホームページ、instagram、Twitter、TikTokを使って、SaGaSuプロジェクトの活動や「阿賀町」「佐渡」の良さを発信していくことを計画

8/25(木) 第4回SaGaSu委員会

前回：地域の伝統芸能や芸能団体を調べる

今回：調べたことの報告会
・交流会でどのように関わっていくか

【伝統芸能について調べたことの報告会】

〈民謡〉

両津基句、下がりば、佐渡おけさという種類があることが分かった

〈鬼太鼓〉

・3種類くらいに分かれている
・松ヶ崎・丸山地域は前浜型という種類
・近くの地域でも全く違う種類のものを行っていることがある

〈徳和まつり〉

大獅子、鬼太鼓が町の中を練り歩く

〈世界一小さな花火大会〉

大崎地区の祭り

〈鼓童〉

・佐渡の太鼓集団
・「アース・セレブレーション2022」でギタリストのMIYAVIさんとコラボ

交流班

広島県との生徒交流会

○令和4年10月17日（月）

広島県立高校6校と探究活動等の取組を紹介



広島県との生徒交流会 事後アンケート (抜粋)

- 同じ探究テーマで同じような環境にある学校どうし、悩んでいることを共感できました。有意義な時間でした。(新潟県)
- 色々な地域の学校独自の活動などが知れてとても視野が広がったようで良かった。(広島県)
- 佐渡では感じられない新たな地域の魅力を感じられて楽しかった。(新潟県)
- 私は短い時間の中で発言することができなかったので、もしまたこのような機会があれば、何かしら発言することができるよう頑張りたいです。(広島県)

広島県との生徒交流会

○令和5年10月31日(火) 交流の様子



発信班

メディアプラットフォーム「note」を活用した魅力発信へ



【新潟の未来をSaGaSuプロジェクト】シンポジウムで私たちSaGaSu委員会が発表します！

♡ 6

新潟県教育委員会
2023年11月10日 17:34

11月14日（火）に開催される新潟の未来をSaGaSuプロジェクトのシンポジウムにおいて、私たちネットワーク校6校の生徒で構成された「SaGaSu委員会」の取組成果を発表させていただきます。

発表内容は次のとおり予定しています。参加者の皆様、どうぞよろしくお願いたします。



新潟県教育委員会

新潟県立高等学校等
魅力と活力ある学校づくり

新潟県教育委員会が運営する、新潟県立高校・中等教育学校の魅力を発信するメディアです。各学校の特色ある教育活動、日常の学校生活の様子等を、89校それぞれで発信していきます。

新潟県教育委員会からのお知らせ



探究学習合同発表会

新潟の未来をSaGaSuプロジェクト

1 遠隔教育推進事業【中等教育学校連携】（2年生）

参加校：村上中等教育学校、柏崎翔洋中等教育学校、燕中等教育学校、津南中等教育学校、直江津中等教育学校、佐渡中等教育学校

2 探究学習合同発表会【SaGaSu交流会】（5年生）

参加校：阿賀黎明高等学校、佐渡高等学校、佐渡高等学校（相川分校）
羽茂高等学校、佐渡総合高等学校、佐渡中等教育学校

令和5年9月21日（木） 遠隔教育推進事業（2年生）



佐渡は能が盛ん

日本の能舞台の三分之一が佐渡に集まる
現在ある能舞台の数は30棟余り
かつては200棟余りあった
佐渡の人は昔から自分たちの趣味や娯楽として
能を舞った



<無名異焼とは>

佐渡金山から産出された酸化鉄を含む鉱物、**無名異（むみょうい）**を高温で焼き上げてできた陶器です。とても硬く、叩くと澄んだ金属音がします。



石磨の体験をしている様子

佐渡おけさとは、新潟県佐渡市に伝わる「おけさ節」の1つ。現在は佐渡を代表する民謡。



ほっていった結果



このような形になりました。

①国仲系

佐渡を代表する鬼太鼓。
鬼と獅子が絡み合い派手に舞い踊るもの



令和5年10月31日(火)

探究学習合同発表会【SaGaSu交流会】(5年生)





The task we set

○ Why have poor people around the world come to live in such a condition

○ What does the word “poverty” mean in developed countries

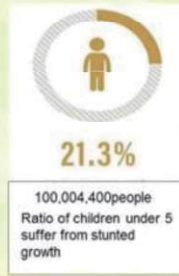


What is gender ?

Social attributes and opportunities defined by men and women.

Relationship between men and women.

Forms of malnutrition



○ Stunted growth

- A condition in which a person suffers from chronic malnutrition due to not getting enough nutrition on a daily basis, and is unable to grow to a height appropriate for their age.
- Chronic malnutrition causes stunted growth.
- The number of children with stunted growth is decreasing worldwide, but increasing only in Africa.

Our challenges

Improve water quality ,How can we reduce the number of people suffering from water shortages? ? ?



■ Current Stage of the world

- ① Approximately 700 million people around the world lack access to electricity
- ② Only 17.5% of renewable energy is currently being utilized
- ③ The lack of clean energy supply.
→ some people are suffering from health problems



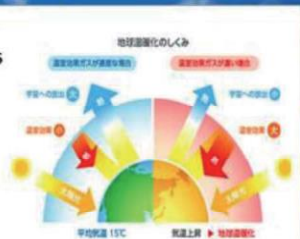
Why do you think inequality occurs?

Due to the differences of the environment people are born and individual circumstances.



~ What is global warming? ~

A phenomenon in which large amounts of greenhouse gases are released into the atmosphere due to human activities, causing the earth's temperature to continue to rise and disrupting the balance of the natural world, including climate and living things.



16 PEACE, JUSTICE AND STRONG INSTITUTIONS



SDGs the goal

peace, where everyone is accepted, and where everyone abides by the law.
Let's create a society that is protected by systems.



佐渡教育コンソーシアムの取組



新潟県佐渡市の紹介

- 平成16年3月1日に1市7町2村が合併し、佐渡市が誕生
- 「佐渡島（さど）の金山」は世界文化遺産候補であり、2024年の登録を目指す
- 四季折々の豊かな自然と食文化が楽しむことができ、歴史と多様な文化を誇る島

佐渡市の基礎データ

- 人口 49,755人
- 面積 855 km²（東京23区の約1.4倍）
- 周囲 280 km
- 世帯数 22,959世帯



特別天然記念物「とき」



佐渡金山



能舞台



鬼太鼓

佐渡市を取り巻く現状と課題

人口減少スピードの増加による危機感

国勢調査人口
 令和2年 51,492人
 平成27年 57,255人
 増減 ▲ 5,763人 (県内市町村27/30位)

少子高齢化による担い手不足

R3 高齢化率 43.1% (全国29.1%)
 R2 出生数 236人 (H16: 404人)
 R2 死亡数 1,123人 (H16: 1,062人)

地域経済・産業の縮小

地域コミュニティ機能の低下

ライフラインへの影響

環境

社会

経済

文化

化石エネルギーの島
生態系サービスの低下

ライフライン(病院、水道、
道路)の危機

経済規模の縮小
小規模企業の衰退

地域・集落の喪失
伝統・文化の喪失

現状を踏まえた抜本的な対策が必要(持続可能な仕組み)

地域循環共生圏(ローカルSDGs)の創出



地域循環共生圏の創出

交通確保

医療確保

安全・安心な島づくり

防災対策

インフラ整備

佐渡教育コンソーシアムの設立（令和3年3月17日）

1 当時の現状・課題

① 学校の存続

- ・少子化により、既存の学校をすべて現状どおりに存続することが困難な状況である。
- ・佐渡中等教育学校の存続が危ぶまれている。

② プラットホーム的な機能

- ・地域探究やフィールドワーク、キャリア教育等の実施に伴い、事業所や地域団体、大学等とのマッチングの場がない。

2 組織および構成団体

① 組織は、役員で構成される意思決定機関（総会など合意形成の場）と協力団体で構成されるワーキンググループ（学校の魅力化と島留学、大学連携と地域協働）とする。

② 役員・協力団体は、必要に応じ随時参加を依頼する。

【教育関係】

佐渡市小学校長会
佐渡市中学校長会
新潟県高等学校校長協会佐渡地区

【大学関係】

新潟大学
大正大学
新潟工科大学

【産業関係】

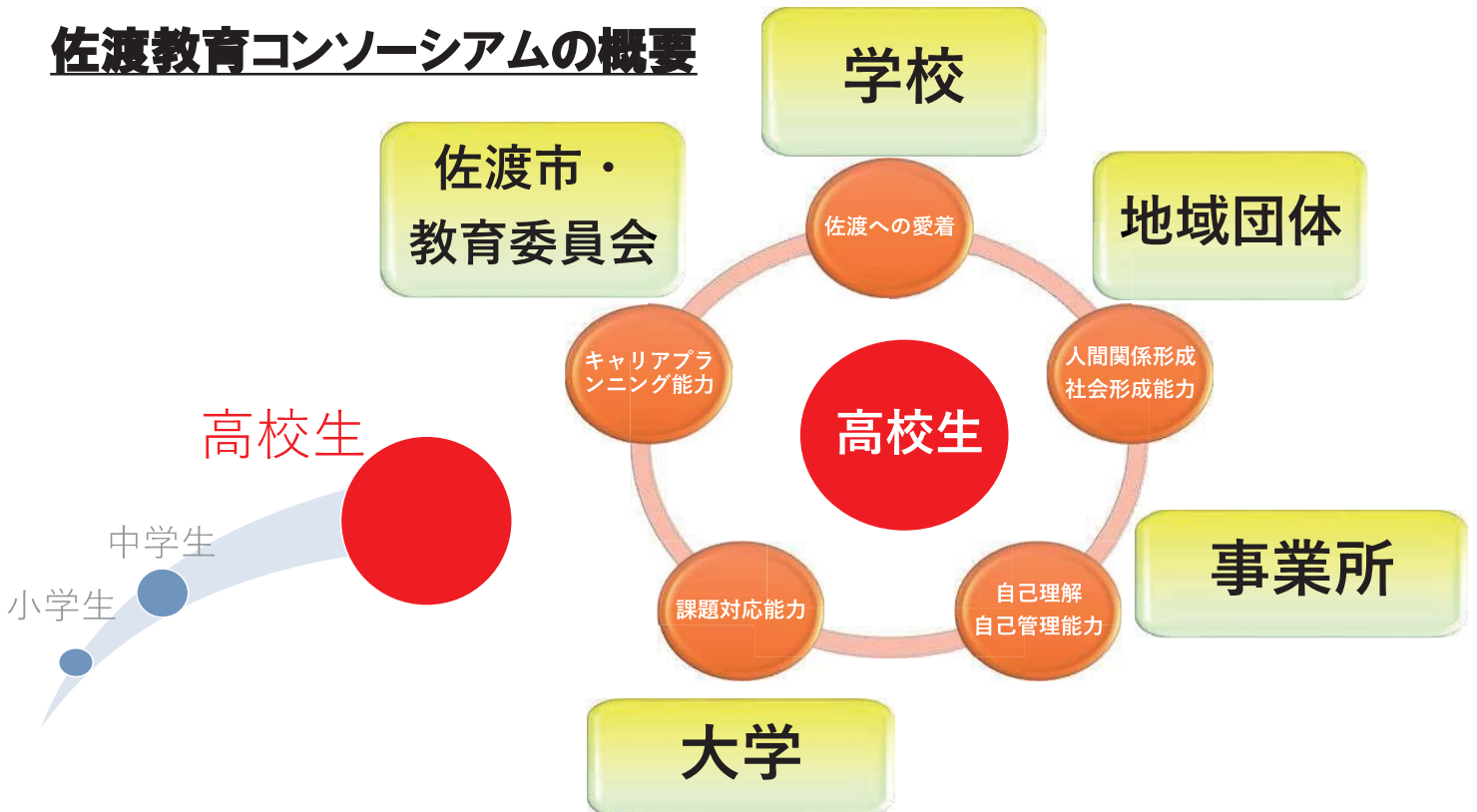
佐渡連合商工会
佐渡青年会議所
佐渡工業会
新潟県建設業協会佐渡支部
佐渡観光交流機構

【行政】

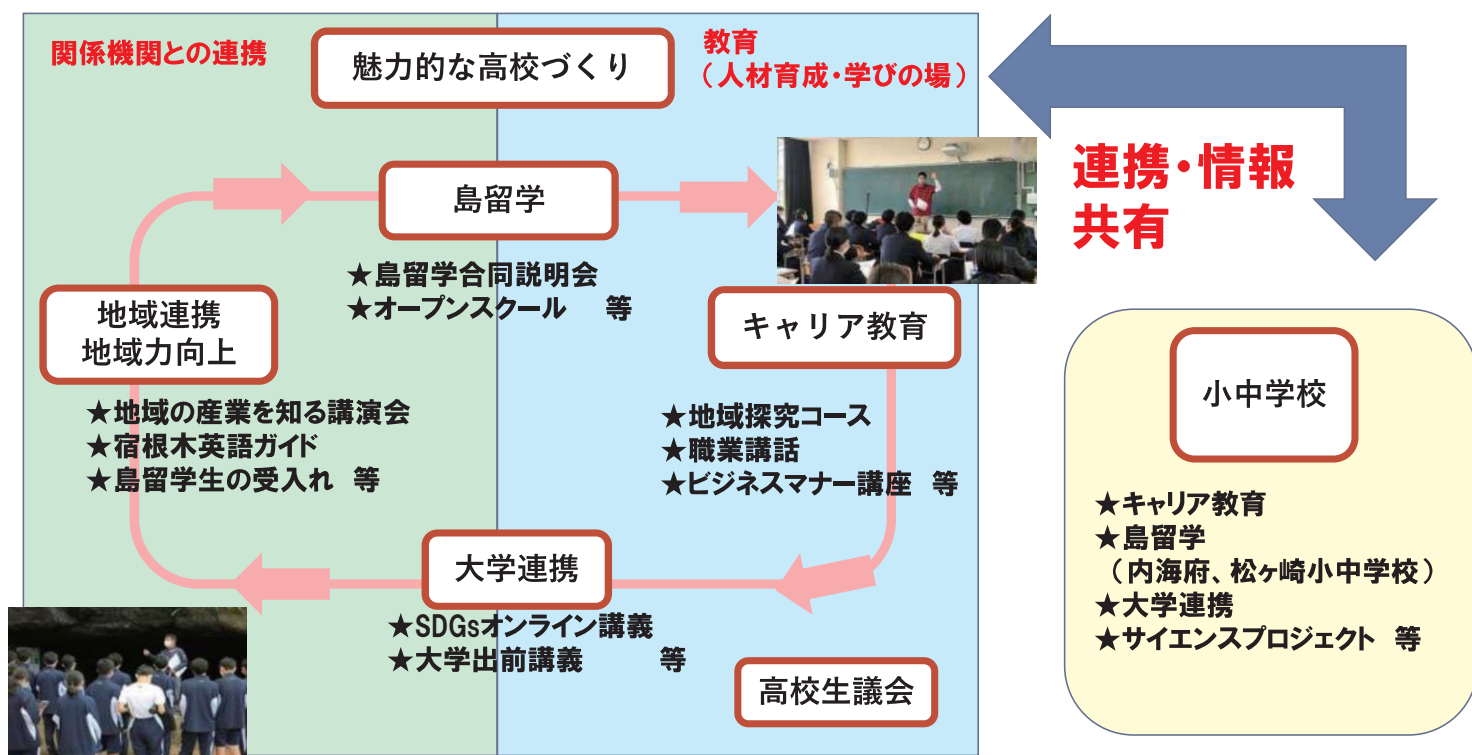
新潟県佐渡地域振興局
佐渡市
佐渡市教育委員会



佐渡教育コンソーシアムの概要



佐渡教育コンソーシアムの運営



SDGs未来都市 佐渡市 高校生議会の開催

高校生議会(佐渡島内の高等学校・中等教育学校)

(1)日程 令和3年～令和5年 8月中に開催

(2)会場 佐渡市議会 議場

(3)参加 佐渡高等学校、佐渡総合高等学校、羽茂高等学校、佐渡中等教育学校、明誠高等学校



探究的な学び



特色ある部活動



地域での行事・イベント



地域団体での活動



★佐渡教育コンソーシアムの効果検証

★真に佐渡の子どもたちのためになる組織体制に向けて

An aerial photograph of a town in a valley, with snow-capped mountains in the background under a blue sky with light clouds. The town features a mix of residential houses and larger buildings, including what appears to be a school complex. The text is overlaid on the top half of the image.

学校と地域の連携・協働体制の 取組発表

阿賀町教育委員会

目次

連携・協働体制の全体像

具体的な取り組み例

新潟県阿賀町



人口：9,467人（令和5年9月30日現在）

面積：952.89km²（9割以上が森林🌲）

小学校3・中学校2・高校1

実は新潟市から約1時間



学校と地域の連携・協働体制の流れ

平成28年 阿賀黎明高校魅力化プロジェクト始動

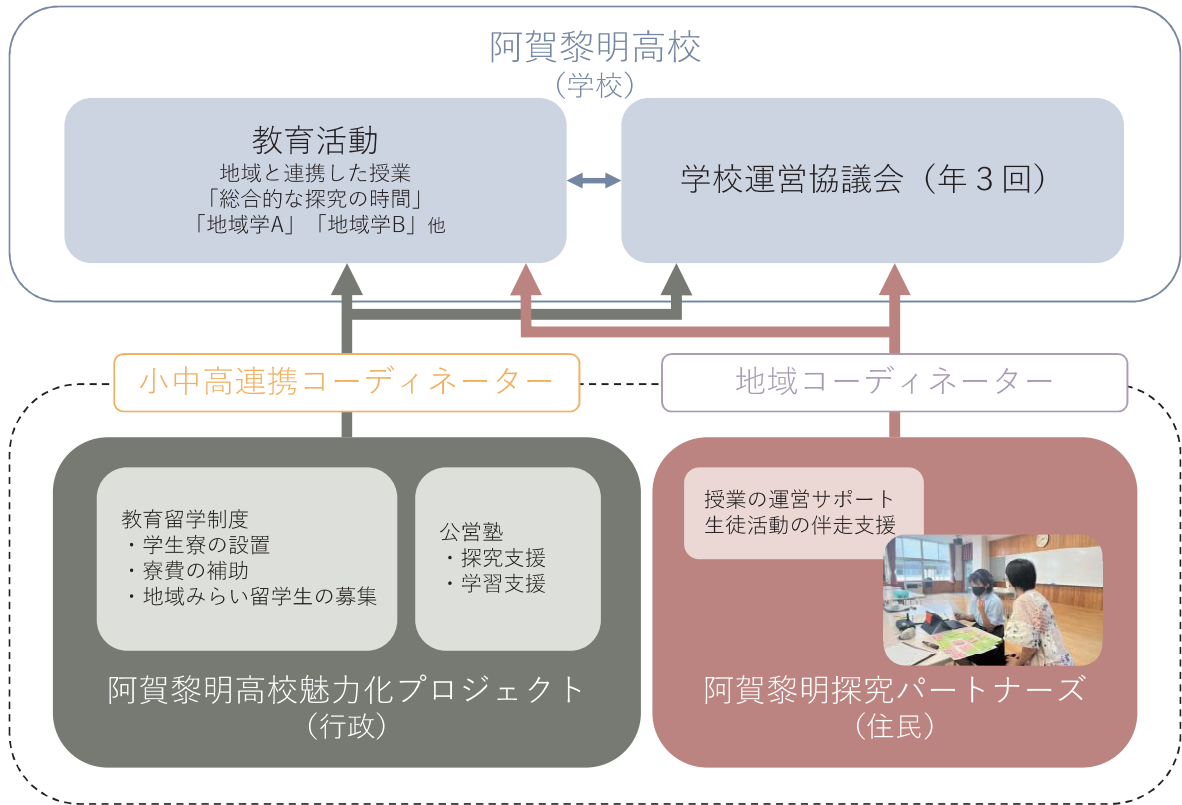
令和2年 阿賀黎明高校がコミュニティスクール指定

阿賀黎明探究パートナーズ発足

地域みらい留学生募集開始

令和3年 地域学にてパートナーズプロジェクト活動

学校と地域の連携・協働体制の全体像



※会議：魅力化PJTワーキンググループ月1／高校進路指導部と公営塾スタッフで週1／パートナーズは年度始終と適宜開催

阿賀黎明探究パートナーズ

高校の教育活動に協力する有志団体

▼令和2年4月発足

▼地域の大人約20名



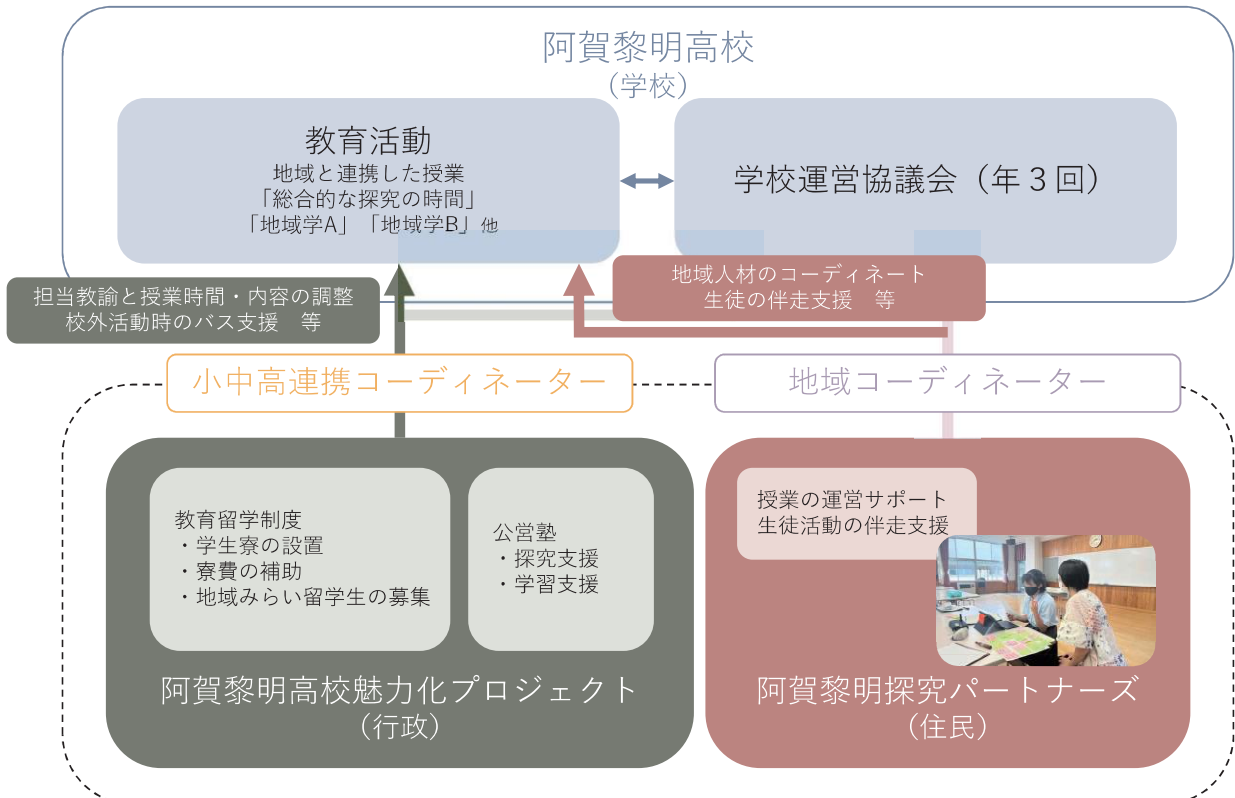
酒造会社社長さん
ジェラート屋さん
社会教育委員さん など

合言葉は「子どもと共に大人も学ぶ」

具体的な取り組み例① ー地域学Aにおけるパートナーズプロジェクト活動



具体的な取り組み例① ー地域学Aにおけるパートナーズプロジェクト活動



具体的な取り組み例①

ー地域学Aにおけるパートナーズプロジェクト活動

生徒が対話を経て見つけた「やってみたい」を

リアルな地域社会で**実験する機会**となる

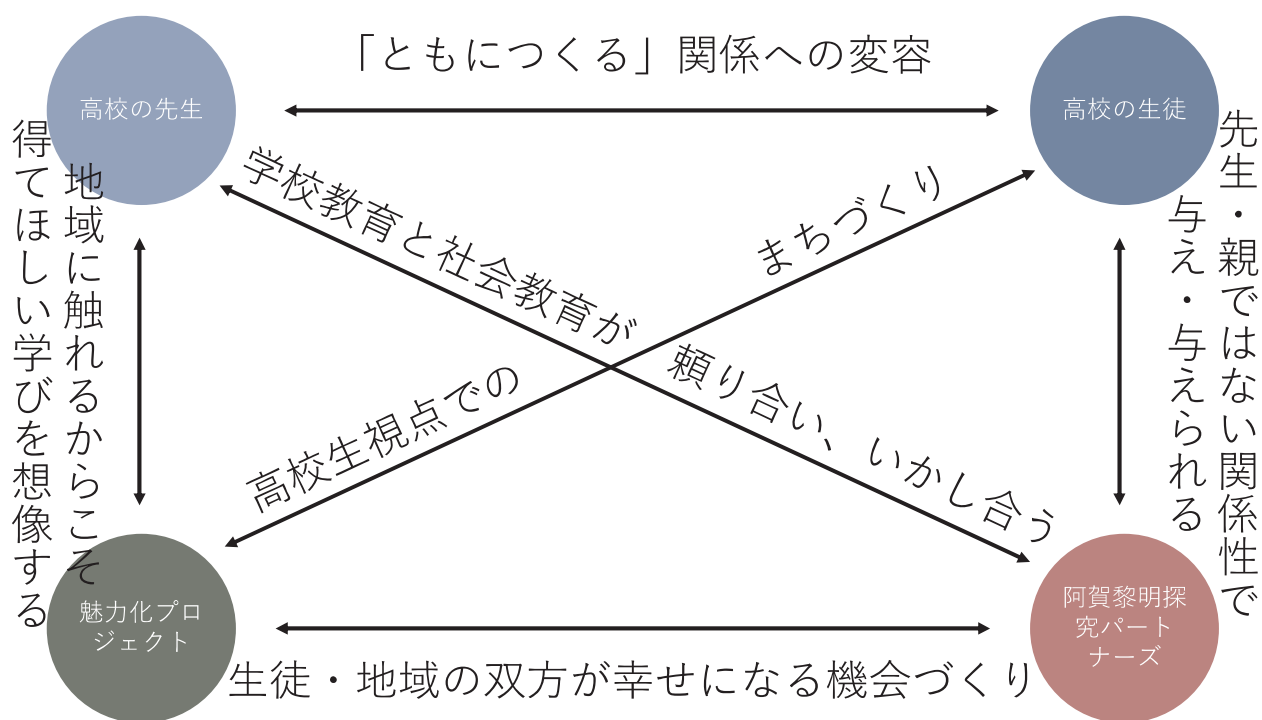
「生徒の**モチベーション**が高まる授業をつくるには？」

と地域の大人が**本気で悩み、振り返る**

地域にも必要な**一歩目**を**高校生と踏み出す**

具体的な取り組み例①

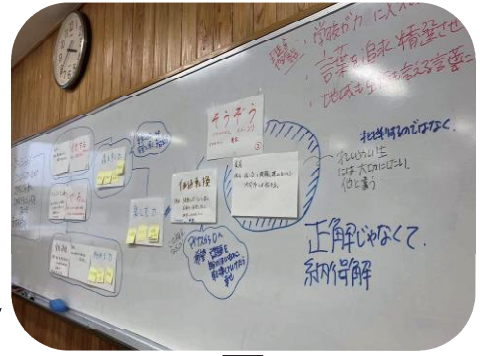
ー地域学Aにおけるパートナーズプロジェクト活動



具体的な取り組み例② —スクールポリシー策定協議



令和5年1月学校運営協議会



令和5年2月生徒会での協議



令和5年10月学校運営協議会

学校運営協議会委員
(中学校校長)

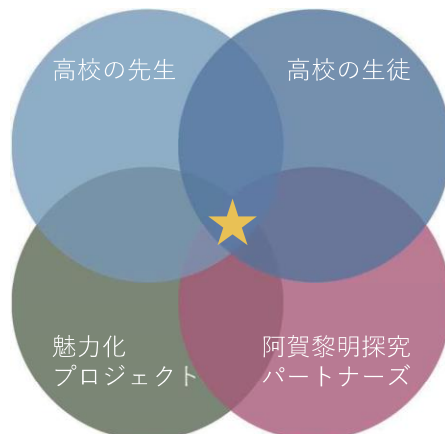
!	👤	📅	📊	🔍	🗨️
🕒	🌟	🏠	✈️	🏢	📱
🌍	🗑️	👥	🔄	🚶	👤

スクールポリシー策定ワークショップ	
集積:	
カード名	
理由	

具体的な取り組み例② —スクールポリシー策定協議

育てたい生徒像を
学校・地域・行政それぞれの立場から議論できた

高校の教育活動に関わる上で**大事にしたいこと**を
それぞれの立場から見つめ直す機会に



まとめ・今後に向けて

- 生徒の「やってみたい」を地域で実現しやすくする体制をどのようにつくるか？

→資金、責任、**校内外の理解**

- 「巻き込まれてみたい」をどう広げていくか？

→**誰にとって魅力的な**（特色のある）学校でありたいか？

今日みなさんと一緒に考えたい問い

学校と地域の協働は

なぜ必要??

この町で唯一の高校が少子化の影響により生徒数は段々と減少して
ます。そんな中少しでも我々が関わる事で地域の良さを知って貰い、
例えば一旦地域から離れたとしても戻ってこの
地域の活性化に寄与してもらいたい一心でやって
います。そしてこの大事な故郷を後世に残す為に若い人達に受け繋
いで行く事をモチベーションにしています

PTA活動を通して感じた違和感から 教育の現場を大人
の都合ではなく子ども主体にしたいという願い
と 阿賀町の素晴らしさを実感しながら成長し一人ひとりが
かけがえのない魅力を持った個人として 尊
い存在であることを伝えられる大人で在りたい
という思いをモチベーションにしております

地域に高校がなくなることによって、今まで以上に子育て世代が地
元を離れることにつながり、多くの経済的損失が生まれてしまう。
なんとか食い止めたいとおもって活動をしている。高校がもっ
と良くなり、活性化することで地域も良くなり、良い町になると
思っています

阿賀黎明高校の存続について必要性を感じている。その中で地域
住民からの存続に向けての熱が高まることが必
須である。パートナーズ組織を通じて内側の熱を高める働きかけや
アイデア、連携などが培われていくと考えるので、そこに参加し
ている

私は人のために頑張ると続かないので、「自分のため」と考えます。
パートナーズの合言葉「子どもと共に大人も学ぶ」。まさにその通り
で、高校に関わることでたくさんの出会いと
学びがあり、自身の成長に繋がっています。
また、高校の発展＝阿賀町の発展。自分が住む町が潤うことによっ
て自身の生活も心も豊かなものになると思います。子ども達の笑顔
と成長も見るだけで幸せになります。この気持ちをモチベーション
にしています

教育を基点としたまちづくり
大人も変わり続けるきっかけ

ご清聴ありがとうございました



新潟の未来をSaGaSuプロジェクト

令和3年度～令和5年度 文部科学省委託事業 COREハイスクール・ネットワーク構想 地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築：COLlaborative REgional High-school Network



ICTを活用した遠隔授業等の学校間連携や、地域と連携・協働した教育活動をとおして、離島・中山間地域の教育環境充実に向けて取り組んできました。

*SaGaSu委員生徒作成のロゴマーク
*Sado(佐渡)JaGa(阿賀)Suiko(新潟翠江)

遠隔授業

～学校のあり方をSaGaSu～

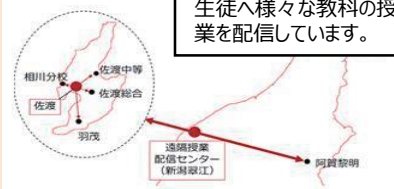
実験の授業では、タブレットを用いて、動画や写真を共有しました。



受信側

1人1台タブレット端末をフル活用し、同時双方向型の授業を展開しています。複数校で同時に学習する授業や、VRを活用した授業にも取り組んでいます。

新潟翠江高校や佐渡高校から、ネットワーク校の生徒へ様々な教科の授業を配信しています。



書道の遠隔授業では、書画カメラを用いて手元の様子を伝えています。



配信側

学校間交流

～生徒が自分をSaGaSu～



SaGaSuゼミ

オンラインで他校生徒へ探究活動を発表し、質疑応答も活発に行いました。

ネットワーク校の生徒同士が、オンラインや対面で、学校の枠を超えて、探究活動の成果を発表する機会を設けています。



SaGaSu委員会

オンラインで探究活動に取り組んできた仲間と、対面で発表することで、絆が深まりました。

地域連携協働

～地域の未来をSaGaSu～



阿賀町

阿賀町の課題解決に向けて、地域の方と一緒に意見を出し合いました。

「阿賀黎明魅力化プロジェクト」や「佐渡教育コンソーシアム」からの支援により、地域と連携・協働した取組を進めています。



佐渡市

高校生議会で、地域の課題解決に向けて、議場で代表質問に挑戦しました。

最終事業報告会（シンポジウム） R5.11.14 於：朱鷺メッセ



約200名の前で、3年間の生徒間交流の取組をSaGaSu委員生徒が堂々と発表しました。



生徒、先生、地域の方などさまざまな立場から、新潟県の今後の教育について、議論を交わしました。

本プロジェクトで培ってきた成果を、本県の教育環境の質の維持と向上、各校の教育活動の改善、充実につなげていきます。

【問い合わせ先】

新潟県教育庁 高等学校教育課 企画振興係 TEL：025-280-5614 メール：ngt500050@pref.niigata.lg.jp



新潟の未来を SaGaSu プロジェクト

佐渡 Sado
阿賀 A ga
翠江 Suikou



中学校卒業者の減少が続き、高等学校等の小規模化が進んでいます

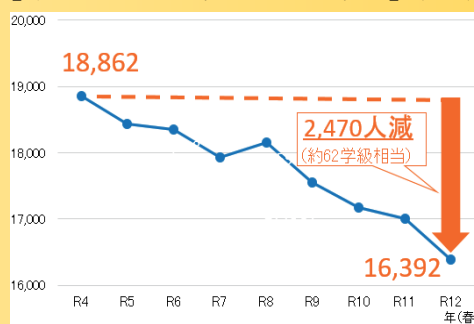
【高等学校等(全日制・定時制)の募集学級数】

	H24年度 (2012)	R4年度 (2022)
3学級 以下	26校 (28%)	38校 (43%)
4学級 以上	66校 (72%)	50校 (57%)

ICTを活用した学校間連携と地域との連携・協働によるネットワークを形成

スケールメリットを生かして学校規模や地理的条件に左右されない「新潟モデル」の教育を構築していきます

【今後の中学校卒業者数の推移】(推計)



※令和3年5月1日現在の高等学校教育課調査による

同時双方向型の「遠隔授業」の実施

遠隔授業配信センターに位置づけた新潟翠江高等学校(通信制課程)を中心に、ネットワーク校の生徒へ様々な教科の授業を配信しています。



各専門教科の先生たちが、様々な機器を効果的に操作しながら、深い学びにつながる授業を実施しています。



授業を配信する先生は、受信側の職員と連携して、円滑に授業を実施し、生徒の学びをきめ細かに支援しています。



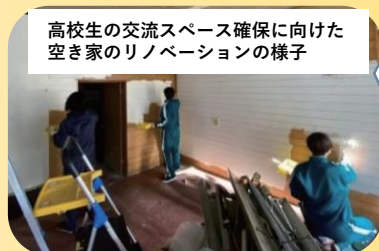
遠隔授業ではタブレット端末が必需品です。遠くにいる先生がまるで生徒一人一人の側にいるかのように、個々の理解に応じた学びの支援を行なっています。

今後は、他校生徒と協働的に学べたり、VRを活用した遠隔授業も実施していきます

探究学習を中心とした生徒間交流、地域との連携・協働



ネットワーク校の生徒同士が、対面やオンラインで、探究学習の成果を合同で発表する機会を設けています。



高校生の交流スペース確保に向けた空き家のリノベーションの様子

地域の魅力発信や課題解決に向けた実践的活動を、地域の方々と一緒に行っています。



子育て親とのパネルディスカッションの様子

今後は、ネットワーク校生徒による共同課題研究や、地域の魅力を国内外に発信する取組を行っていきます

【問い合わせ先】新潟県教育庁 高等学校教育課 企画振興係
TEL:025-280-5614 メール:nigt500050@pref.niigata.lg.jp

新潟県

教育月報 3

第874号

令和5年3月1日発行

編集人、発行人

新潟県教育委員会

<今月号の記事>

	対象校種
1: 教育ニュースライン	P 1 高校
2: 新潟県高校生 理数トップセミナーについて	P 2 高校
3: 令和4年度医学科合格のための学力向上スタートダッシュ講座について	P 3 高校
4: インフォメーション	P 4-6 全種

教育ニュースライン

県教育に関する最新ニュースをお知らせします。

「遠隔授業」の研究協議会を開催しました

県教育委員会の「新潟の未来を SaGaSu プロジェクト」が、文部科学省委託事業「地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築事業（CORE ハイスクール・ネットワーク構想）」に指定されており、現在、ICTを活用した遠隔授業等の調査研究に取り組んでいます。

令和5年2月8日(水)には、遠隔授業の取組を周知し、その成果や課題等について共有を図るため、標記協議会をオンラインで開催しました。

協議会では、佐渡高校から羽茂高校への授業配信と、新潟翠江高校から阿賀黎明高校への授業配信において、ともに「化学基礎」の授業を公開しました。

公開授業後の研究協議会において、配信側教員からは、「1年間の授業をとおして、機器の操作に慣れ、アプリ等を活用しながら、工夫した授業づくりを行うことができた。」との成果の声が聞かれ、受信側職員からは、生徒への対応や、実験・実習における授業の補助についての課題の声も聞かれました。また、受信側生徒からは、「対面授業とほぼ変わらず取り組んでいる。」「自分たちで実験や実習をする機会も増

えるといい。」など、率直な意見が聞かれました。

授業を参観した京都大学大学院教育学研究科の石井英真准教授及び信州大学教育学部の東原義訓名誉教授からは、「遠隔授業への取組が、生徒主体の授業づくりを見直すきっかけとなる。」「機械の操作はクリアしているので、今後はより一層、授業の質を向上させていくことが目標となる。」等の講評・助言がありました。また、参加者からは、「自校のICTを活用した授業改善にも役立つ内容だった。」との感想が多く寄せられました。



【公開授業のオンライン参観画面】

(新潟翠江高校から阿賀黎明高校へ配信)

- ①: 配信側教員のiPad画面
(生徒の振り返りシートを確認)
- ②: 配信側教員の授業の様子
- ③: 受信側教室の様子
- ④: 受信側生徒の手元の様子
- ⑤: 受信側教室の大型モニター画

新潟の未来をSaGaSuプロジェクト

高等学校教育課

はじめに

本県では、令和3年度より、離島・中山間地域の教育環境の充実に向け、文部科学省委託事業「COREハイスクール・ネットワーク構想」に採択された「新潟の未来をSaGaSuプロジェクト」に取り組んでいます。佐渡市内の5校、阿賀黎明高校、新潟翠江高校の計7校をネットワーク化し、「同時双方向型の遠隔授業」「生徒交流を中心とした学校間連携」「学校と地域との連携・協働」を3つの柱として、これまで進めてきた内容を紹介します。

〔ネットワーク構成校（7校）〕

- 新潟翠江高等学校（通信制課程）
- 阿賀黎明高等学校
- 佐渡高等学校
- 佐渡高等学校相川分校
- 羽茂高等学校
- 佐渡総合高等学校
- 佐渡中等教育学校

〔「SaGaSu」に込められた思い〕

- ☆ Sado（佐渡）とAga（阿賀）とSuikou（新潟翠江）の構成校7校をネットワークでつないだ取組で、新潟の新たな高校教育の未来を拓く。
- ☆ ICTを活用した遠隔授業等の学校間連携や地域と連携・協働した教育活動で、
 - ・「自分を探す（生徒の未来）」
 - ・「学校のあり方を探す（スクール・ミッションとスクール・ポリシー）」
 - ・「地域の未来を探す（地域人材の育成）」

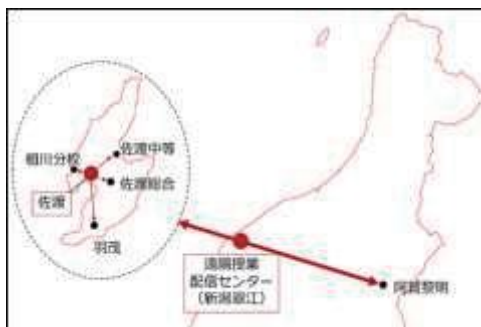


【SaGaSuプロジェクトのロゴマーク】

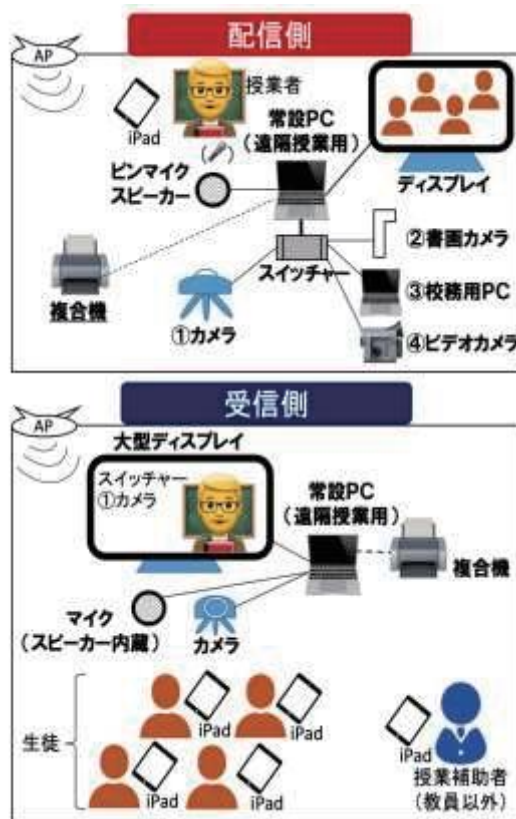
遠隔授業

1 遠隔授業の本格実施

令和3年度に遠隔授業システムを構築し、試行授業を実施した上で、今年度は遠隔授業の本格実施として、単位認定を伴う通年の授業を8科目に渡り実施しています。



【遠隔授業の配信・受信の関係図】



【遠隔授業のシステム構成 概要図】

＜令和4年度の遠隔授業実施科目＞

配信校	受信校	配信科目
新潟翠江高校	阿賀黎明高校	地理B
新潟翠江高校	阿賀黎明高校	化学基礎
新潟翠江高校	佐渡高校相川分校	地理A
新潟翠江高校	羽茂高校	古典B
新潟翠江高校	羽茂高校	セミナー日本史
新潟翠江高校	佐渡総合高校	政治・経済
新潟翠江高校	佐渡中等教育学校	数学B
佐渡高校	羽茂高校	化学基礎
佐渡総合高校	羽茂高校	ソーシャルデザイン(*)

*…学校設定科目 年間10回程度の配信



【新潟翠江高校からの配信の様子】



【阿賀黎明高校での受信の様子】

県教育委員会では、定期的に授業参観や関係校へのヒアリング、そして、生徒対象のアンケート調査を実施し、生徒にとってよりよい遠隔授業を目指して、成果と課題を検証しています。

〔R4年7月実施アンケート結果〕

対象：遠隔授業対象生徒87名

回答：77名回答（回答率88.5%）

- 大型ディスプレイに表示される先生の映像や資料は見やすかったですか。

回答項目	回答数(割合)
大変そう思う	36(46.8%)
そう思う	35(45.5%)
あまり思わない	6(7.7%)
全く思わない	0(0.0%)

- タブレット端末の操作はスムーズに行うことができましたか。

回答項目	回答数(割合)
大変そう思う	33(42.9%)
そう思う	32(41.6%)
あまり思わない	12(15.5%)
全く思わない	0(0.0%)

- 通常の授業と同じくらい（またはそれ以上に）、授業内容を理解できましたか。

回答項目	回答数(割合)
大変そう思う	28(36.4%)
そう思う	37(48.1%)
あまり思わない	10(13.0%)
全く思わない	2(2.5%)

- 通常の授業と同じくらい（またはそれ以上に）、意欲的に参加することができましたか。

回答項目	回答数(割合)
大変そう思う	34(44.2%)
そう思う	39(50.6%)
あまり思わない	4(5.2%)
全く思わない	0(0.0%)

〔主な意見（プラス面）〕

- ・資料が見やすく、意欲的に取り組むことができる。
- ・資料がタブレットに残り、後で見返しやす。
- ・動画での説明や、班になっての活動などがあり、記憶に残りやすい。

〔主な意見（マイナス面）〕

- ・分からないことをその場ですぐに質問することができない。
- ・コミュニケーションが少しとりにくい。

これまでの遠隔授業の取組において見てきた成果と課題は以下のとおりです。

〔成果〕

- 配信側教員の機器操作、受信生徒のタブレット端末・アプリ操作の習熟度が高まり、大きなトラブルがなく円滑に授業を行うことができている。
- 配信側教員がデジタル教材の活用等、工夫を重ねながら授業を行っており、受講生徒からの評価が高い。

〔課題〕

- 受講生徒が、配信教員への問いかけや配信教員による質問への回答にしづらさを感じているため、マイク配置の工夫や、チャット等の文字情報を活用することなど、システムの改善を図る必要がある。
- 授業中の生徒への指導や、実験・実習を伴う授業での安全確保等の観点から、受信側職員のサポート体制については、慎重に調査研究を進める必要がある。

2 放課後オンライン講習の実施

令和3年度に引き続き、ネットワーク校の生徒を対象とした放課後オンライン講習も実施しています。

〔放課後オンライン講習の内容〕

配信	ネットワーク校教員
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 模擬試験等を活用した大学進学対策 ○ 英語検定合格を目指した問題解説及び面接練習
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 双方向のライブ配信形式 ○ 1人1台端末を活用して、自宅での受講も可能

生徒交流を中心とした学校間連携

1 SaGaSuゼミ（合同探究発表会）

10月下旬には、ネットワーク校の2年生（中等教育学校5年生）全員約300人がテ-

マ別のグループに分かれ、オンライン上で、探究活動等の取組を発表する生徒間交流を行いました。

〔発表テーマ例〕

- ・佐渡の観光業の活性化
- ・加茂湖の植生について
- ・阿賀町の看護と保育について知る
- ・人を超越するAIができるのか
- ・肩甲骨の柔らかさとスポーツとの関係

佐渡高校の生徒が、ファシリテーターとなり、各グループの進行役を務めました。1人5分で発表し、質疑応答も行われました。生徒は他校の生徒から刺激を受けた様子であり、今後の探究学習を深める上で有意義な機会となりました。



【佐渡中等教育学校の参加生徒の様子】

〔事後アンケート結果〕

これまでの探究学習や今回の発表会を通じて身に付けたい力は何ですか。（複数回答・上位3項目）

- 1 自分の意見を分かりやすく伝える力 (45.9%)
- 2 物事に進んで取り組む力 (43.3%)
- 3 目的を設定して確実に実行する力 (31.3%)

2 SaGaSu委員会

学校間連携の取組として、ネットワーク校6校の生徒会執行部などの代表生徒で構成するSaGaSu委員会も活動しています。Google Classroomによる月1回のオンラインミーティングを実施し、学校の枠を超え、地域の伝統芸能に関する探究活動、県外生徒との交流計画、委員会の取組を発信する活動などに取

り組んでいます。

10月には、本県と同じくCOREハイスクール・ネットワーク構想事業に取り組んでいる広島県の離島・中山間地域の学校6校とオンラインで交流しました。

広島県と新潟県の学校がペアになり、各校の学校の特徴や探究活動等の取組を相互に紹介し、交流の一步を踏み出しました。

学校と地域との連携・協働

1 佐渡教育コンソーシアム

佐渡市では、地元県立高校等と連携・協働しながら、地域を支える人材の育成や、地域活性化に取り組むため、令和3年3月に、佐渡教育コンソーシアムを計14団体で構築しました。現在は、学校の探究活動におけるコーディネートや県外募集の寮整備等、様々な教育活動への支援をいただいています。

令和4年8月に開催された佐渡市高校生議会では、佐渡市内4校が参加し、佐渡市の課題解決に向けた質問やSDGsの17の目標に関連づけた政策提案を行いました。観光資源の情報発信や商店街の再生や活性化など、地元の課題解決について深く考える契機となりました。



【佐渡市高校生議会の様子】

2 阿賀黎明魅力化プロジェクト

阿賀町は、地元県立高校の魅力化を図ることが町の活性化に資すると考え、平成28年度から「阿賀黎明魅力化プロジェクト」を開始し、令和2年度には、県教育委員会が阿賀黎明高校をコミュニティ・スクールに指定して、地域が学校を支える体制を構築しました。現在は、公営塾「黎明学舎」の運営や、県外生徒募集の支援、総合的な探究の時間や学校設

定科目「地域学」の支援を、地域の団体・住民等で構成された「阿賀黎明探究パートナーズ」が中心となって行っています。

令和4年10月の文化祭では、地域住民と協力した催しを実施し、多くの地元住民や、他県の中学生も来校するなど、学校や地域の魅力を発信する良い機会となりました。これらの取組は、学校の魅力化・特色化とともに、地域の活性化にもつながるものと考えています。



【阿賀黎明高校文化祭の様子】



【学校運営協議会での熟議の様子】

おわりに

「新潟の未来をSaGaSuプロジェクト」では、今後も配信・受信体制の整備や学校間連携の拡充、地域協働コンソーシアムの普及・啓発等、新たな「新潟モデル」の構築に向けて取り組んでいきます。

本県でも、急速な人口減少に伴う高校等の小規模化が大きな課題となっています。本プロジェクトにより、離島や中山間地域をはじめとする小規模校の教育の充実のみならず、今後のICTの更なる進展を見据えながら、新潟県内の全ての児童生徒にとって、より良い教育が実現できるよう、本研究を進めてまいります。



【お問い合わせ】
高等学校教育課 企画振興係
電話 025-280-5614

【県webサイト】



高等学校における遠隔教育の推進について

高等学校教育課

はじめに

1 遠隔教育とは

遠隔教育とは、遠隔教育システムを活用した同時双方向型で行う教育のことで、次の12パターンに類型化できます。

合同授業型	①遠隔交流学习 ②遠隔合同授業
教師支援型	③ALTとつないだ遠隔学習 ④専門家とつないだ遠隔学習 ⑤免許外教科担任を支援する遠隔授業
⑥教科・科目充実型の遠隔授業	
その他	⑦日本語指導が必要な児童生徒を支援する遠隔教育 ⑧児童生徒の個々の理解状況に応じて支援する遠隔教育 ⑨不登校の児童生徒を支援する遠隔教育 ⑩病気療養中の児童生徒を支援する遠隔教育 ⑪家庭学習を支援するオンライン教育 ⑫遠隔教員研修

*「遠隔教育システム活用ガイドブック第3版」（文部科学省）を参考に作成

平成27年4月より、高等学校の全日制・定時制課程における遠隔授業（教科・科目充実型）が正規の授業として制度化され、対面により行う授業と同等の教育効果を有するとき、受信側に当該教科の免許状を持った教員がいなくても、同時双方向型の遠隔授業を行うことができることとなりました。

これにより、先進的な内容の学校設定科目や相当免許状を有する教師が少ない科目の開設、小規模校等における幅広い選択科目の

開設等、生徒の多様な科目選択が可能となり、生徒の学習機会の充実を図ることができるようになりました。

なお、遠隔授業（教科・科目充実型）を行う際には、次の留意事項があります。

生徒数	同時に授業を受ける生徒数は、原則として40人以下とすること。
配信側	・受信側の高等学校等の教員の身分を有すること。 ・学校種や教科等に応じた相当の免許状を有すること。
受信側	原則として教員を配置すべきであること。
学習評価	単位認定等の評価は、配信側の教員が行うべきであること。（受信側教員はそれに協力）
その他	・遠隔授業を行う教科・科目等の特質に応じ、対面により行う授業を相当の時間数行うこと。 ・遠隔教育による修得単位数は36単位を上限とすること。

2 「新潟の未来をSaGaSuプロジェクト」

文部科学省は、令和3年度から令和5年度の3年間、離島・中山間地域の高等学校等における教育環境の充実等を目的とした「COREハイスクールネットワーク構想」事業を実施することとしており、本県教育委員会の「新潟の未来をSaGaSuプロジェクト」が採択されました。

このプロジェクトは、Sado（佐渡）とAga（阿賀）とSuikou（新潟翠江）における計7校のネットワーク校の取組により、新潟の高校教育の未来を拓く構想であり、次の内容を実施します。

①遠隔授業を実施し、生徒のニーズに応じた

多様な教科・科目の開設を行い、離島・中山間地域の教育環境の充実を図る。

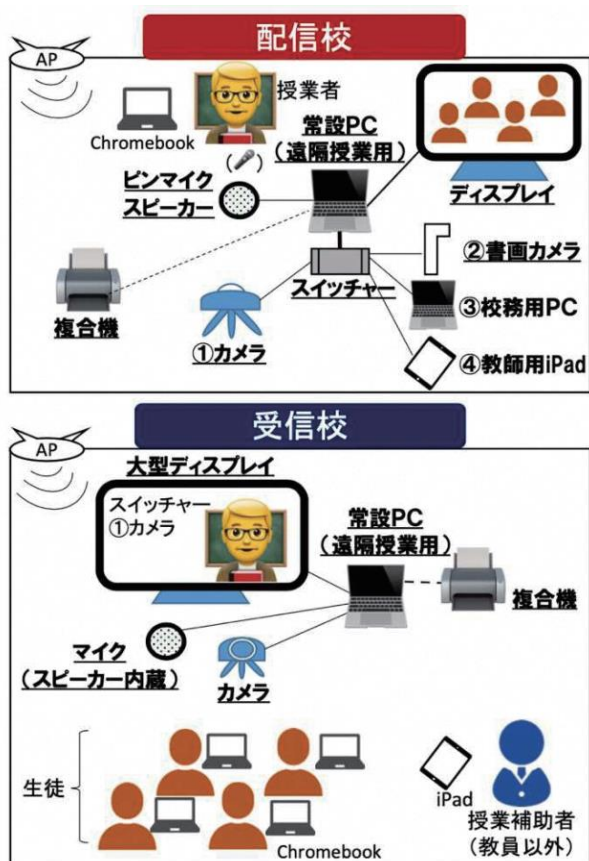
②佐渡市、阿賀町両自治体が推進するキャリア教育を基盤として、地域と一体となって有為な地域人材を育成する。

このうち、11月から始まった遠隔授業やその関連の取組について紹介します。

本県の遠隔教育の取組と成果

1 遠隔授業の環境整備

本県では、遠隔CIO（最高情報責任者）として採用した新潟大学教職大学院の大橋英喜特任教授や、5名の学識経験者で構成された指導委員会の指導、助言を踏まえ、ネットワーク校7校に、遠隔授業の実施に必要な機器を設置して、次の図のような遠隔授業の環境を整備しました。



【本県の遠隔授業システム】

その主な特徴は、次の2点です。

(1) パソコン同士をGoogle Meetで接続
配信側と受信側は、ビデオ会議ツールであ

るGoogle Meetを利用し、ディスプレイを介して対面する。また、配信側は、デジタルスイッチャーに接続された各種機器（書画カメラ等）の映像を、受信側の大型ディスプレイに効果的に投影することができる。

(2) 1人1台端末環境の活用

配信側と受信側に1人1台のタブレット端末を用意し（*）、Google Classroomで接続することで、配信側タブレットとの画面共有や、課題の送受信、Googleのアプリを活用した協働的な学びや個別最適な学びが可能となります。

*…令和3年度は、Googleから貸与されたノート型パソコン（Chromebook）を活用

なお、基本的に配信側は授業者のみ、受信側は生徒に加え授業補助者が必要となりますが、受信側の授業補助者については、文部科学省事業の特例として、教員以外の学校職員が担当できることとなっています。本県では、遠隔授業の今後のあり方を踏まえ、この特例を踏まえた調査研究も進める予定です。

2 遠隔授業の試行

今年度は、11月から、下記の学校で遠隔授業を試行的に実施しています。

配信校	受信校	配信科目
新潟翠江高校	阿賀黎明高校	化学基礎
佐渡高校	羽茂高校	化学基礎
佐渡総合高校	羽茂高校	ソーシャルデザイン(*)

* 学校設定科目



【新潟翠江高校からの配信の様子】



【阿賀黎明高校での受信の様子】

これまでの試行授業から出た様々な課題に対して、その解消に向けた取組や授業改善の必要が生じています。

- 大型ディスプレイ中心の授業では、席の場所によって見えにくい場合がある。また、タブレット端末の操作の習熟度が課題となっている。

⇒ タブレット端末の活用を常態化させて操作の習熟度を高めるとともに、効果的な活用について授業実践を積み重ねていく必要がある。

- 配信する授業が講義形式のままでは、「主体的・対話的で深い学び」の場とまらない。

⇒ クラウドを活用した事前学習・事後学習を踏まえて、授業の再構築（学習者中心の授業）が必要である。

- 遠隔授業を円滑に進める上では、受信教室のサポート体制が重要である。

⇒ 受信側の授業補助者の協力を得ながら、適切な学習評価（観点別評価）ができる体制を研究する必要がある。

3 オンライン補習の配信

遠隔授業の試行開始とともに、ネットワーク校の2年生（佐渡中等教育学校は5年生）のうち、大学進学希望の生徒を対象としたオンライン補習を実施しています。

配信	ネットワーク校教員
内容	○模試の復習解説 ○大学入試を見据えた問題解説及び質疑応答

方法	【動画受講生徒に対して】
	①解説動画のYouTube配信 ②上記①に関連した添削課題の配信（希望者）
	【ライブ受講生徒に対して】
	③上記①・②を踏まえて、双方向型フォローアップ

おわりに

令和3年度を取組を踏まえ、新潟翠江高校を中心に、ネットワーク校の一部科目に対して、通年で授業を配信し、遠隔授業による単位認定を実施する予定です。

理科、地理歴史・公民、芸術科目については専門教員による遠隔授業を、国語、数学、英語については習熟度別に対応した遠隔授業を実施するほか、新潟の魅力や最先端技術を踏まえた遠隔授業の可能性についても研究を重ねてまいります。

また、大学進学希望者向けに限らず、生徒の多様なニーズに応じたオンライン補習のあり方についても設計していく予定です。

今後、遠隔教育の推進を含めた「新潟の未来をSaGaSuプロジェクト」の取組によって、教育DXの加速を中心に、本県高等学校教育の様々な可能性の拡大に努めてまいります。



【新潟の未来をSaGaSuプロジェクトと
本県高等学校教育の今後の可能性】

令和5年度 文部科学省委託事業

「地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築事業
(CORE ハイスクール・ネットワーク構想)」調査研究報告書 (第3年次)

令和6年3月発行

新潟県教育庁 高等学校教育課

〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1